# 第42回県政世論調査結果報告書

令和元年8月実施

岐阜県

# 目　　次

Ⅰ　調査概要……1

１．１　調査の目的……1
１．２　調査の経緯……1
１．３　調査項目……1
１．４　調査の設計……1
１．５　回収結果……1
１．６　標本誤差……2
１．７　報告書の見方……2
１．８　対象者の属性……3

Ⅱ　調査結果……8

２．１　くらしについて……8
問１　くらしの前年比較……8
問１－２　くらしが苦しくなったと感じる理由……13
問２　くらしの満足度……19
問３　生活面での不安……24
問４　今後のくらしの中で重視していきたいこと……33
問５　生活に必要な情報の入手媒体……42
問６　現在住んでいる地域は住みやすいか……49
問６－２　住んでいる地域が住みやすいと感じる点……53
問６－３　住んでいる地域が住みにくいと感じる点……60
問７　今後も岐阜県に住み続けたいか……67
２．２　県の取組み全般について……71
問８　施策や事業についての情報の入手方法……71
問９　県事業への関心の有無……78
問９－２　県事業に関心がない理由……83
問１０　県の取組でよくやっていると思う分野、
努力が足りないと思う分野……87
問１１　重点的に進めるべきだと思う分野……101

# Ⅰ　調査概要

## １．１　調査の目的

県下全域の県民意識の把握とともに、県行政に対する県民の関心、満足度等を調査し、県政推進の基礎資料とする。

## １．２　調査の経緯

昭和４２年から実施、今回４２回目

※昭和 42 年～昭和 61 年：毎年実施　　昭和 63 年～平成 18 年：隔年実施　平成 20 年～：毎年実施

## １．３　調査項目

（１）くらしについて
（２）県の取組み全般について

## １．４　調査の設計

（１）調査地域　　岐阜県全域
（２）調査対象　　県内に居住する満１８歳以上の男女個人
（３）標本数　　３，０００人
（４）抽出方法　　層化二段無作為抽出法
（５）調査方法　　郵送法
（６）調査時期　　令和元年８月２３日～９月１２日
（７）調査実施機関　　株式会社　ゼンリン　岐阜営業所

## １．５　回収結果

| | 調査時期 | 標本数<br>(A) | 回収数<br>(B) | 有効回答数<br>(C) | 回収率<br>(B／A) | 有効回答率<br>(C／A) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第４２回<br>(令和元年度) | 令和元年<br>8月 | 3,０００ | 1,４９２ | 1,４８８ | ４９.7% | ４９.6% |
| 第４１回<br>(平成３０年度) | 平成３０年<br>7月 | 3,０００ | 1,４３７ | 1,４３６ | ４７.9% | ４７.9% |
| 第４０回<br>(平成２９年度) | 平成２９年<br>7月 | 3,０００ | 1,５２２ | 1,５２２ | ５０.7% | ５０.7% |

## １．６　標本誤差

調査結果には統計上多少の誤差が生じることがあるため、調査結果をみる場合、一定の幅を持たせてみる必要がある。その幅を標本誤差といい、以下の式で表される。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96\sqrt{\frac{P\,(100 - P)}{n}}$$

（ただし、$P$：回答比率　$n$：回答者数）

すなわち、標本誤差の幅は①回答者数（$n$）及び②回答比率（$P$）によって異なる。上式を用いた各回答者数、回答比率における標本誤差を以下の表に示す。

| | | $P$（回答比率　%） | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| n（回答者数　人） | | 5 又は 95 | 10 又は 90 | 15 又は 85 | 20 又は 80 | 25 又は 75 | 30 又は 70 | 35 又は 65 | 40 又は 60 | 45 又は 55 | 50 |
| 総数 | 1,488 | 1.1 | 1.5 | 1.8 | 2.0 | 2.2 | 2.3 | 2.4 | 2.5 | 2.5 | 2.5 |

（注）1. 層化を行った場合、誤差は上表より若干増減することもある。
2. この表の見方は以下のとおりである。
「ある設問の回答者数が 1,488 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.5%である。」

## １．７　報告書の見方

（１）比率は全てパーセントで表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、パーセントの合計が 100.0%にならない場合がある。

（２）基数となるべき実数は「n」（件数）として掲載した。したがって比率は、n を 100%として算出している。

（３）複数回答が可能な設問では総回答数を「N」として掲載した。その場合、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%を占めるのかという見方をする。したがって、各項目の比率の合計は、通常 100%を超える。

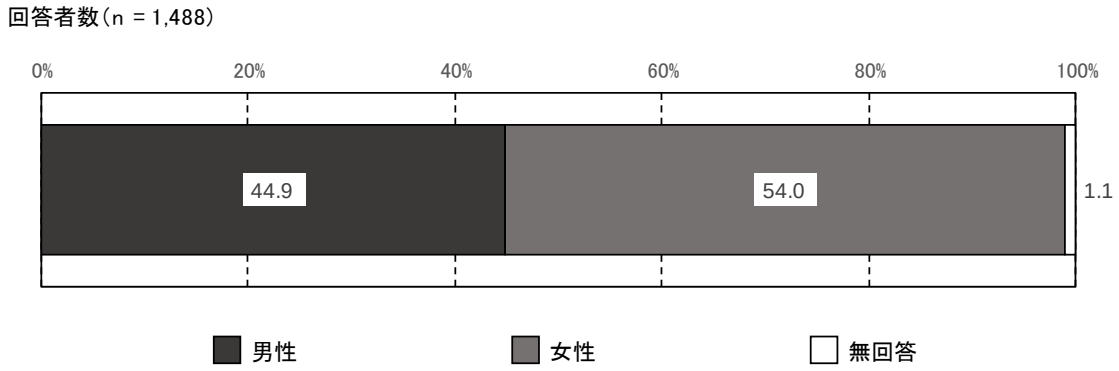
（４）本報告書中の表、グラフ及び本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略している場合がある。

（５）クロス集計において、年代別の 18～19 歳の属性はサンプル数が少なく、分析に堪えないことからグラフへの表示及び分析を行っていない。

## １．８　対象者の属性

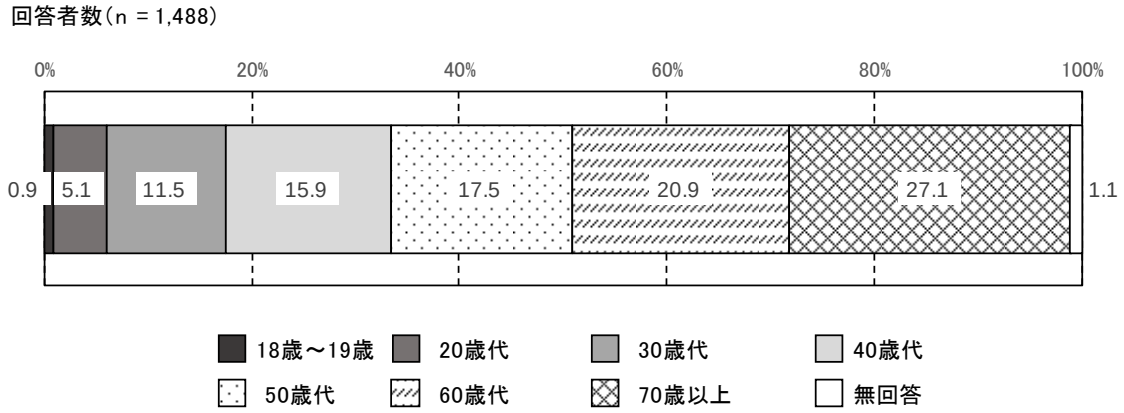
### Ｆ－１　性別

図 F-1　性別




### Ｆ－２　年代

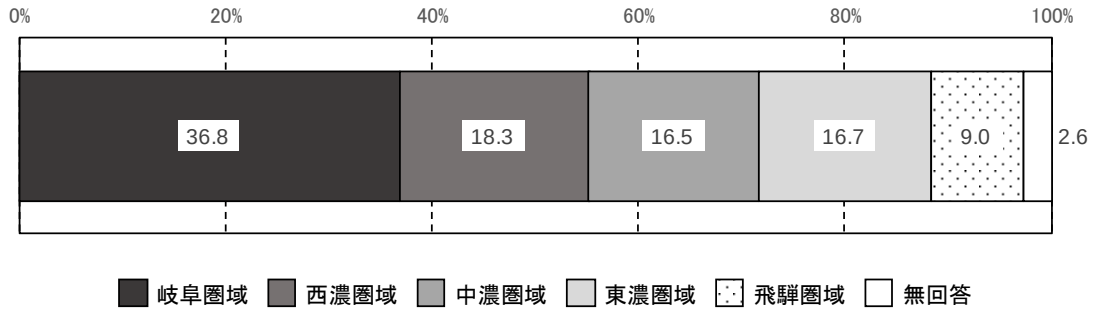
図 F-2　年代



## Ｆ－３　居住圏域（５分類）

図 F-3　居住圏域（5分類）

回答者数（n = 1,488）

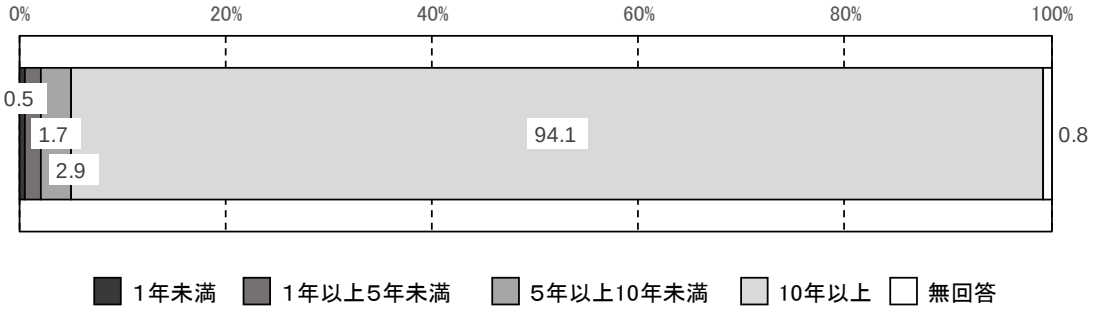



岐阜圏域（岐阜市・羽島市・各務原市・山県市・瑞穂市・本巣市・岐南町・笠松町・北方町）
西濃圏域（大垣市・海津市・養老町・垂井町・関ヶ原町・神戸町・輪之内町・安八町・揖斐川町・大野町・池田町）
中濃圏域（関市・美濃市・美濃加茂市・可児市・郡上市・坂祝町・富加町・川辺町・七宗町・八百津町・白川町・東白川村・御嵩町）
東濃圏域（多治見市・中津川市・瑞浪市・恵那市・土岐市）
飛騨圏域（高山市・飛騨市・下呂市・白川村）

## Ｆ－４　居住年数

図 F-4　居住年数

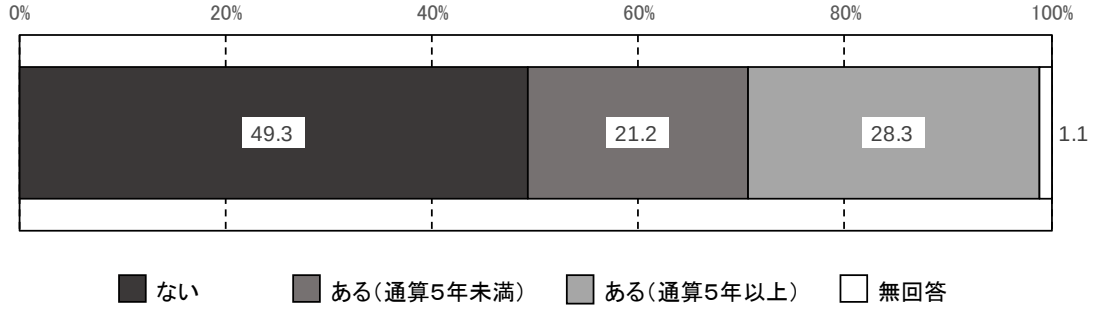
回答者数（n = 1,488）




## Ｆ－５　県外居住経験の有無

図 F-5　県外居住経験の有無

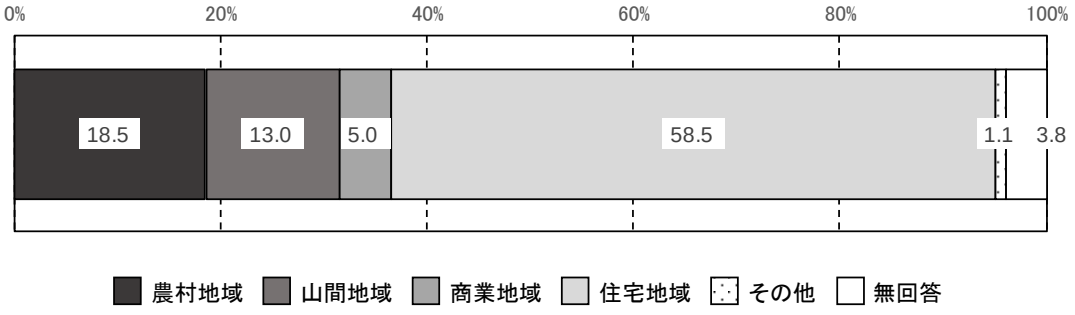
回答者数（n = 1,488）



## Ｆ－６　居住地周囲の環境

図 F-6　居住地周囲の環境

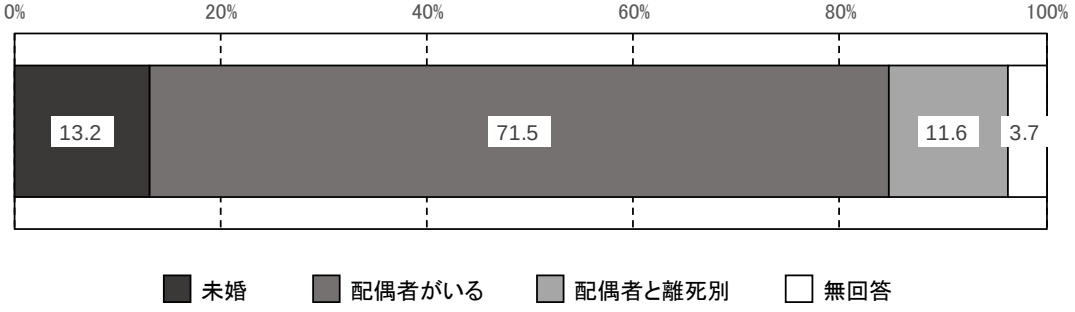
回答者数（n = 1,488）




## Ｆ－７　配偶者の有無

図 F-7　配偶者の有無

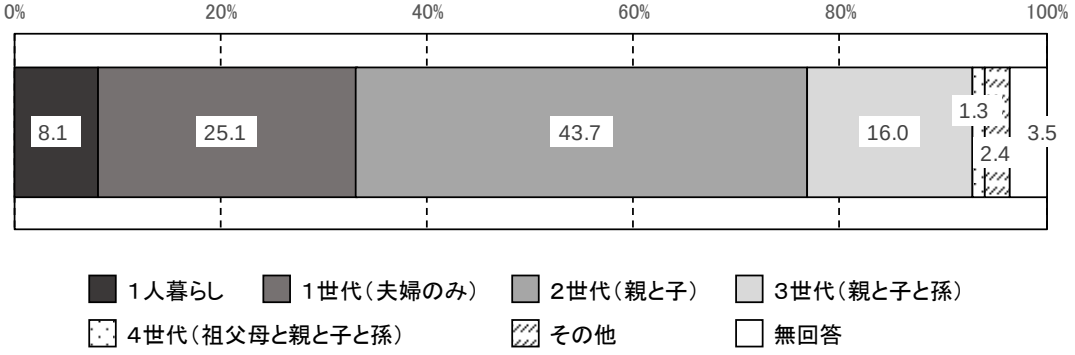
回答者数（n = 1,488）




## Ｆ－８　家族形態

図 F-8　家族形態

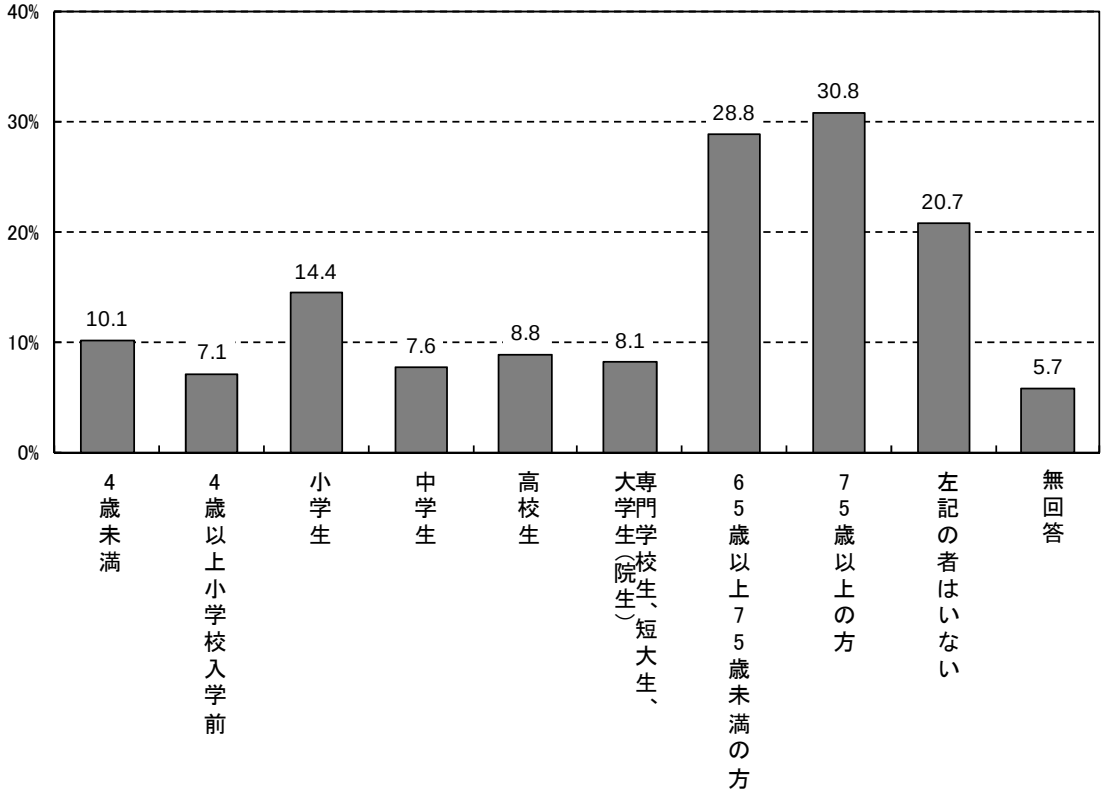
回答者数（n = 1,488）



## Ｆ－９　家族構成

図 F-9　家族構成

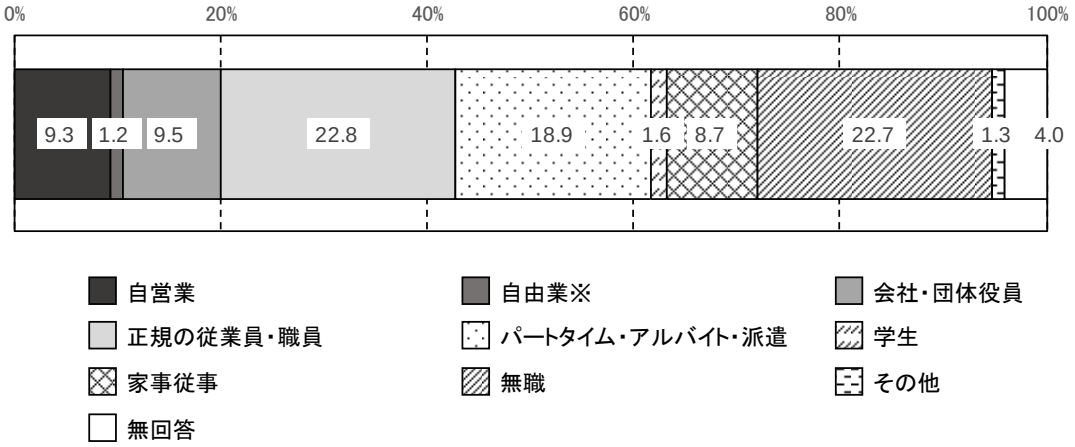
回答者数（n = 1,488）
総回答数（N = 2,114）




## Ｆ－１０　職業

図 F-10　職業

回答者数（n = 1,488）

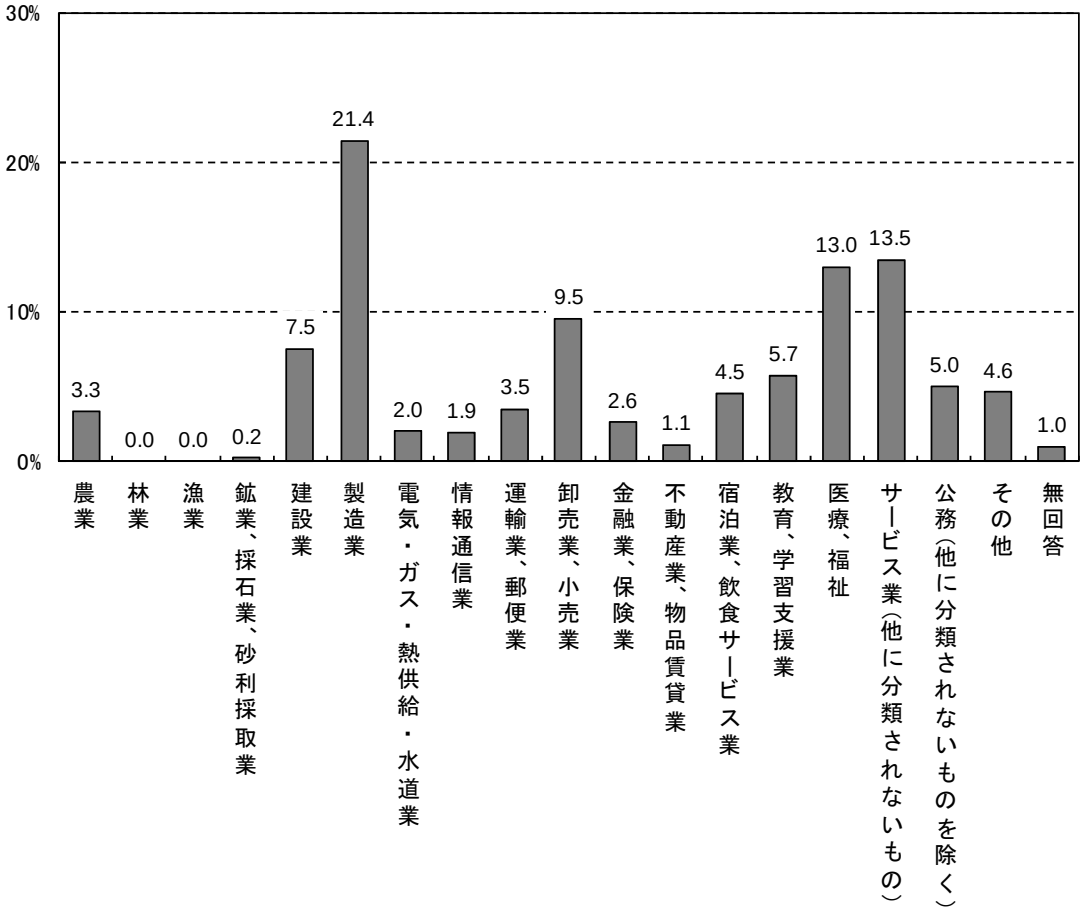



※ 自由業：一定の雇用関係によらず、勤務時間その他の制約を受けない職業で、作家、弁護士、医師、会計士、税理士、芸術家など

## Ｆ－１１　業種

図 F-11　業種

回答者数（n = 918）※

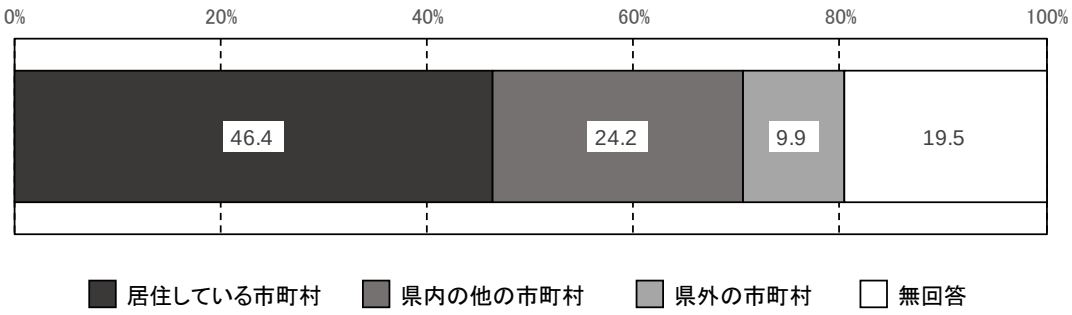



※「F-10　職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣と答えた方のみ

## Ｆ－１２　通勤、通学先

図 F-12　通勤、通学先

回答者数（n = 942）※




※「F-10　職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、学生と答えた方のみ

# Ⅱ　調査結果

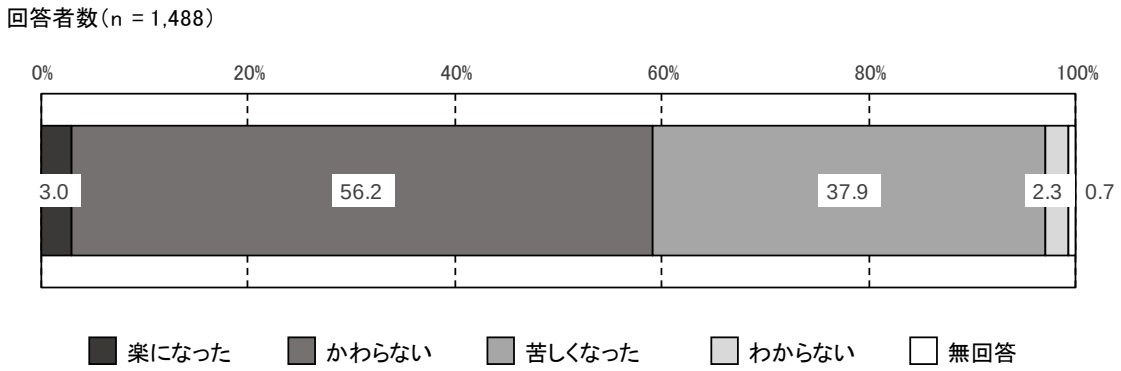
## 2．1　くらしについて

### 問１　くらしの前年比較

| |
|---|
| 問１　あなたやあなたの家庭のくらし向き（家計など）は、去年の今頃と比べてどうですか。（１つだけ） |

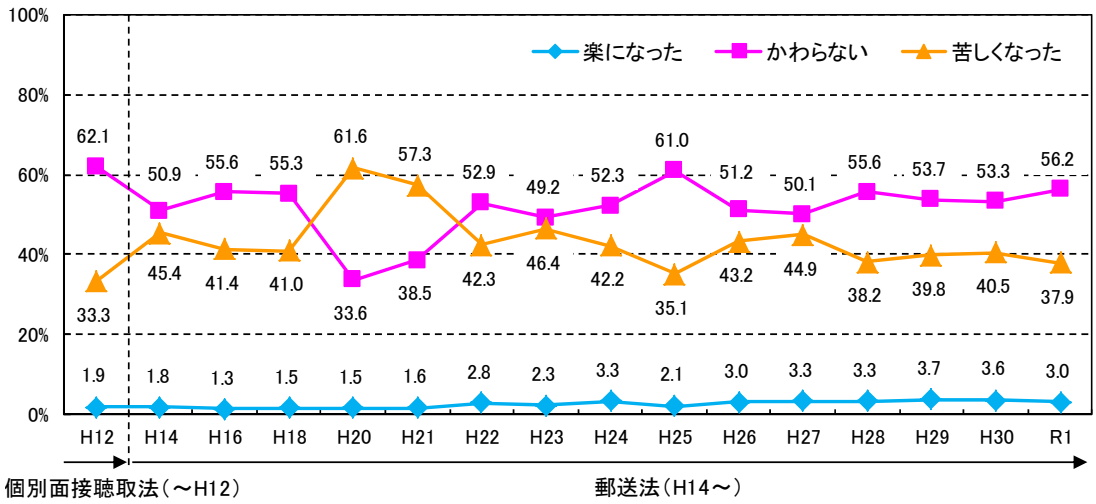
全体（図 1-1）でみると、「かわらない」が 56.2%と最も高く、次いで「苦しくなった」(37.9%)、「楽になった」(3.0%) の順となっている。

図 1-1　くらしの前年比較




経年変化（図 1-2）でみると、平成 18 年までは、「かわらない」が最も高くなっている。平成 20 年から平成 21 年では「苦しくなった」が最も高くなっており、平成 22 年からは再び「かわらない」が最も高くなっている。令和元年は、平成 30 年より「楽になった」が 0.6 ポイント低くなっており、「苦しくなった」が 2.6 ポイント低くなっている。

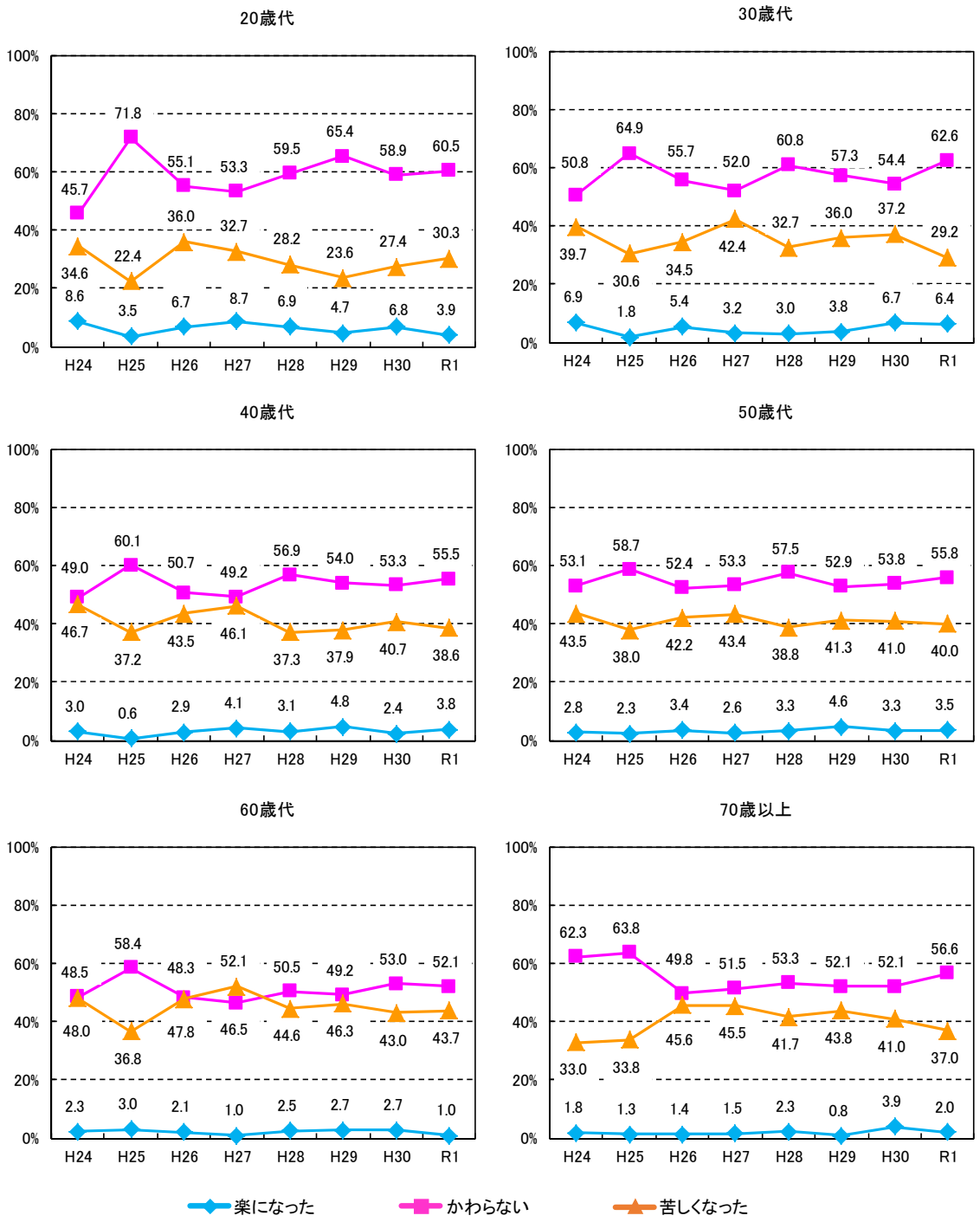
図 1-2 【経年変化】くらしの前年比較




※ 調査方法：平成 12 年度まで個別面接聴取法、平成 14 年度から郵送法

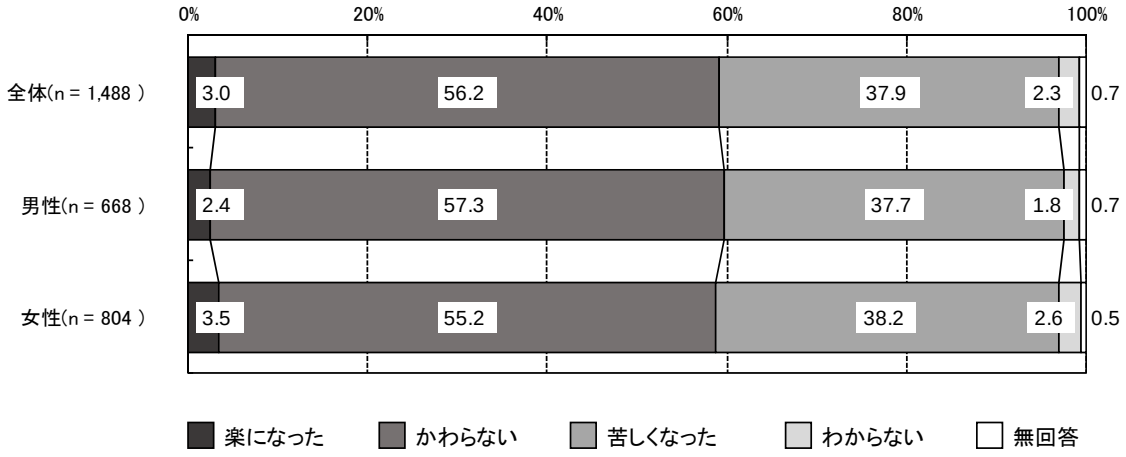
年代別の経年変化（図 1-3）でみると、令和元年では平成 30 年に比べ、40 歳代、50 歳代で「楽になった」のポイントが高くなっている。「苦しくなった」では 20 歳代、60 歳代のポイントが高くなっている。

図 1-3 【経年変化（年代別）】くらしの前年比較



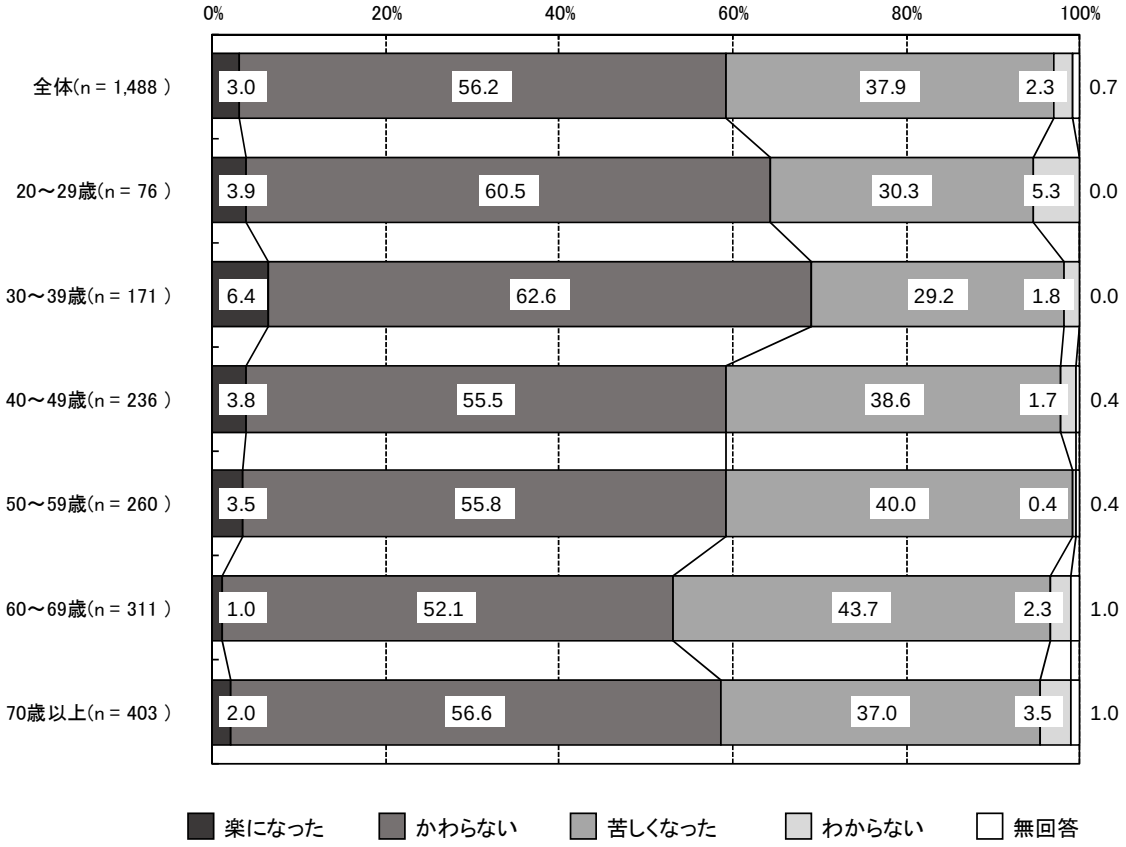
性別（図 1-4）でみると、男女ともに「かわらない」が最も高く、男性が 57.3%、女性が 55.2%と、男性が女性より 2.1 ポイント高くなっている。

図 1-4【性別】くらしの前年比較



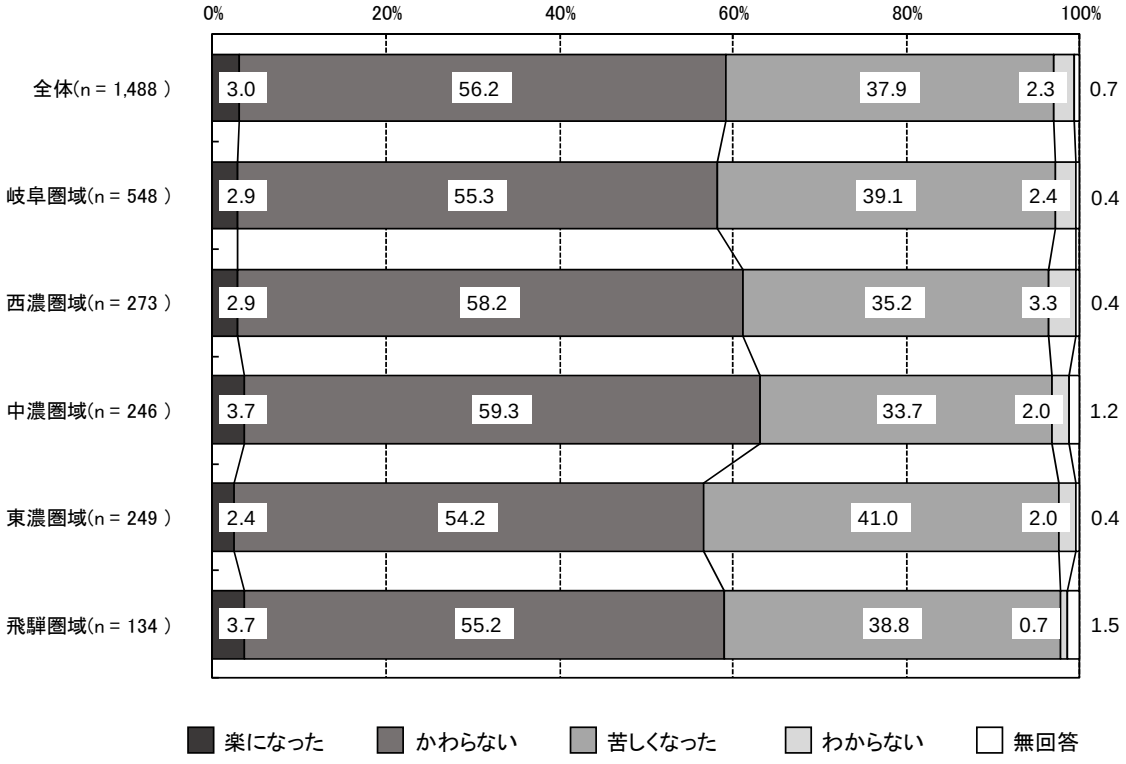

年代別（図 1-5）でみると、いずれの年代においても「かわらない」が最も高く、そのうち 30 歳代が 62.6%と最も高くなっている。「苦しくなった」は、60 歳代が 43.7%と最も高くなっている。

図 1-5【年代別】くらしの前年比較



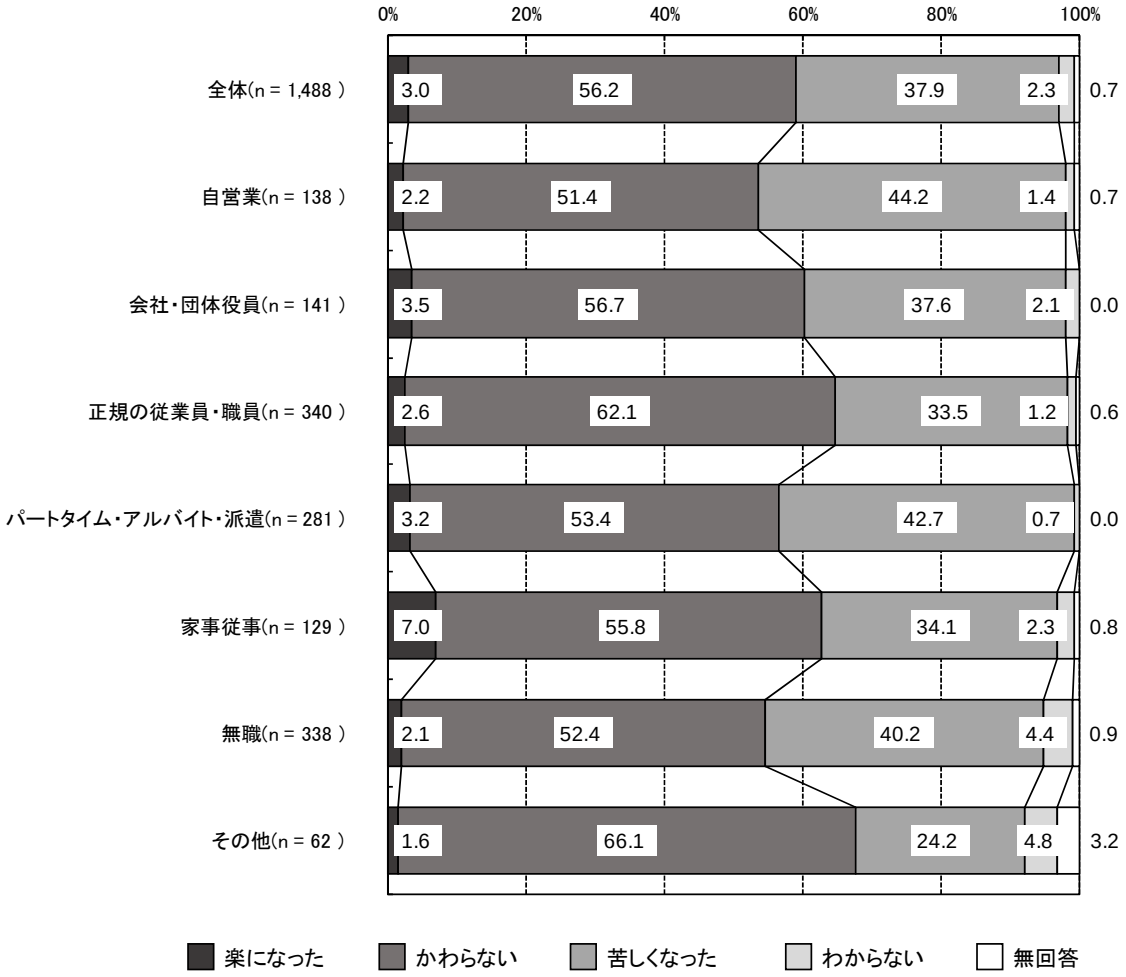
居住圏域別（図 1-6）でみると、いずれの圏域においても「かわらない」が最も高く、そのうち中濃圏域が 59.3%と最も高くなっている。「苦しくなった」は、東濃圏域が 41.0%と最も高くなっている。

図 1-6 【居住圏域別】くらしの前年比較



職業別（図 1-7）でみると、いずれの職業においても「かわらない」が最も高く、そのうちその他が 66.1%と最も高くなっており、次いで正規の従業員・職員（62.1%）、会社・団体役員（56.7%）の順となっている。「苦しくなった」では自営業が 44.2%と最も高く、次いでパートタイム・アルバイト・派遣（42.7%）、無職（40.2%）の順となっている。

図 1-7【職業別】くらしの前年比較



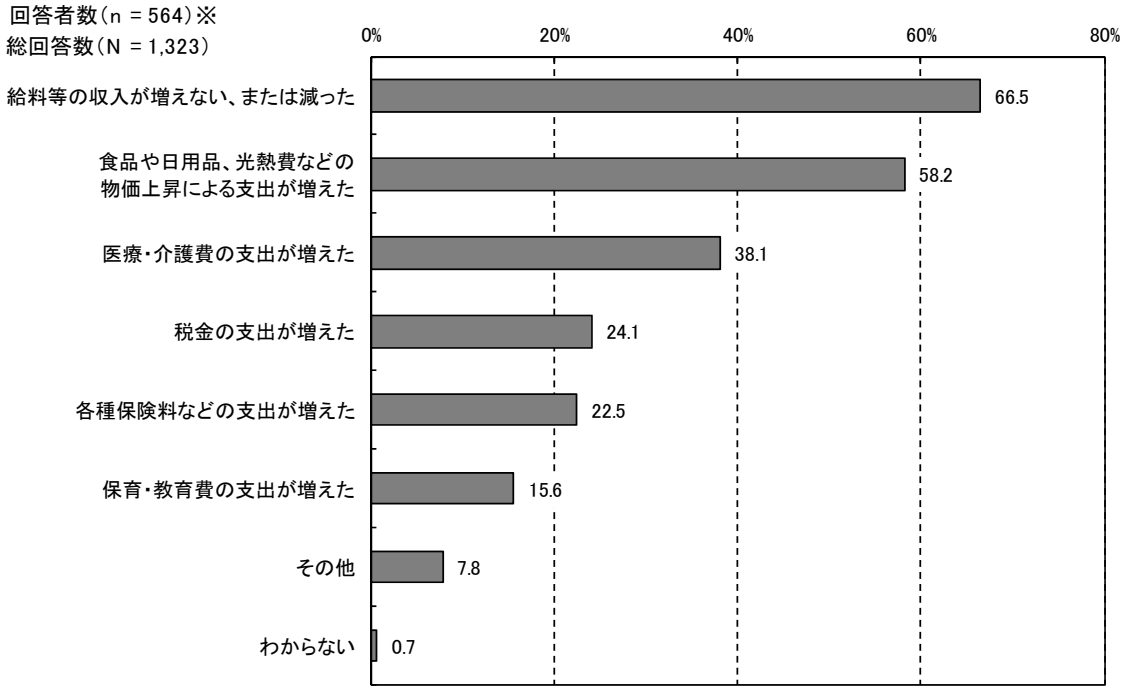

※ その他には、自由業、学生を含む。

## 問１－２　くらしが苦しくなったと感じる理由

| |
|---|
| 問１－２　「苦しくなった」と答えた方にお尋ねします。<br>あなたが、くらしが苦しくなったと感じるのは、どのような理由からですか。<br>（３つまで） |

全体（図 1-2-1）でみると、「給料等の収入が増えない、または減った」が 66.5%と最も高く、次いで「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」（58.2%）、「医療・介護費の支出が増えた」（38.1%）の順となっている。

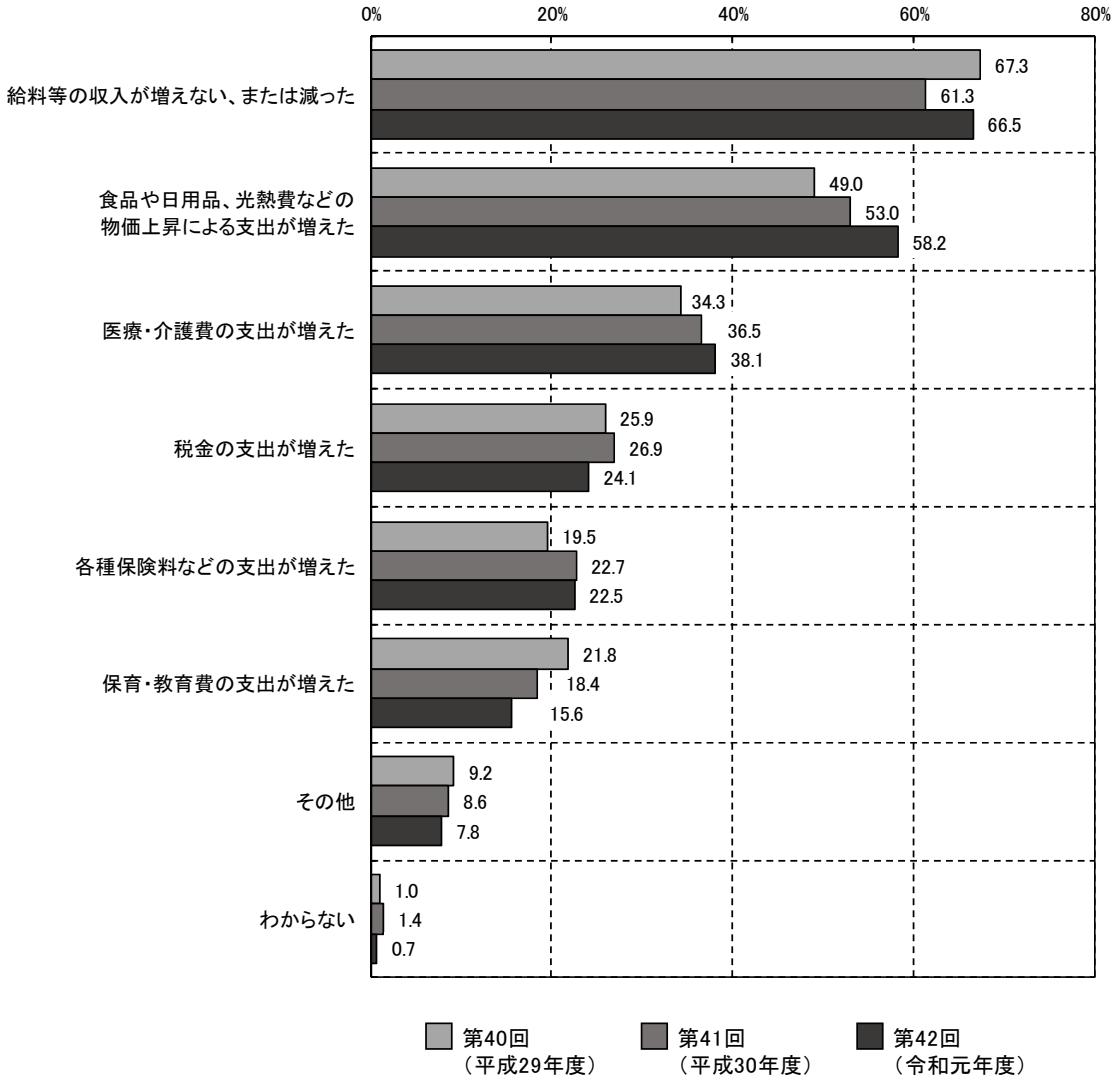
図 1-2-1　くらしが苦しくなったと感じる理由




※ 問１で「苦しくなった」と答えた方のみ

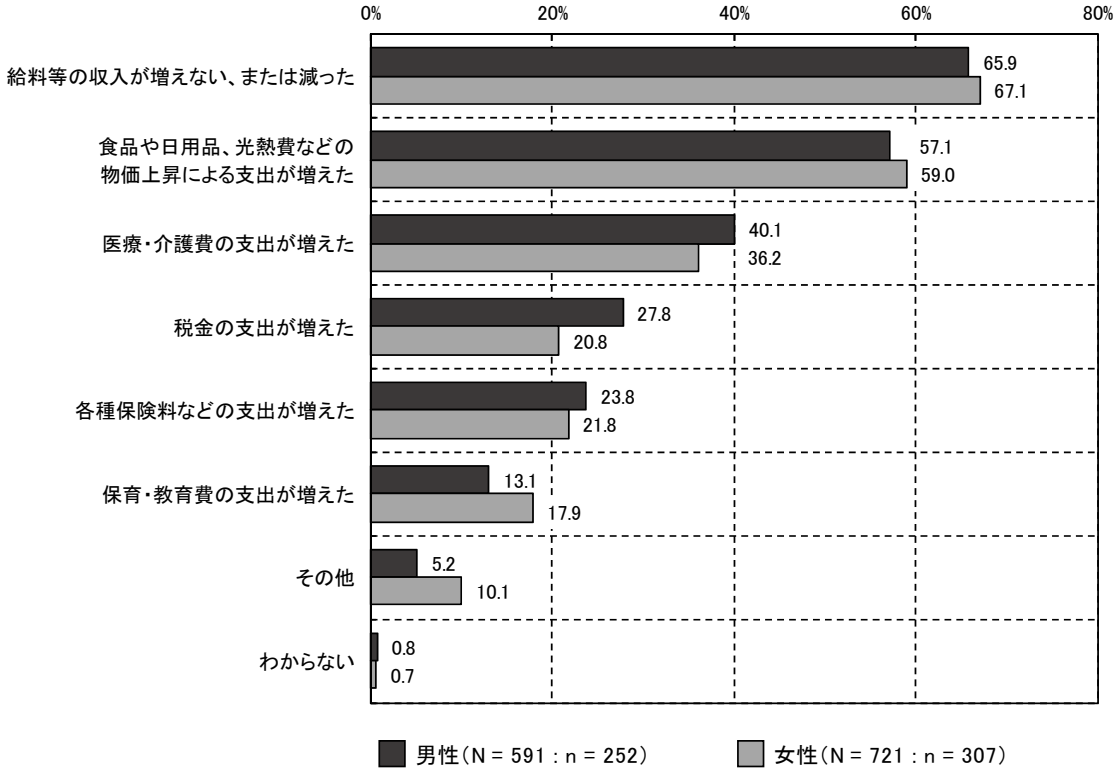
前々回・前回比較（図 1-2-2）でみると、「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」と「医療・介護費の支出が増えた」は年々高くなっており、「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」は前回に比べて 5.2 ポイント増加している。「給料等の収入が増えない、または減った」は前回に比べて 5.2 ポイント増加している。

図 1-2-2 【前々回・前回比較】くらしが苦しくなったと感じる理由



性別（図 1-2-3）でみると、男女ともに「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高くなっており、女性が男性より 1.2 ポイント高くなっている。「税金の支出が増えた」では男性が女性より 7.0 ポイント高く、「保育・教育費の支出が増えた」では女性が男性より 4.8 ポイント高くなっている。

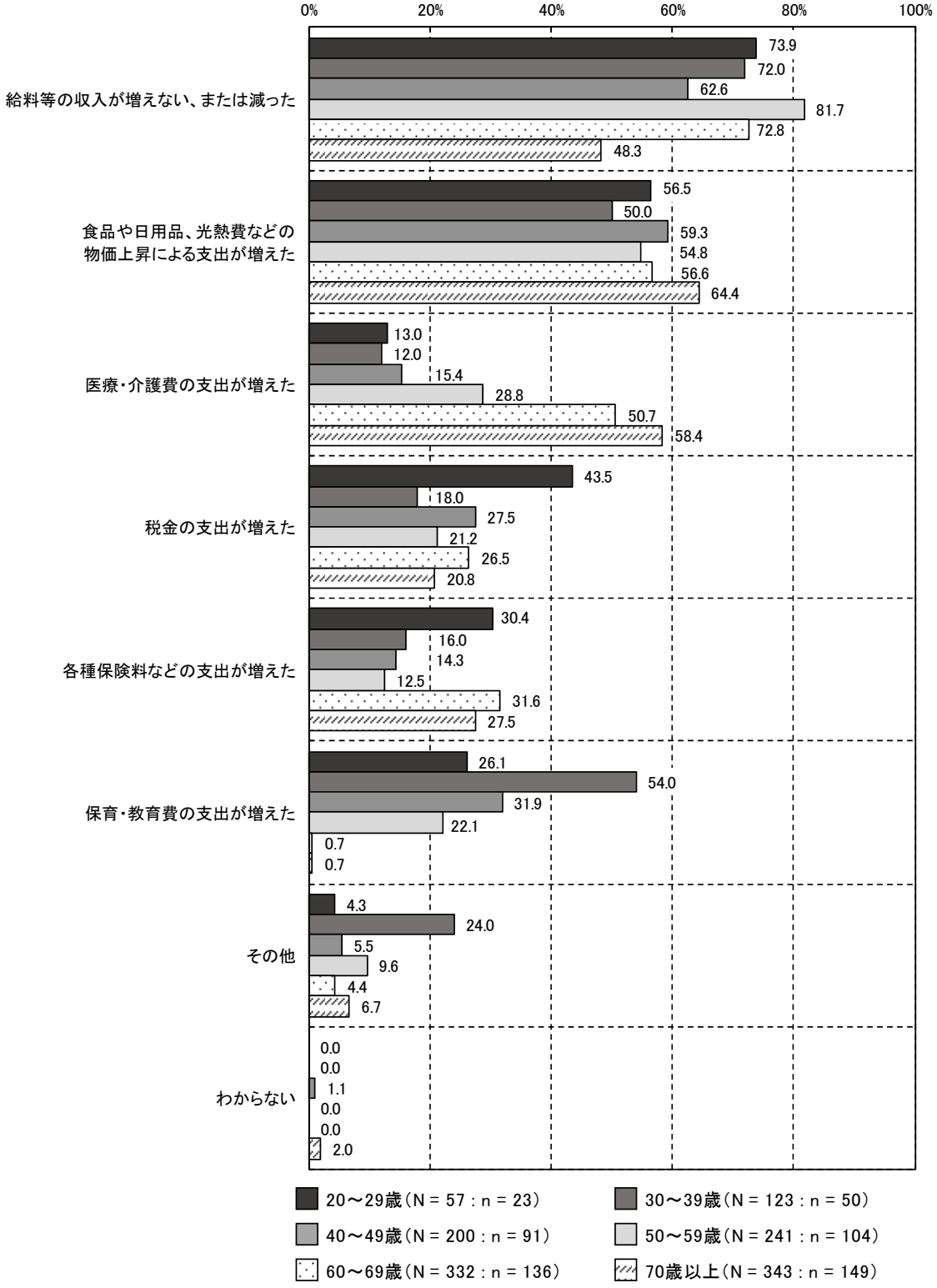
図 1-2-3 【性別】くらしが苦しくなったと感じる理由




※ N＝総回答数 n＝回答者数

年代別（図 1-2-4）でみると、70 歳以上を除くいずれの年代においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、そのうち 50 歳代が 81.7%と最も高くなっている。70 歳以上では「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」（64.4%）が最も高くなっている。「保育・教育費の支出が増えた」では、30 歳代が他の年代より 20 ポイント以上高くなっている。

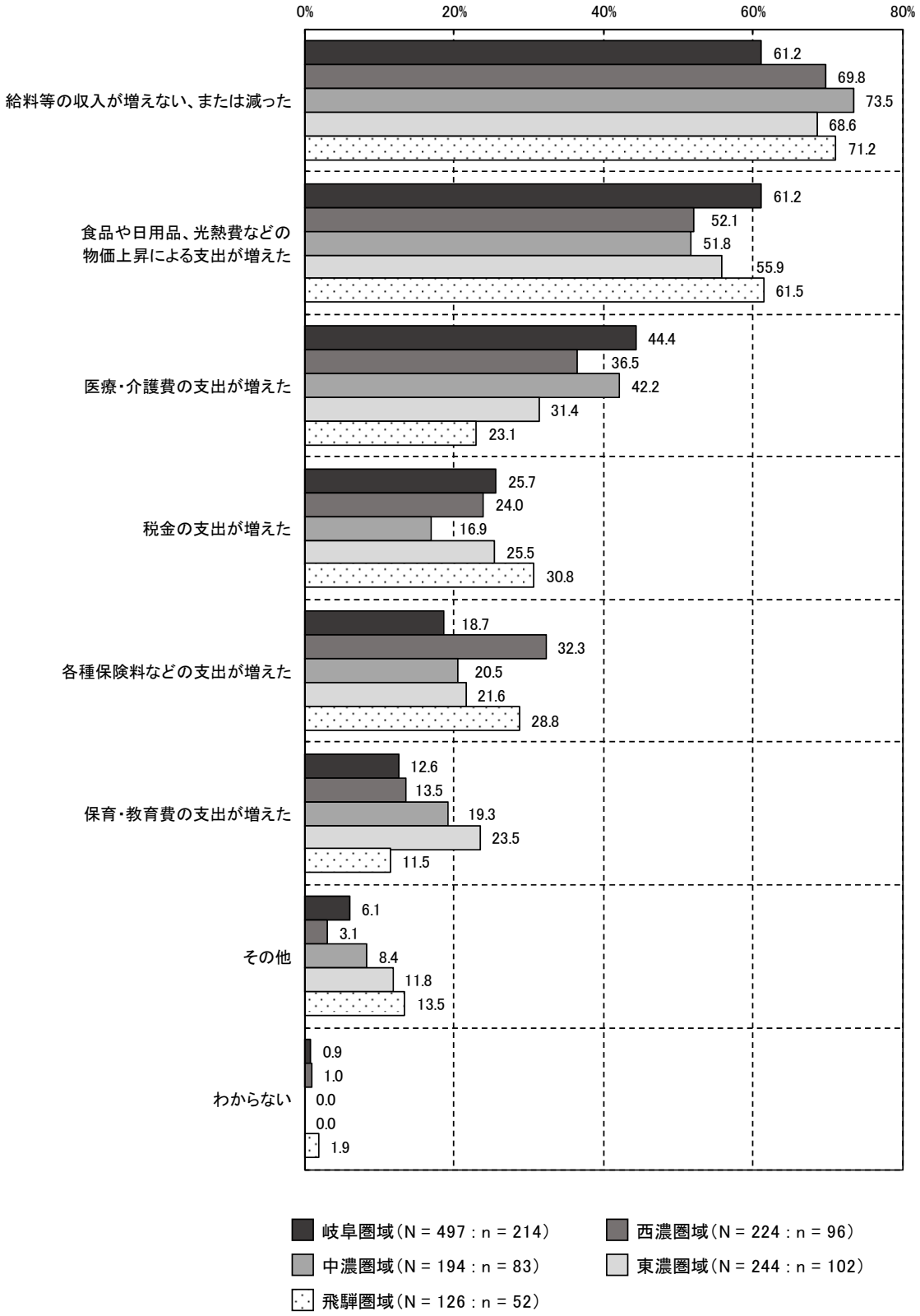
図 1-2-4 【年代別】くらしが苦しくなったと感じる理由




※ N＝総回答数 n＝回答者数

居住圏域別（図 1-2-5）でみると、いずれの居住圏域においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く（岐阜圏域は「給料等の収入が増えない、または減った」と「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が同率）なっている。

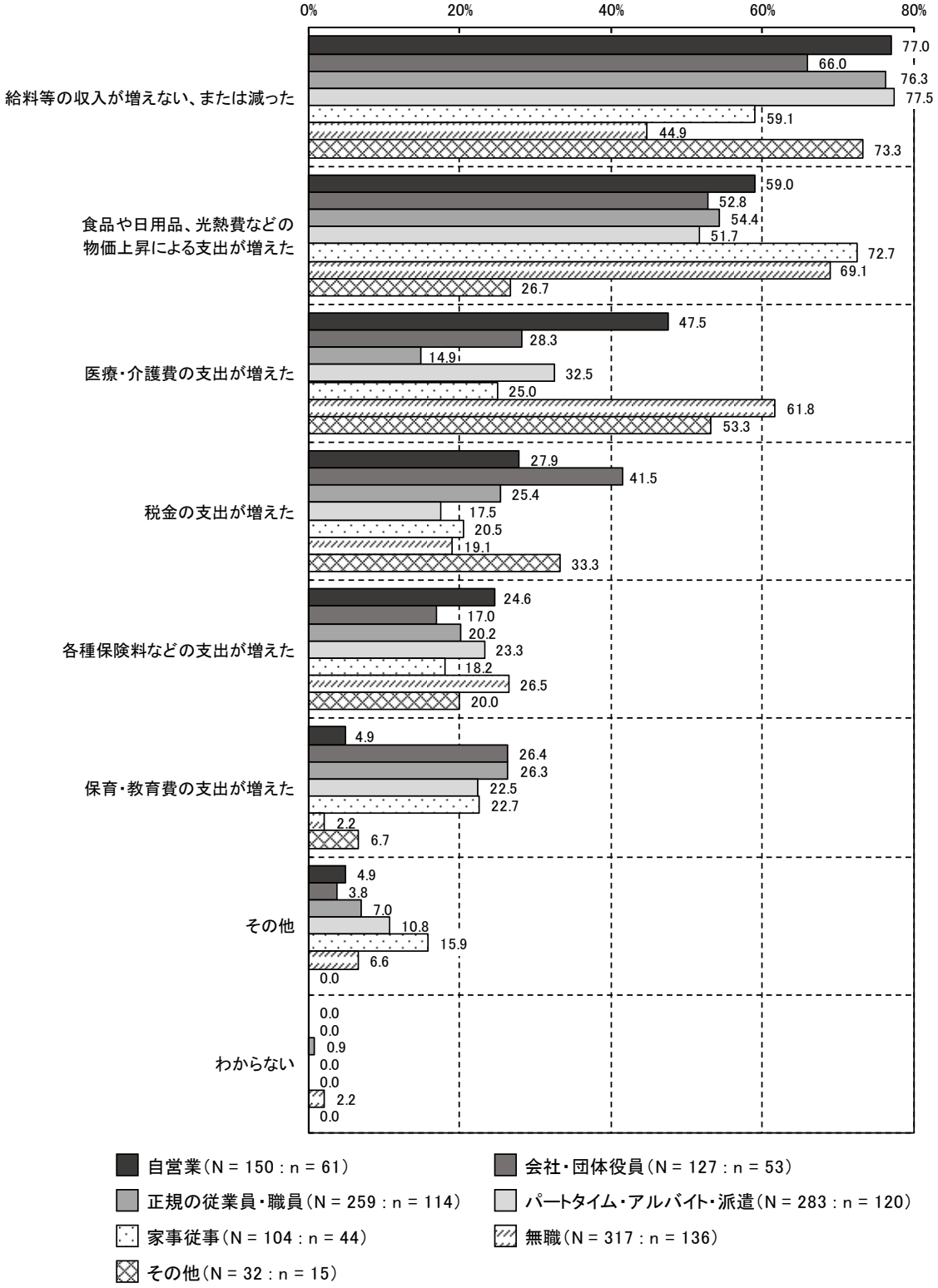
図 1-2-5 【居住圏域別】くらしが苦しくなったと感じる理由




※ N＝総回答数 n＝回答者数

職業別（図 1-2-6）でみると、家事従事と無職を除くいずれの職業においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、そのうちパートタイム・アルバイト・派遣が 77.5%と最も高くなっている。家事従事と無職では「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高くなっている。

図 1-2-6 【職業別】くらしが苦しくなったと感じる理由



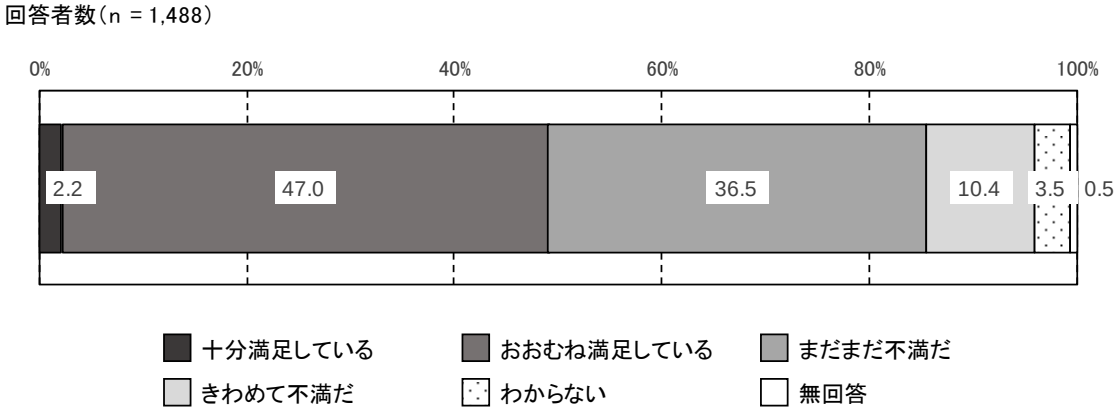

※ その他には、自由業、学生を含む。
※ N＝総回答数　n＝回答者数

## 問２　くらしの満足度

| |
|---|
| 問２　あなたは、現在のくらし全般（生活環境など）についてどう思いますか。（１つだけ） |

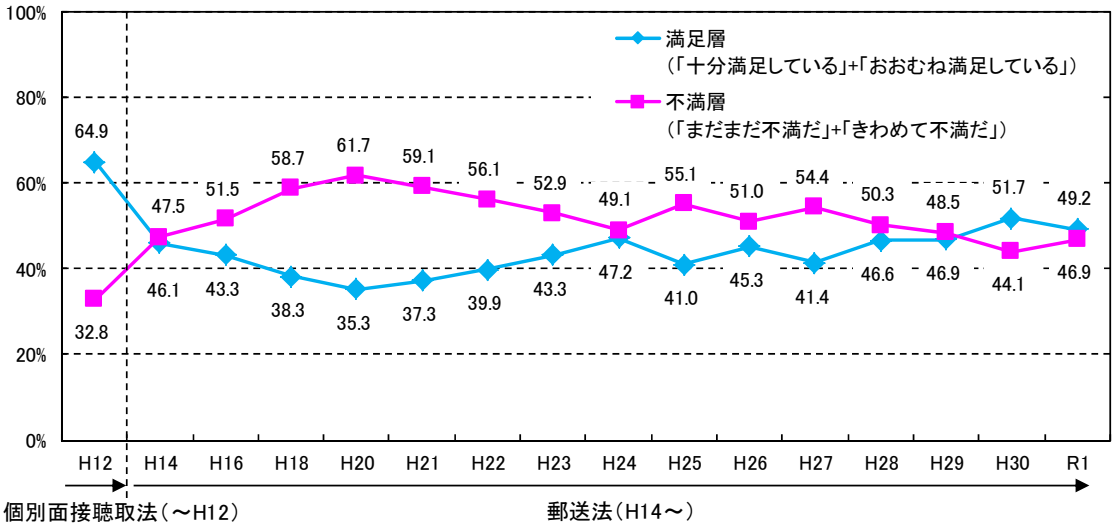
全体（図 2-1）でみると、「おおむね満足している」が 47.0%と最も高く、次いで、「まだまだ不満だ」（36.5%）、「きわめて不満だ」（10.4%）の順となっている。

**図 2-1 くらしの満足度**




経年変化（図 2-2）でみると、平成 14 年から「不満層」（「まだまだ不満だ」+「きわめて不満だ」）が「満足層」（「十分満足している」+「おおむね満足している」）を上回っていたが、平成 30 年には 18 年ぶりに「満足層」が「不満層」を上回った。令和元年は、前年に比べて「満足層」が 2.5 ポイント減少し、「不満層」は 2.8 ポイント増加している。

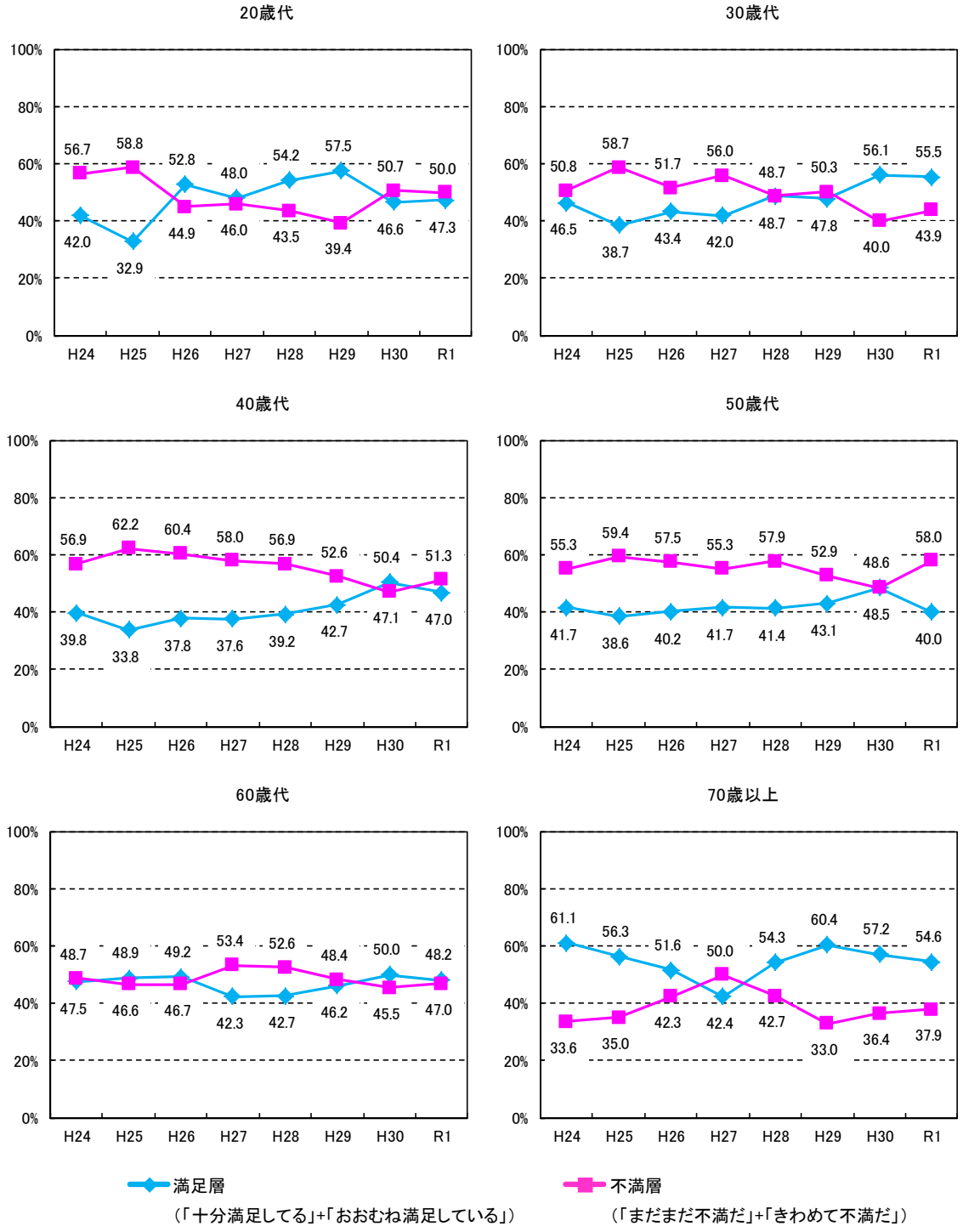
**図 2-2【経年変化】くらしの満足度**




※ 調査方法：平成 12 年度まで個別面接聴取法、平成 14 年度から郵送法

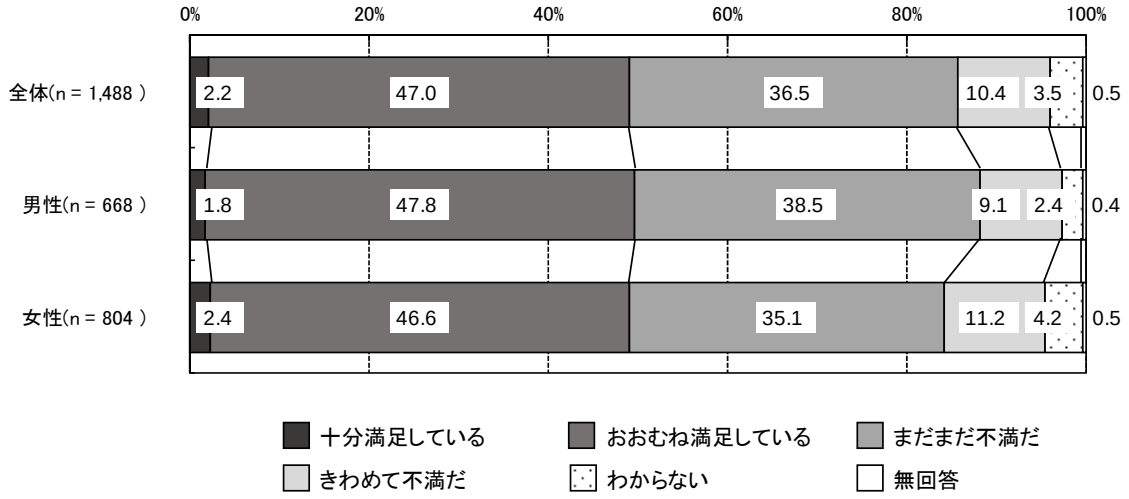
年代別の経年変化（図 2-3）でみると、令和元年は 20 歳代を除くいずれの年代においても「満足層」が減少しており、そのうち 40 歳代と 50 歳代で「満足層」と「不満層」が逆転している。20 歳代では「満足層」が 0.7 ポイント増加した。

図 2-3 【経年変化（年代別）】くらしの満足度



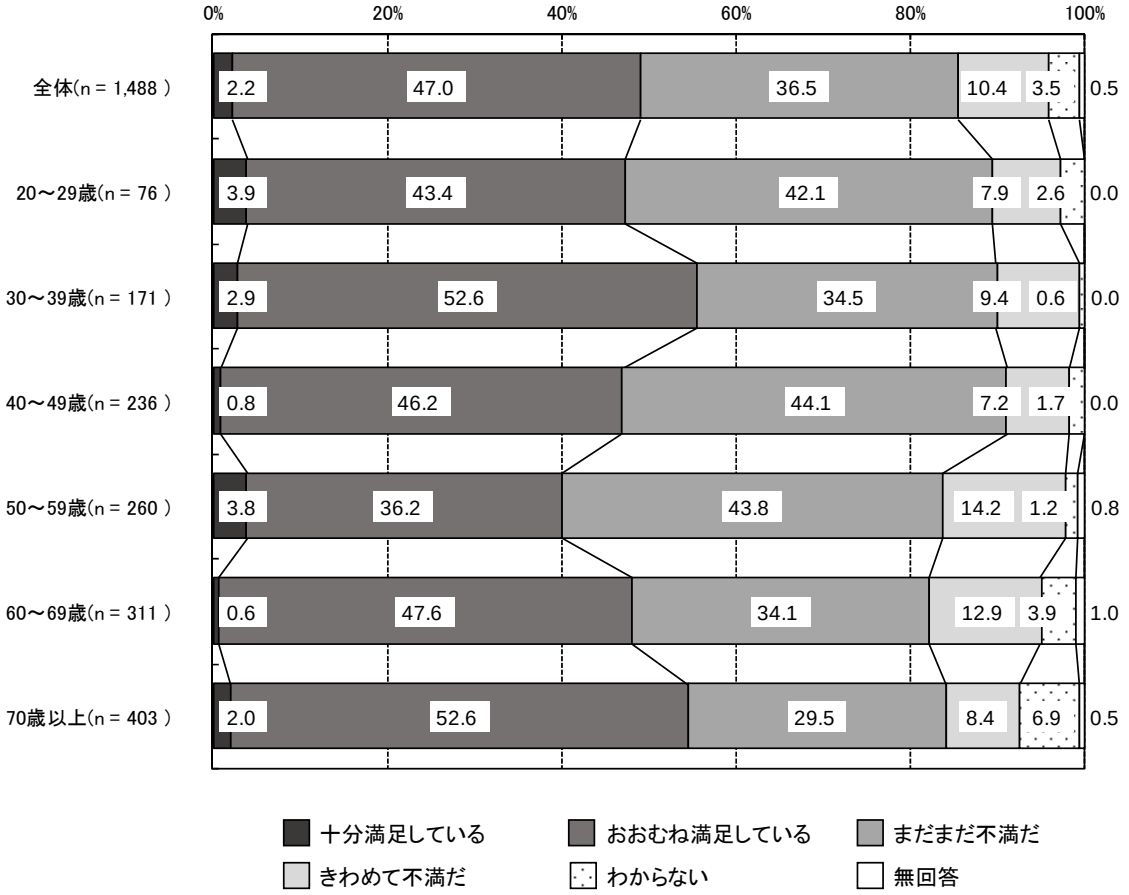
性別（図 2-4）でみると、「おおむね満足している」が男性（47.8%）、女性（46.6%）と男女ともに最も高くなっている。

図 2-4【性別】くらしの満足度



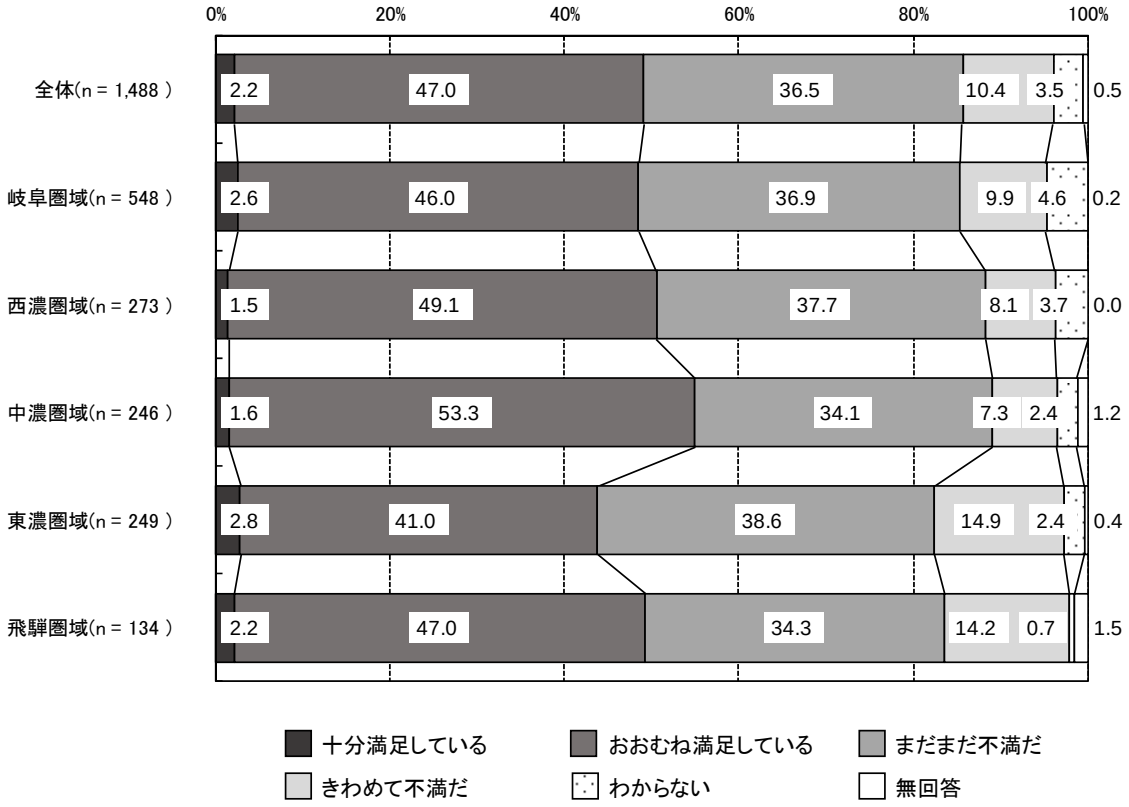

年代別（図 2-5）でみると、50 歳代を除くいずれの年代においても「おおむね満足している」が最も高く、そのうち 30 歳代と 70 歳以上が同率で 52.6%と最も高くなっている。50 歳代では「まだまだ不満だ」（43.8%）が最も高くなっている。

図 2-5【年代別】くらしの満足度



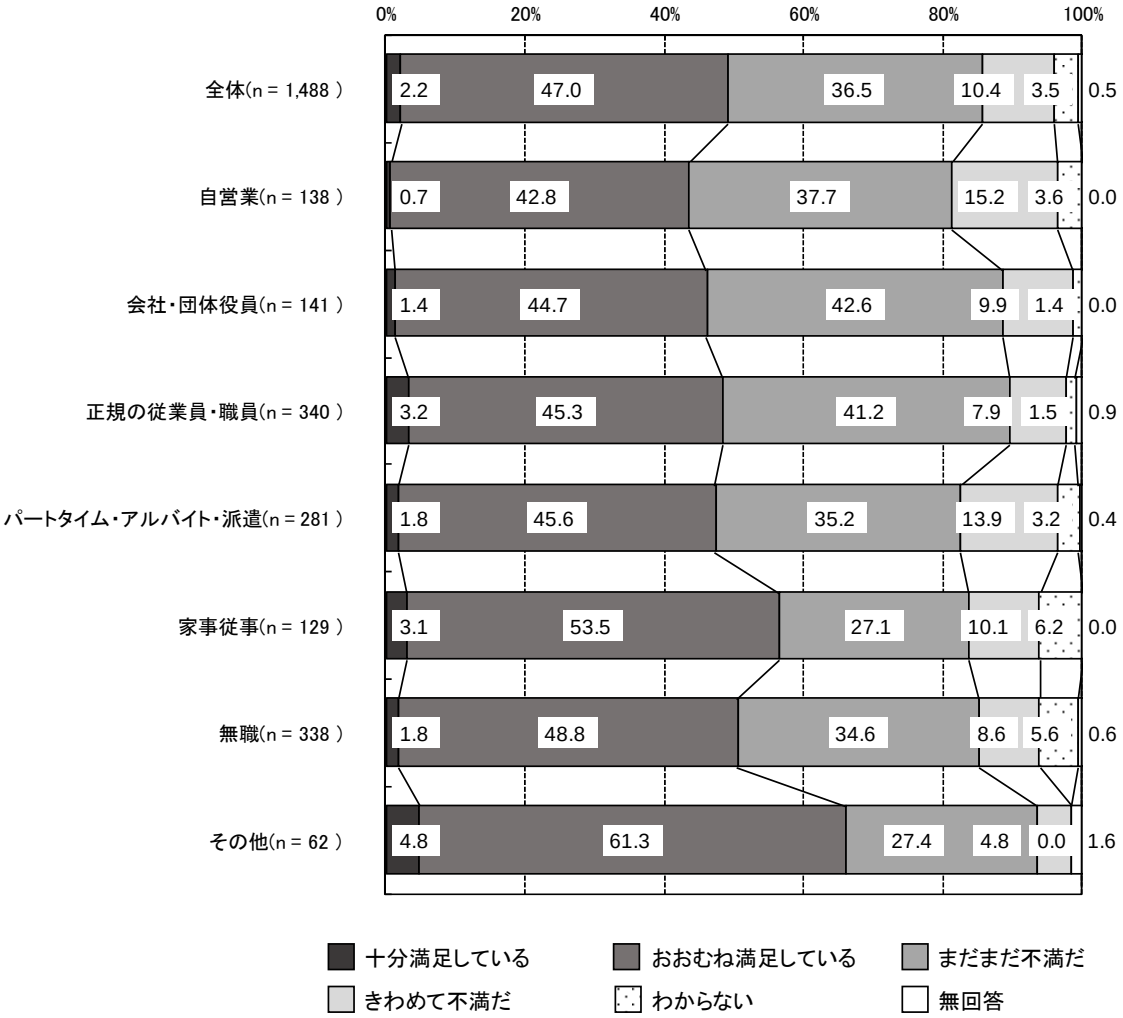
居住圏域別（図 2-6）でみると、いずれの圏域においても「おおむね満足している」が最も高く、そのうち中濃圏域が 53.3%と最も高くなっている。

図 2-6 【居住圏域別】くらしの満足度



職業別（図 2-7）でみると、いずれの職業においても「おおむね満足している」が最も高くなっている。

図 2-7 【職業別】くらしの満足度



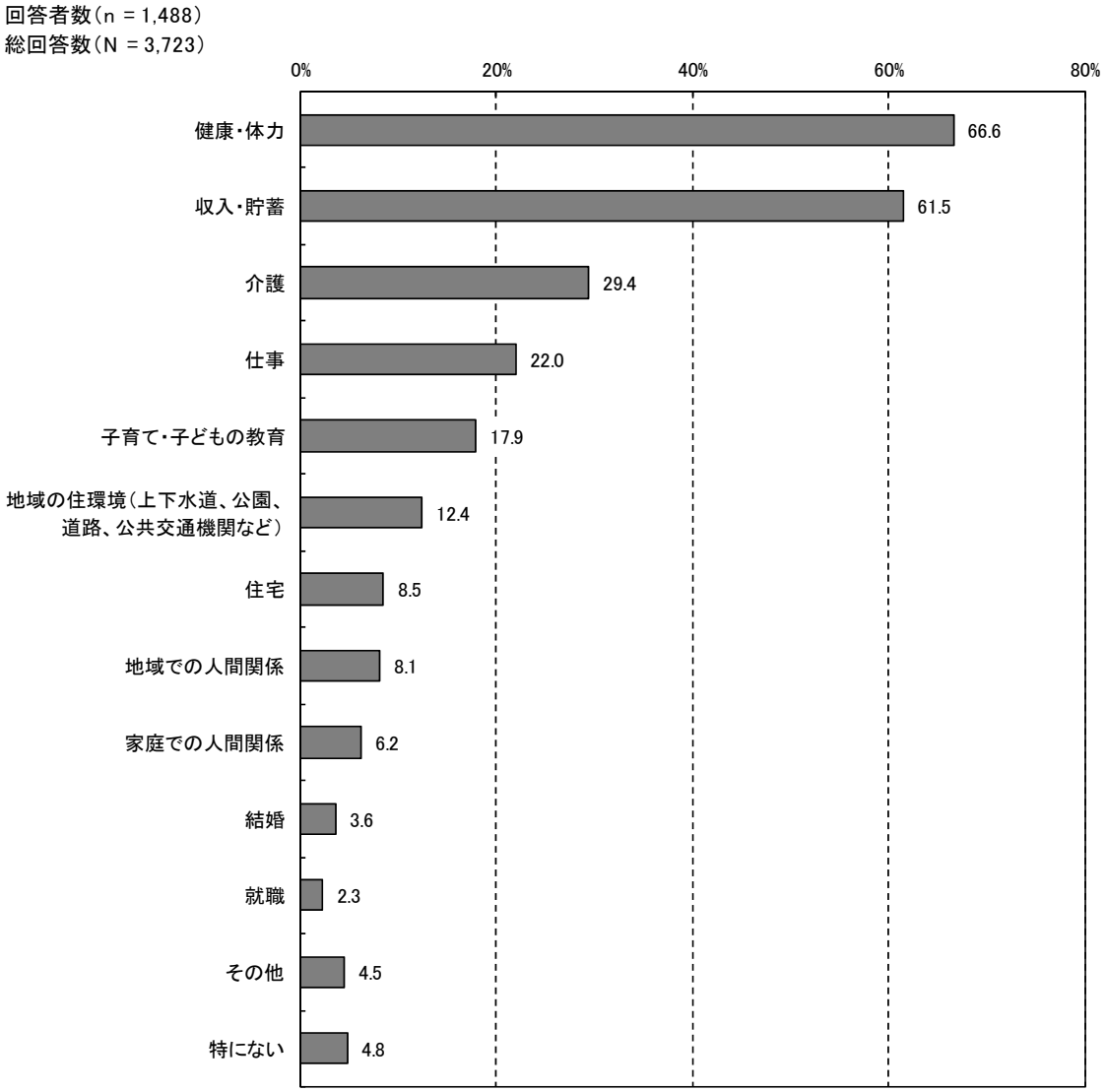

※ その他には、自由業、学生を含む。

## 問３　生活面での不安

| |
|---|
| 問３　あなたは、日頃のくらしの中で、どのようなことに悩みや不安を感じていますか。<br>（３つまで） |

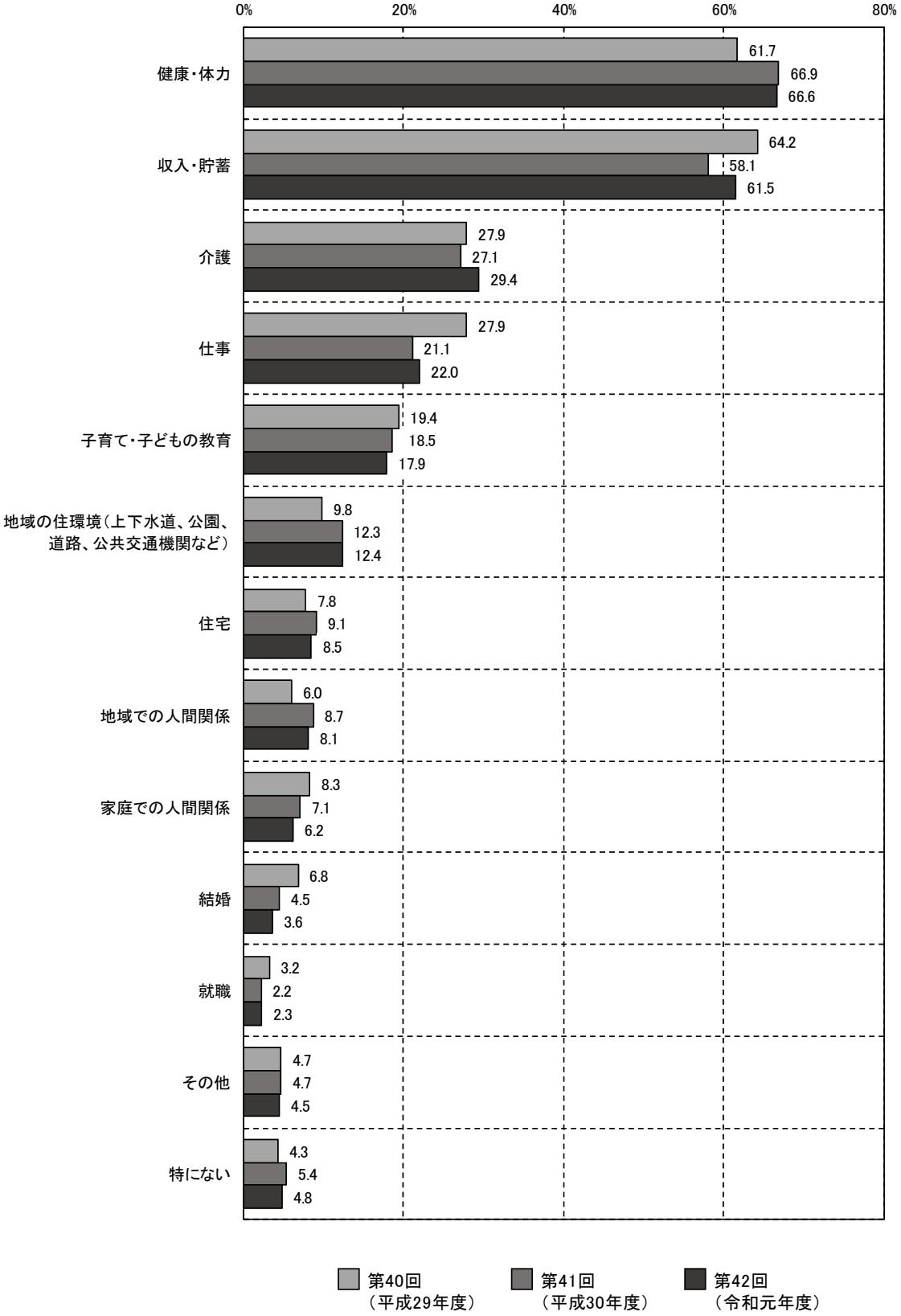
全体（図 3-1）でみると、「健康・体力」が 66.6％と最も高く、次いで「収入・貯蓄」（61.5％）、「介護」（29.4％）の順となっている。

**図 3-1　生活面での不安**



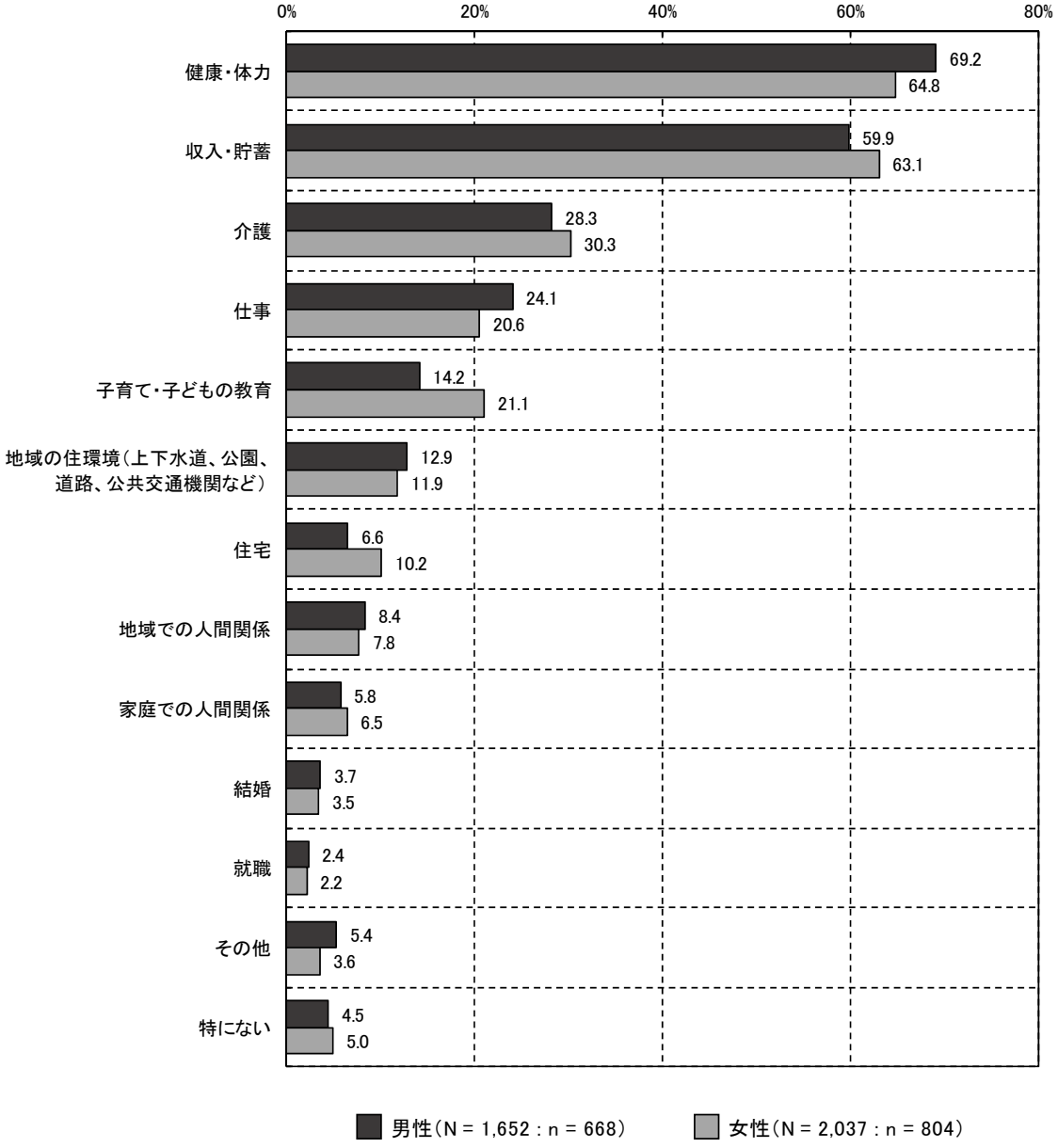
前々回・前回比較（図 3-2）でみると、「健康・体力」は前回に比べて 0.3 ポイント減少している。「収入・貯蓄」は前回に比べて 3.4 ポイント、「介護」は 2.3 ポイントそれぞれ増加している。

図 3-2【前々回・前回比較】生活面での不安



性別（図 3-3）でみると、男女ともに「健康・体力」が最も高くなっており、次いで「収入・貯蓄」となっている。「健康・体力」では男性が女性より 4.4 ポイント高くなっており、「子育て・子どもの教育」では女性が男性より 6.9 ポイント高くなっている。

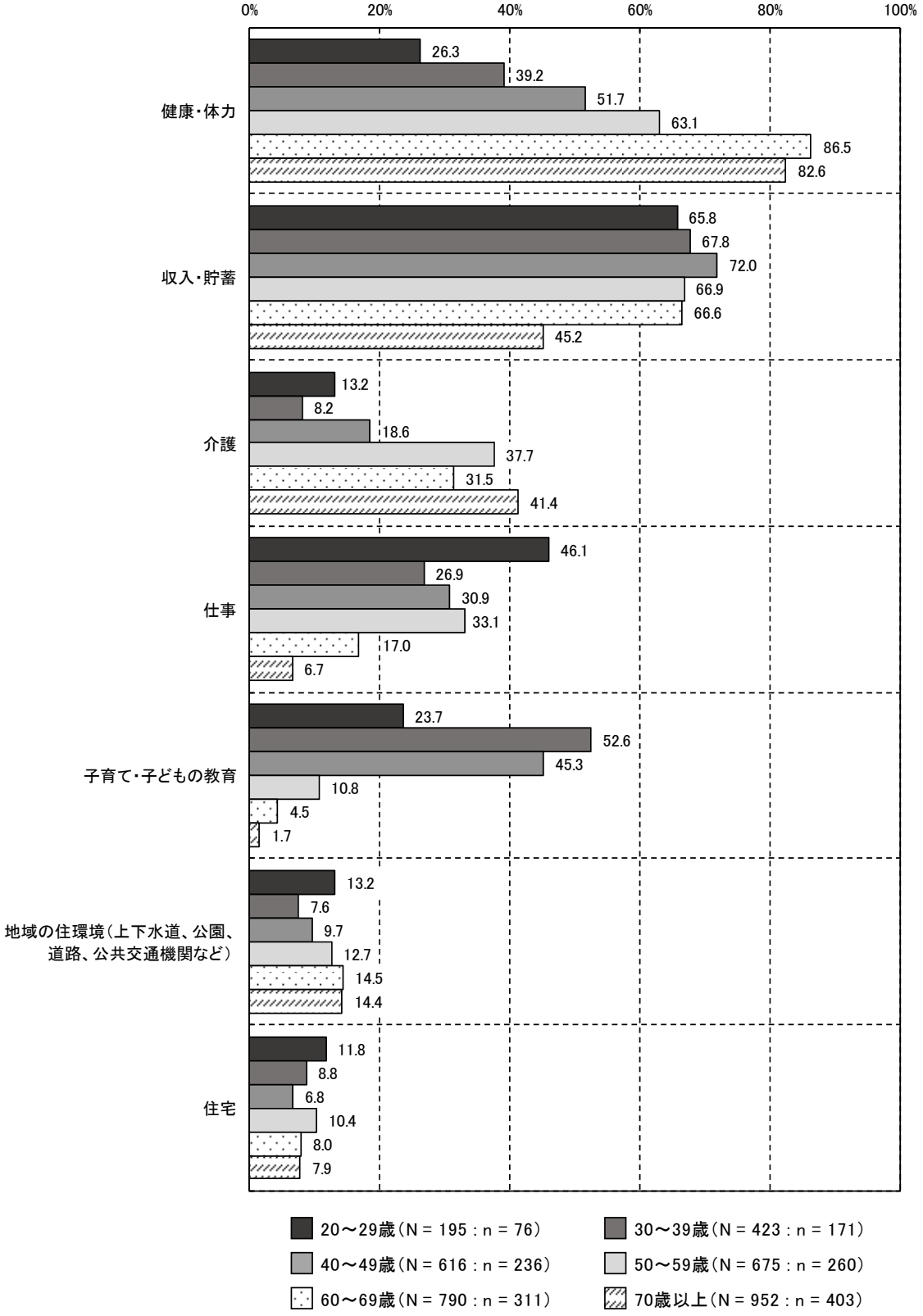
図 3-3 【性別】 生活面での不安




※ N＝総回答数 n＝回答者数

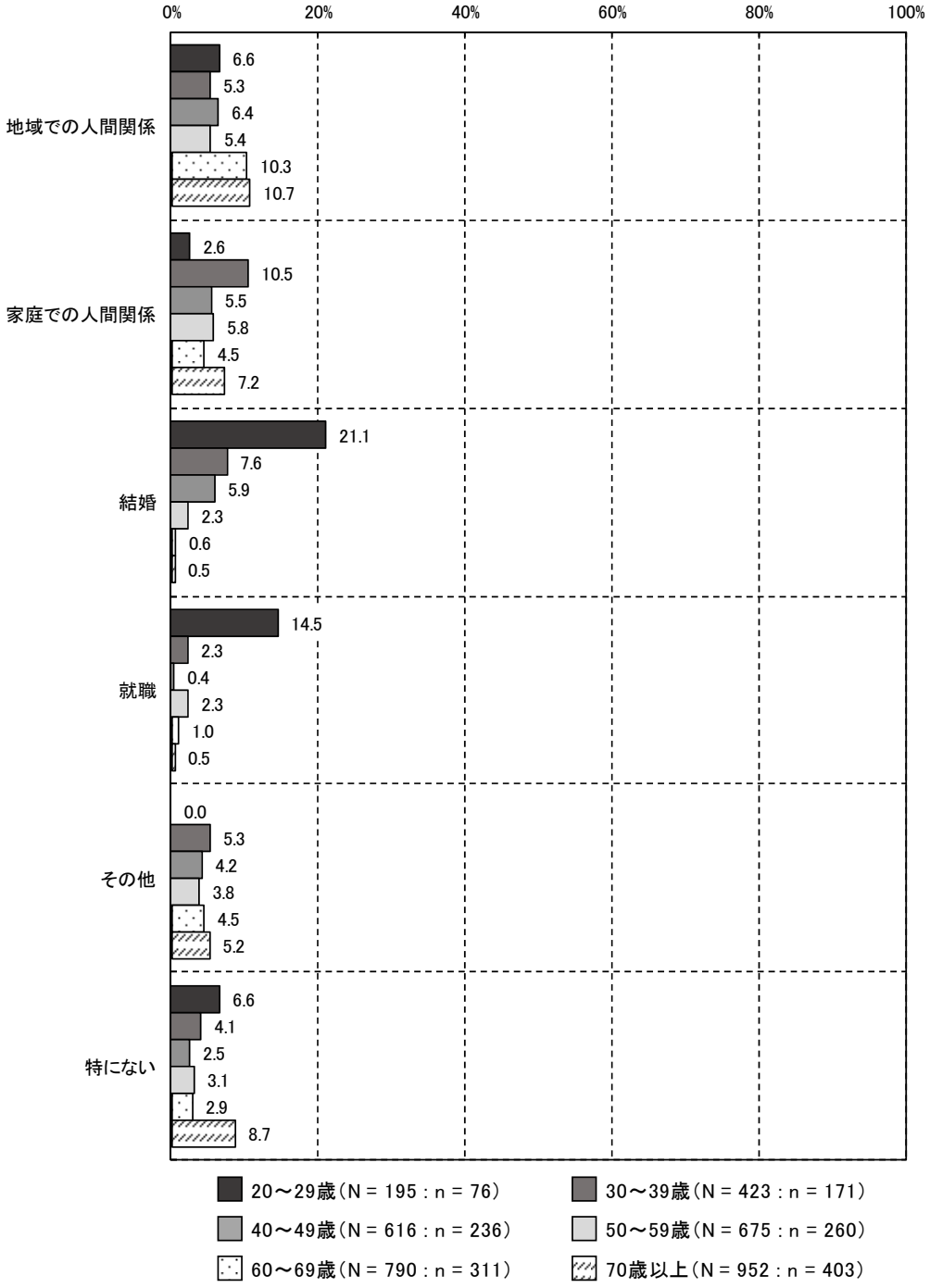
年代別（図 3-4）でみると、60 歳代、70 歳以上を除くいずれの年代においても「収入・貯蓄」が最も高く、そのうち 40 歳代が 72.0%と最も高くなっている。60 歳代、70 歳以上では「健康・体力」が最も高くなっている。30 歳代、40 歳代では「子育て・子どもの教育」が他の年代より 20 ポイント以上高くなっている。

図 3-4【年代別】生活面での不安




※ N＝総回答数 n＝回答者数

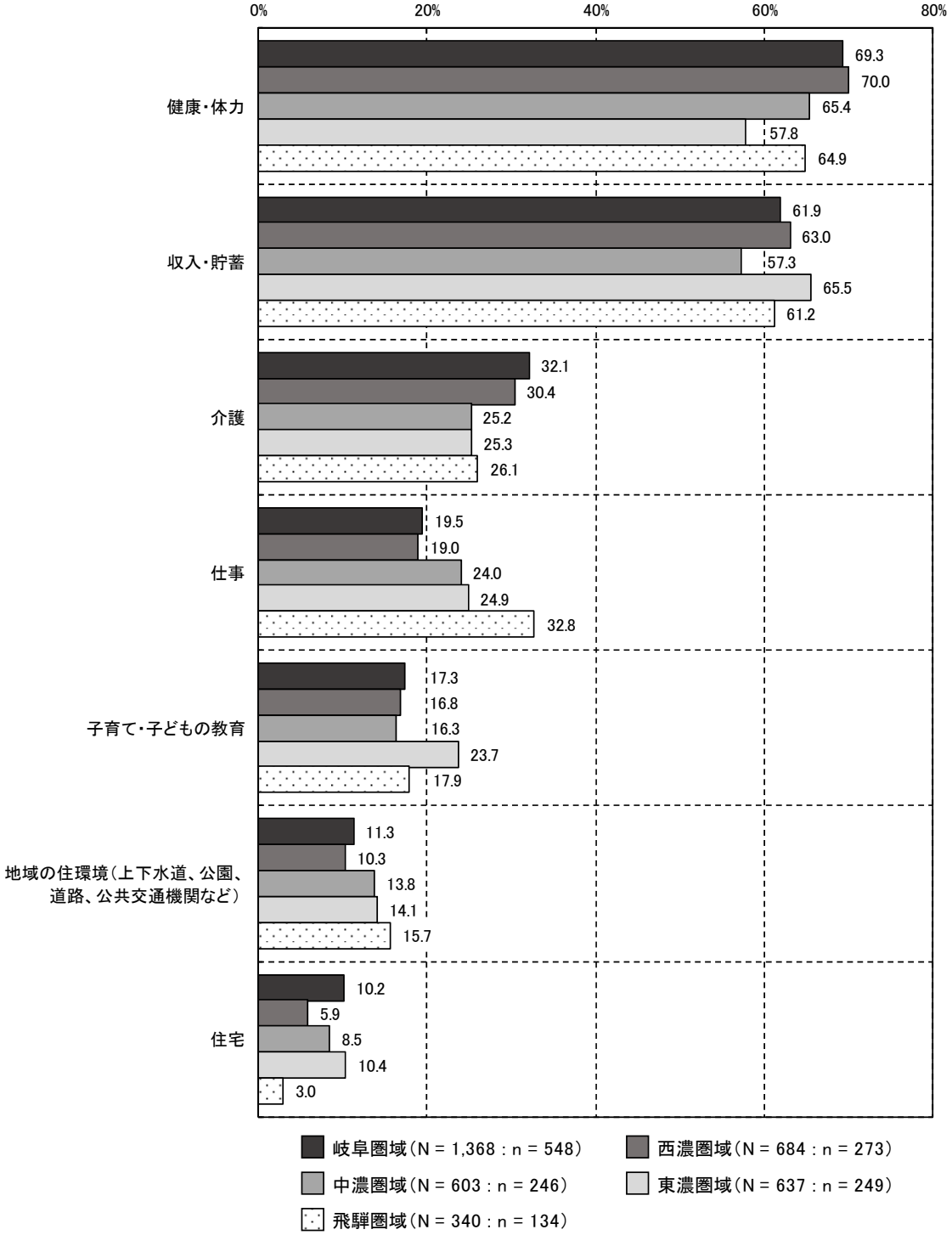
図 3-4【年代別】生活面での不安（続き）




※ N＝総回答数 n＝回答者数

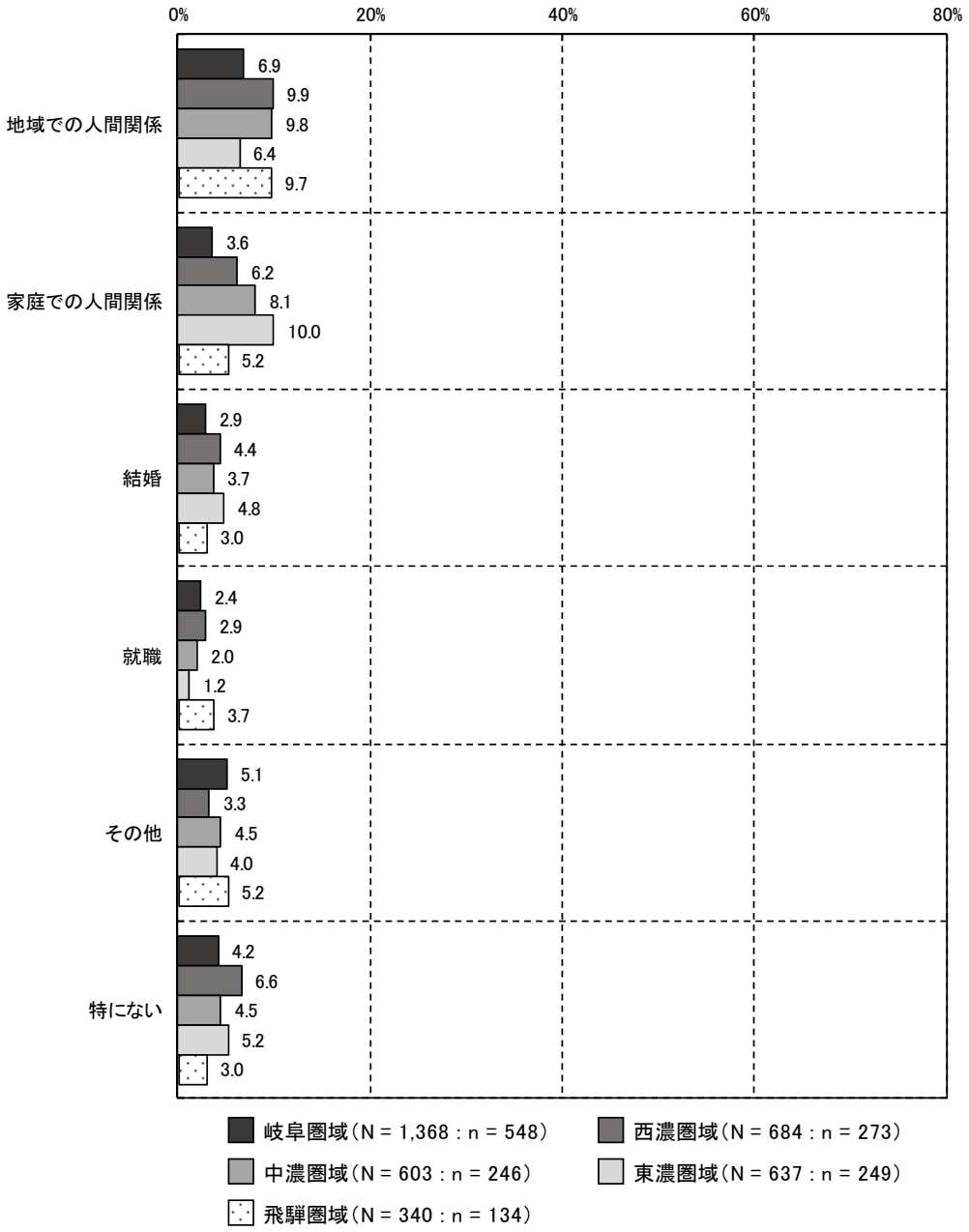
居住圏域別（図 3-5）でみると、東濃圏域を除くいずれの居住圏域においても「健康・体力」が最も高く、そのうち西濃圏域が 70.0%と最も高くなっている。東濃圏域では「収入・貯蓄」（65.5%）が最も高くなっている。

図 3-5【居住圏域別】生活面での不安




※ N＝総回答数 n＝回答者数

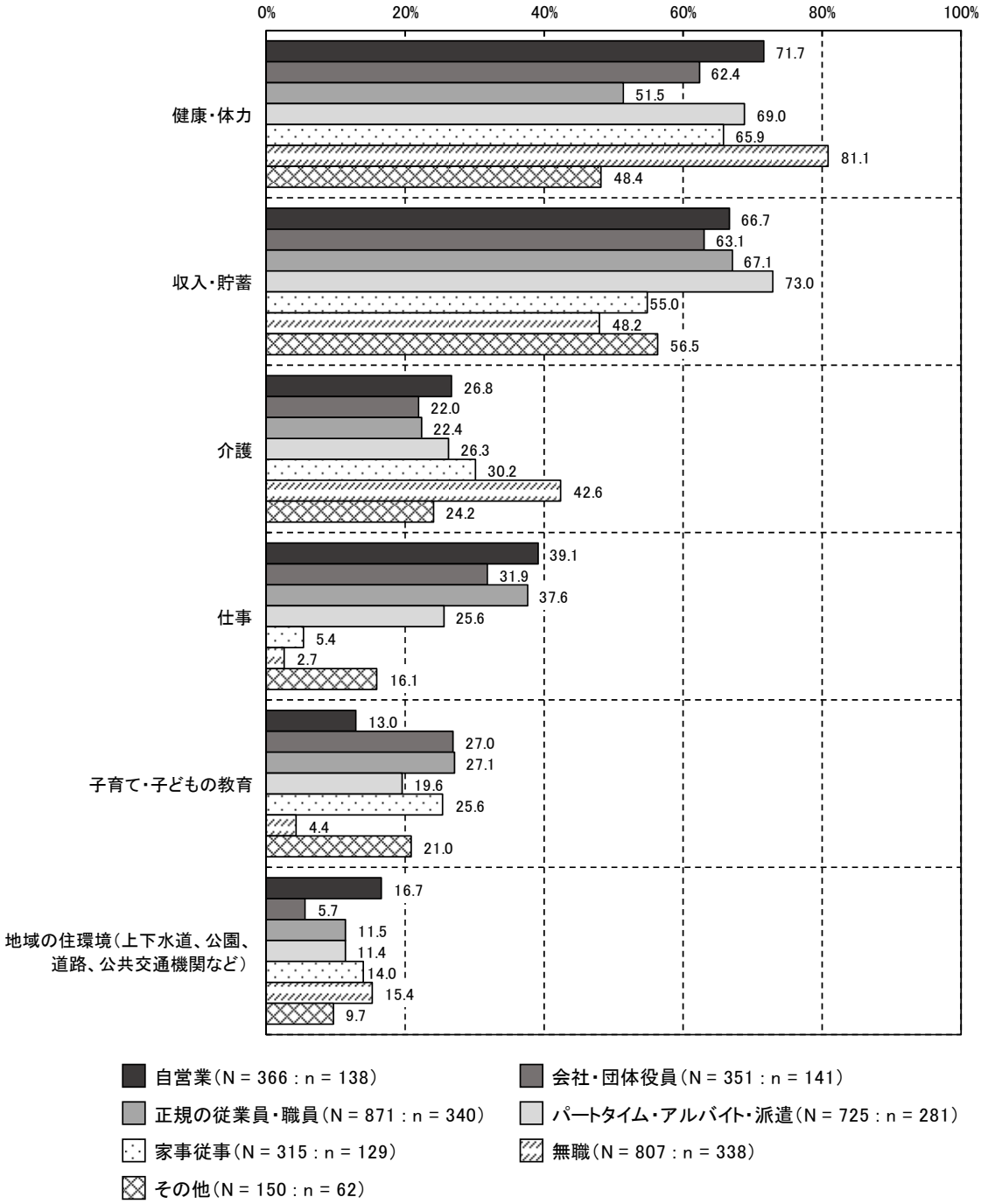
図 3-5 【居住圏域別】 生活面での不安 （続き）




※ N＝総回答数 n＝回答者数

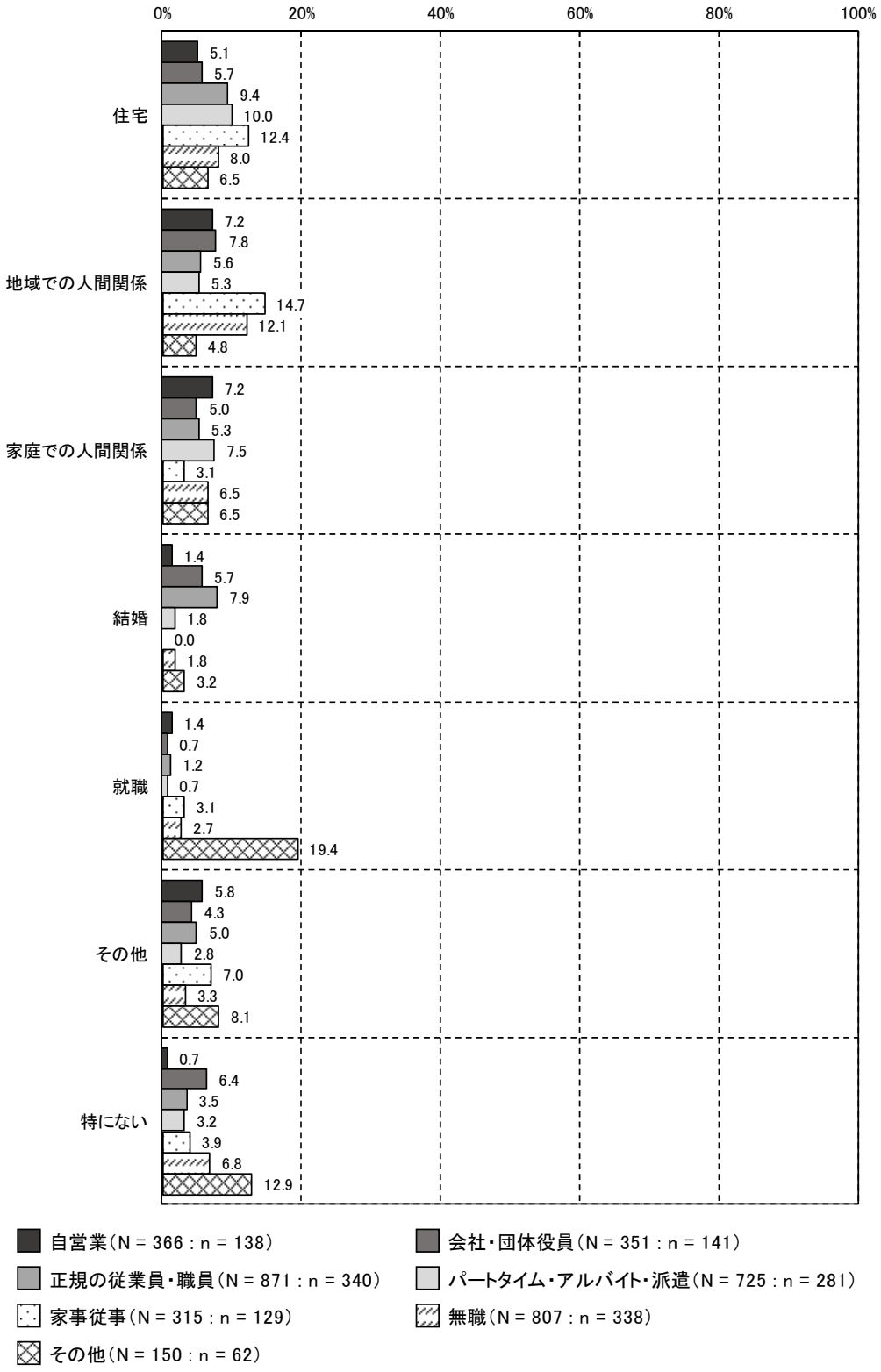
職業別（図 3-6）でみると、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、その他では「収入・貯蓄」が最も高く、そのうちパートタイム・アルバイト・派遣が 73.0%と最も高くなっている。自営業、家事従事、無職では「健康・体力」が最も高く、そのうち無職が 81.1%と最も高くなっている。

図 3-6【職業別】生活面での不安




※ その他には、自由業、学生を含む。
※ N＝総回答数　n＝回答者数

図 3-6 【職業別】 生活面での不安 （続き）



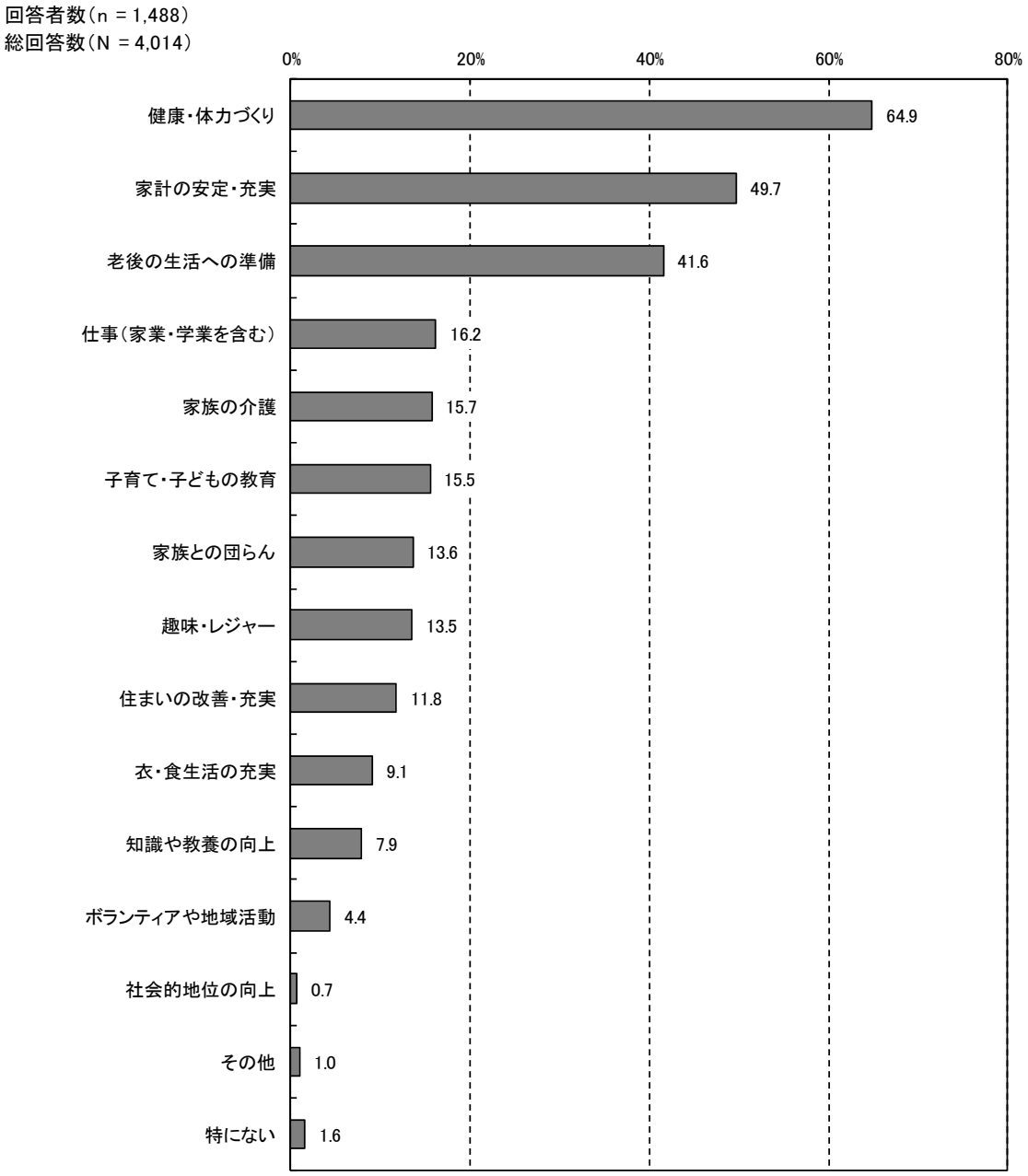

※ その他には、自由業、学生を含む。
※ N＝総回答数　n＝回答者数

## 問４　今後のくらしの中で重視していきたいこと

| |
|---|
| 問４　あなたが、今後のくらしの中で重視していきたいと思うことは何ですか。<br>（３つまで） |

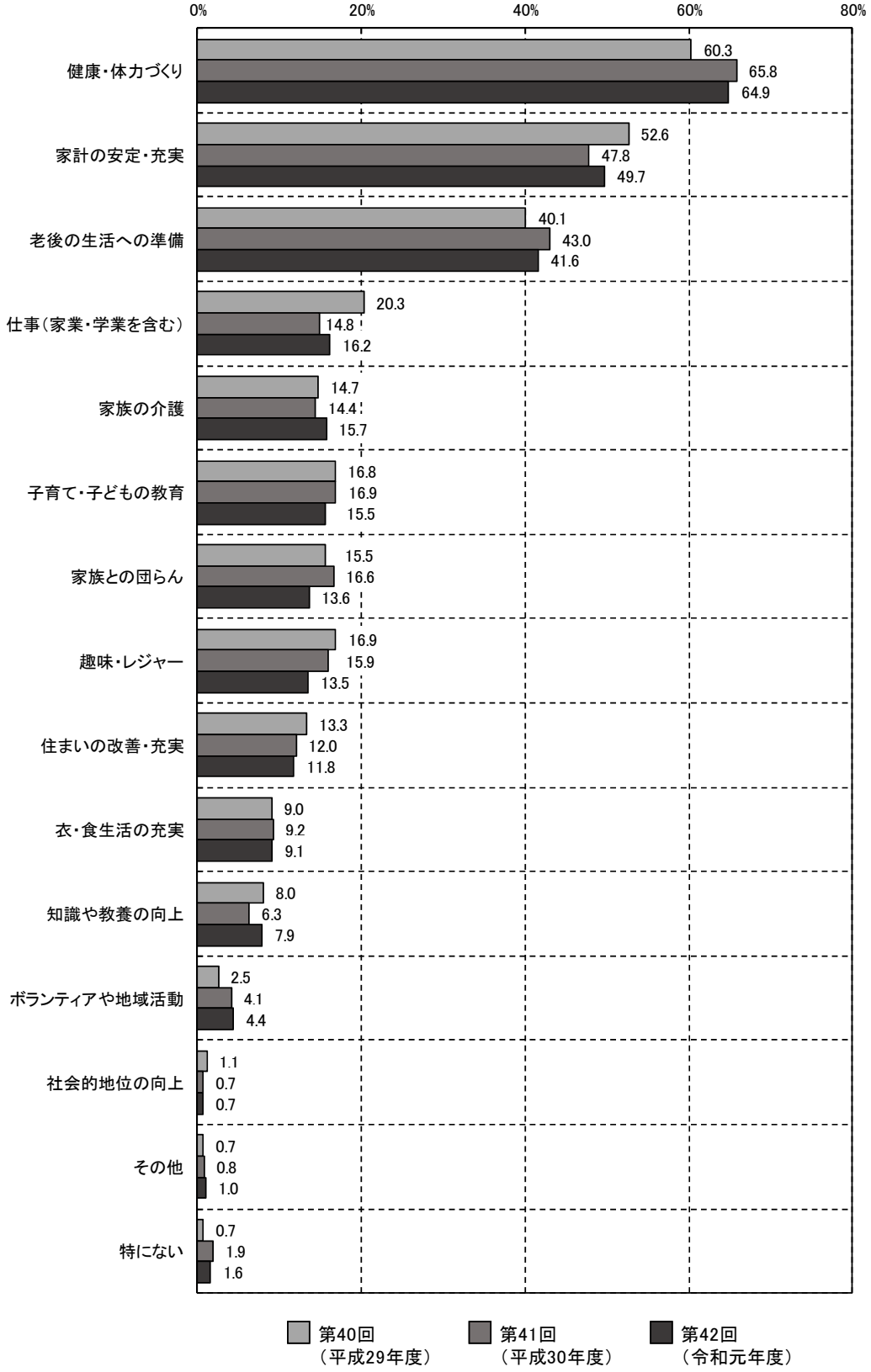
全体（図 4-1）でみると、「健康・体力づくり」が 64.9%と最も高く、次いで「家計の安定・充実」（49.7%）、「老後の生活への準備」（41.6%）の順となっている。

図 4-1　今後のくらしの中で重視していきたいこと



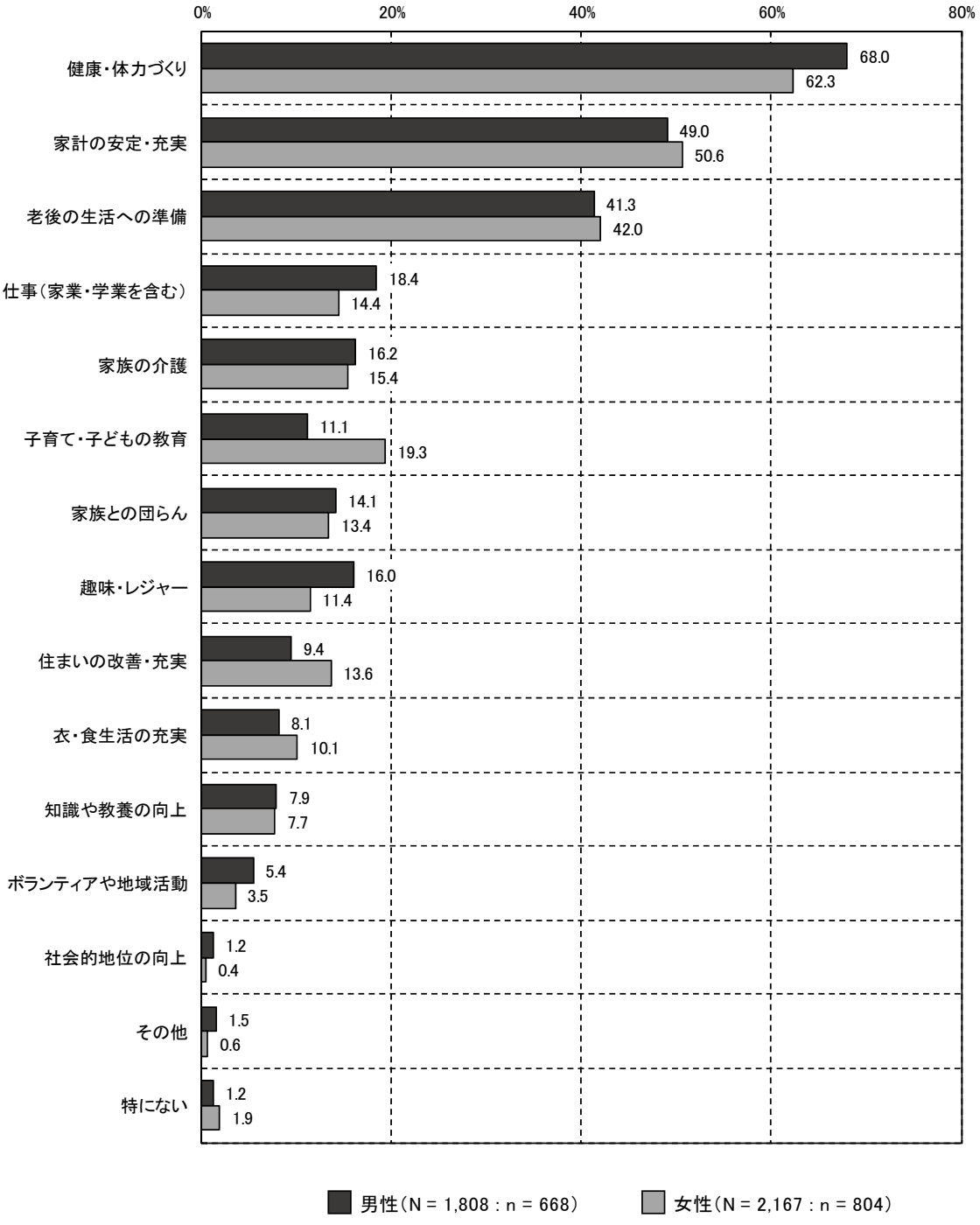
前々回・前回比較（図 4-2）でみると、前々回・前回と同様に「健康・体力づくり」が最も高くなっている。次いで「家計の安定・充実」、「老後の生活への準備」の順となっている。

図 4-2【前々回・前回比較】 今後のくらしの中で重視していきたいこと



性別（図 4-3）でみると、男女ともに「健康・体力づくり」が最も高く、男性が 68.0%、女性が 62.3%となっている。「健康・体力づくり」では男性が女性より 5.7 ポイント、「子育て・子どもの教育」では女性が男性より 8.2 ポイント、それぞれ高くなっている。

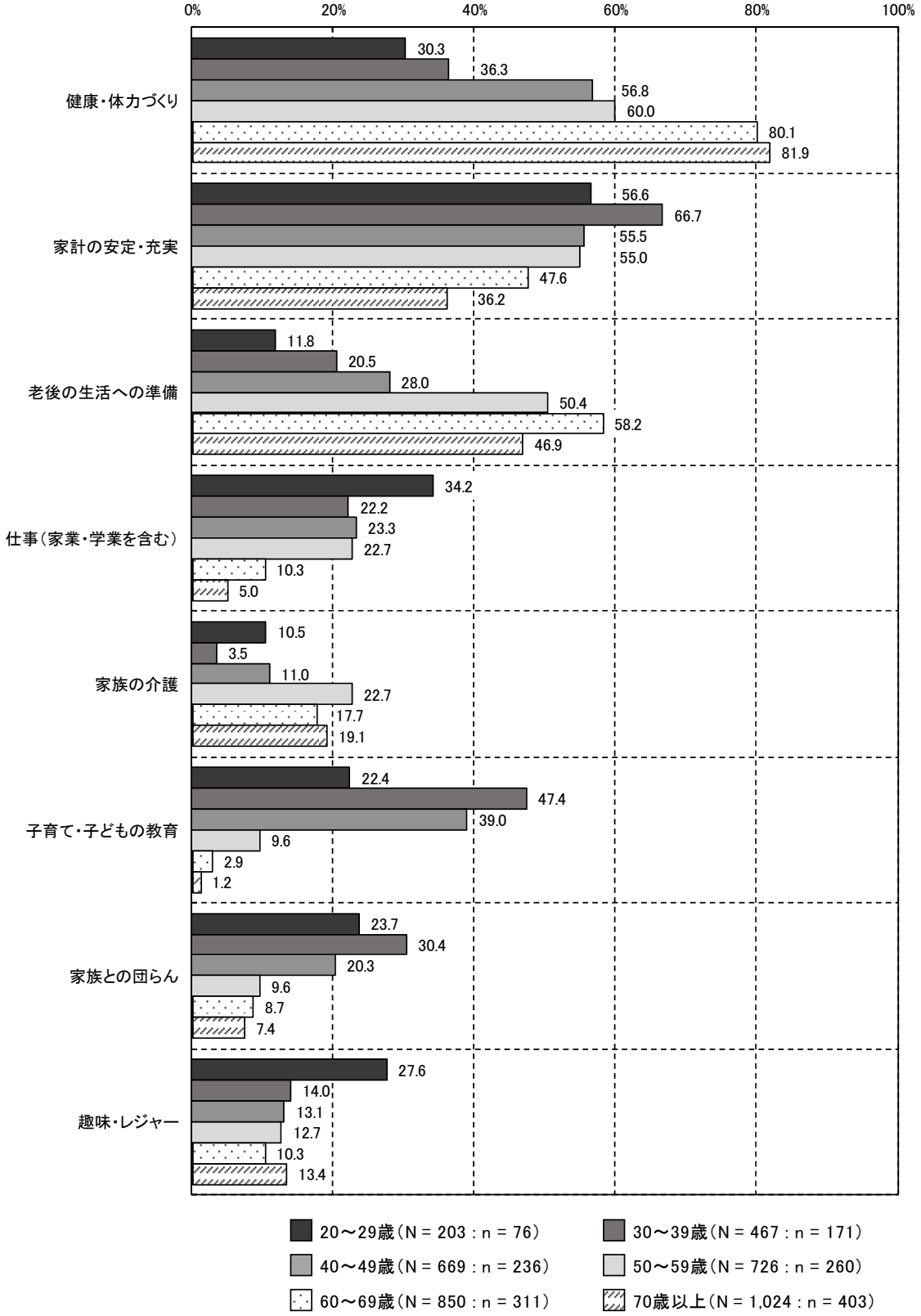
図 4-3 【性別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと




※ N＝総回答数 n＝回答者数

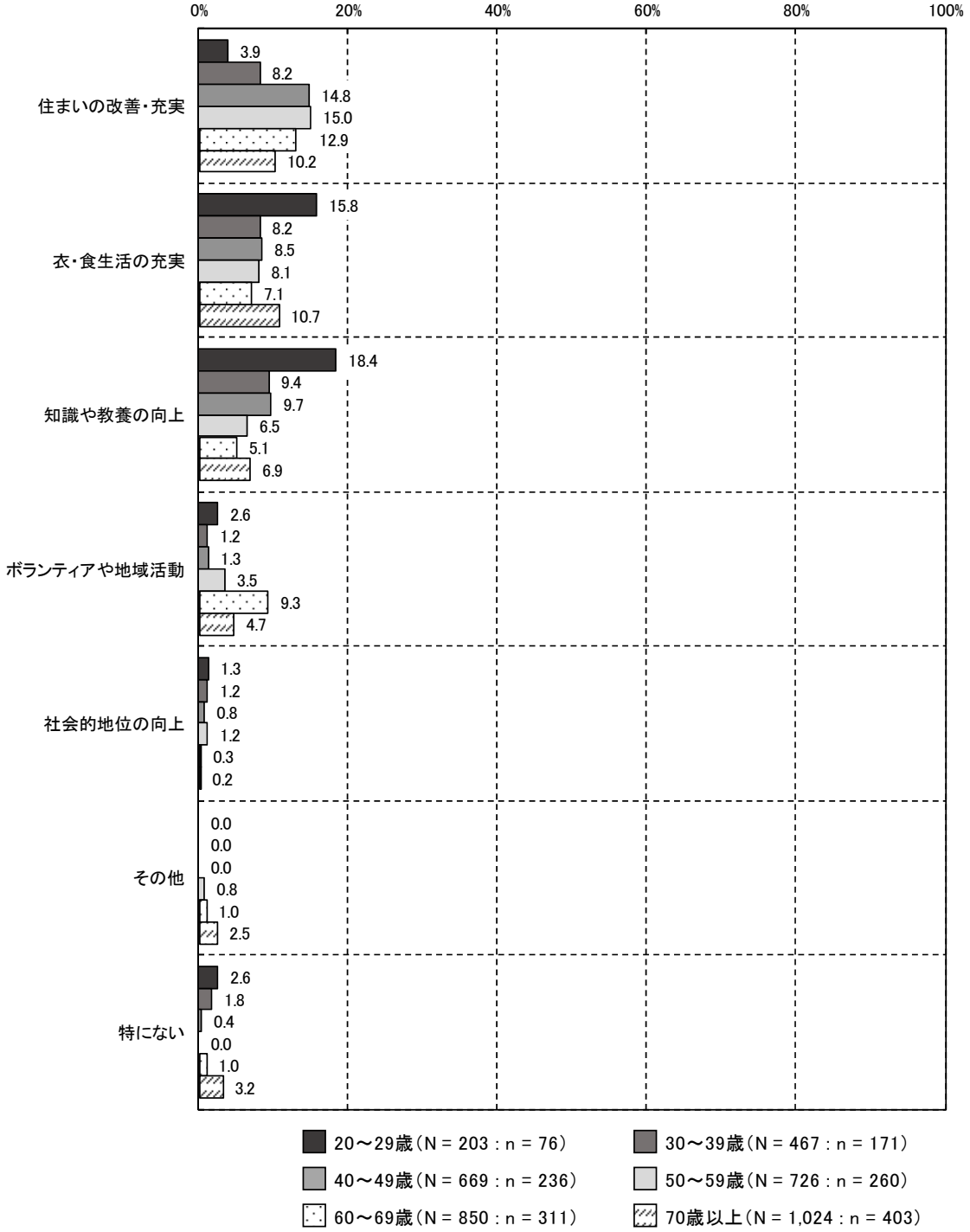
年代別（図 4-4）でみると、20 歳代、30 歳代を除くいずれの年代においても「健康・体力づくり」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 81.9%と最も高くなっている。20 歳代、30 歳代では「家計の安定・充実」が最も高くなっている。

図 4-4 【年代別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと




※ N＝総回答数 n＝回答者数

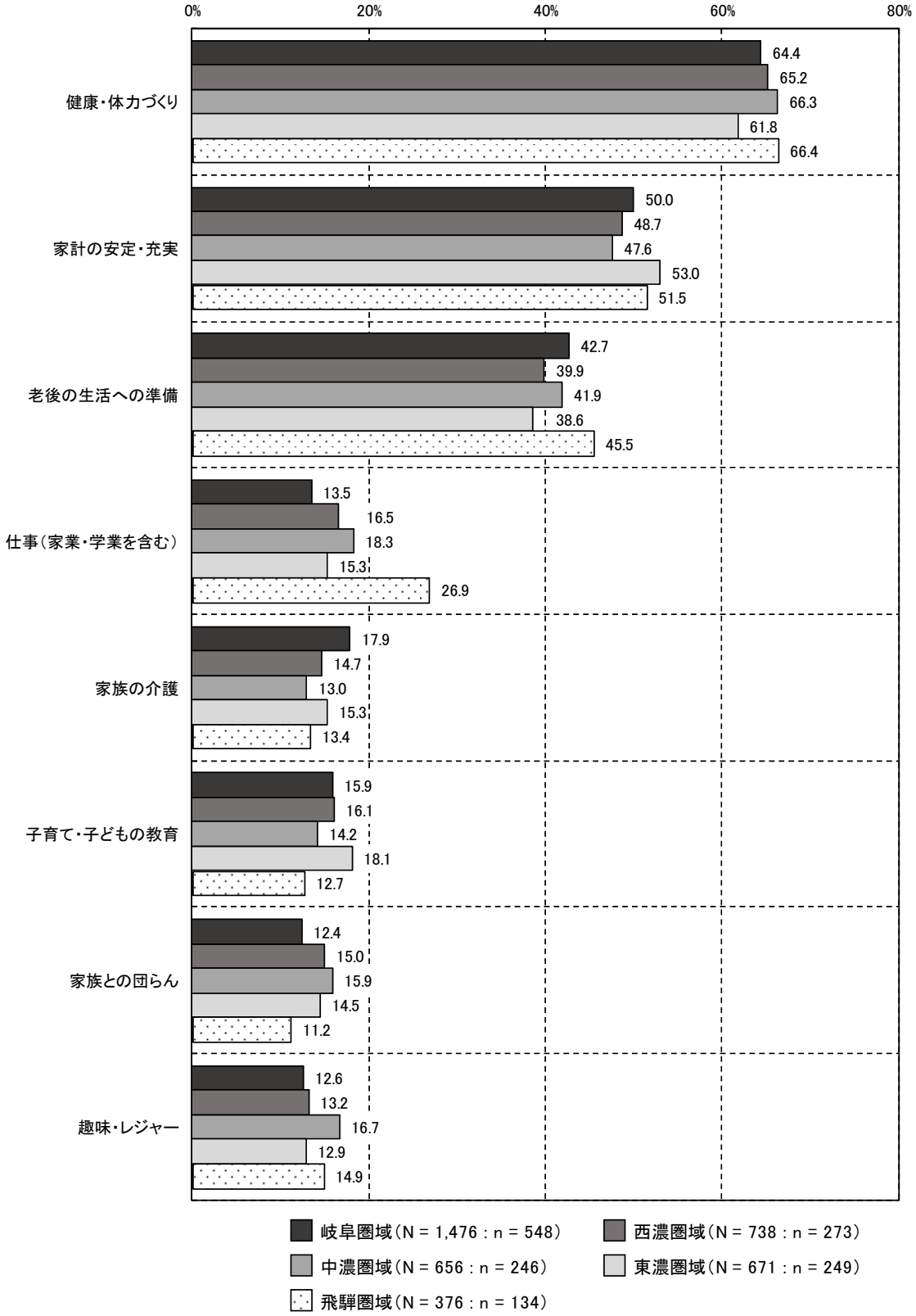
図 4-4 【年代別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと （続き）




※ N＝総回答数 n＝回答者数

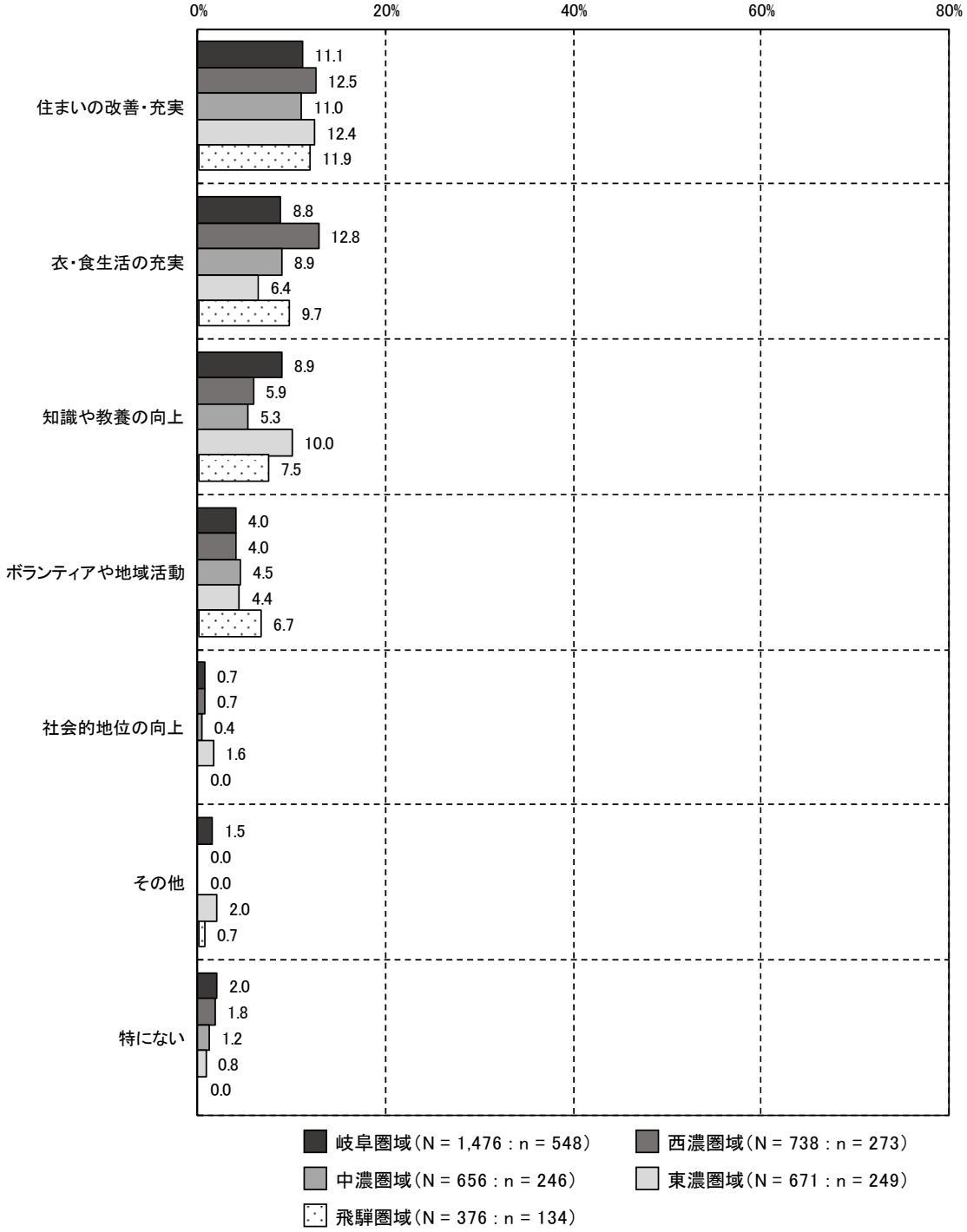
居住圏域別（図 4-5）でみると、いずれの居住圏域においても「健康・体力づくり」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 66.4%と最も高くなっている。

図 4-5 【居住圏域別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと




※ N＝総回答数 n＝回答者数

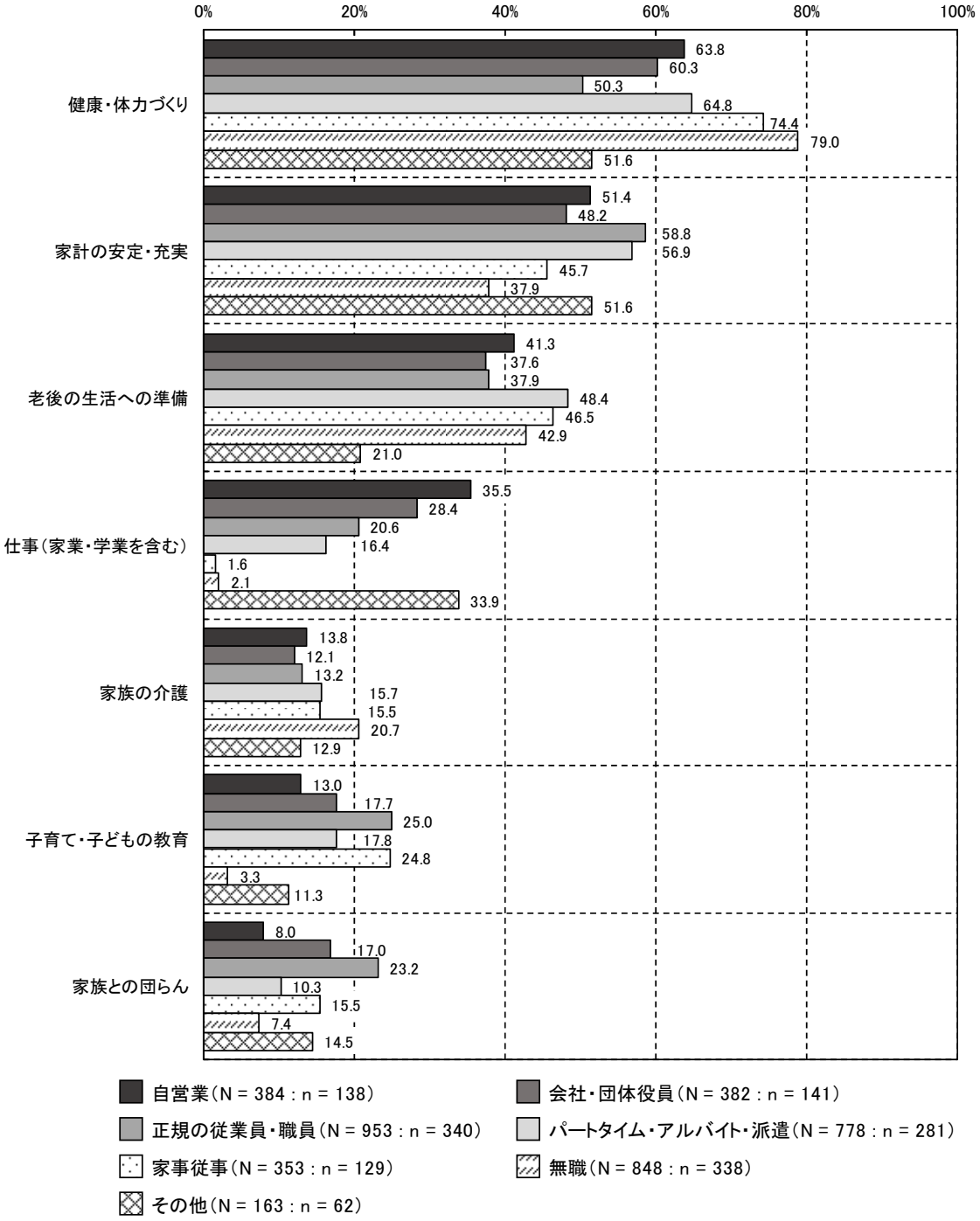
図 4-5 【居住圏域別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと （続き）




※ N＝総回答数 n＝回答者数

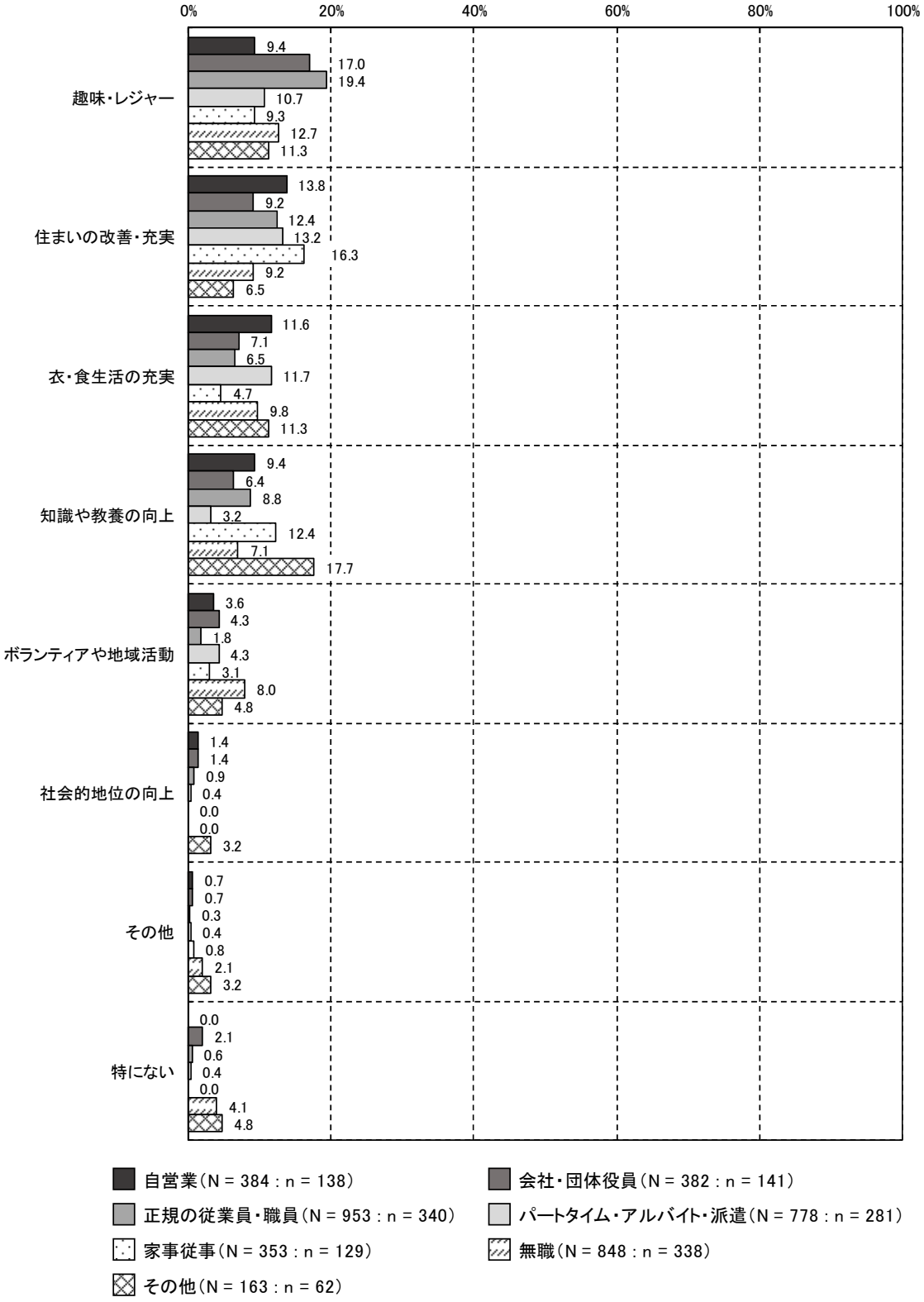
職業別（図 4-6）でみると、正規の従業員・職員を除くいずれの職業においても「健康・体力づくり」が最も高く（その他は「健康・体力づくり」と「家計の安定・充実」が同率）なっている。正規の従業員・職員では「家計の安定・充実」（58.8%）が最も高くなっている。

図 4-6 【職業別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと




※ その他には、自由業、学生を含む。
※ N＝総回答数　n＝回答者数

図 4-6 【職業別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと （続き）



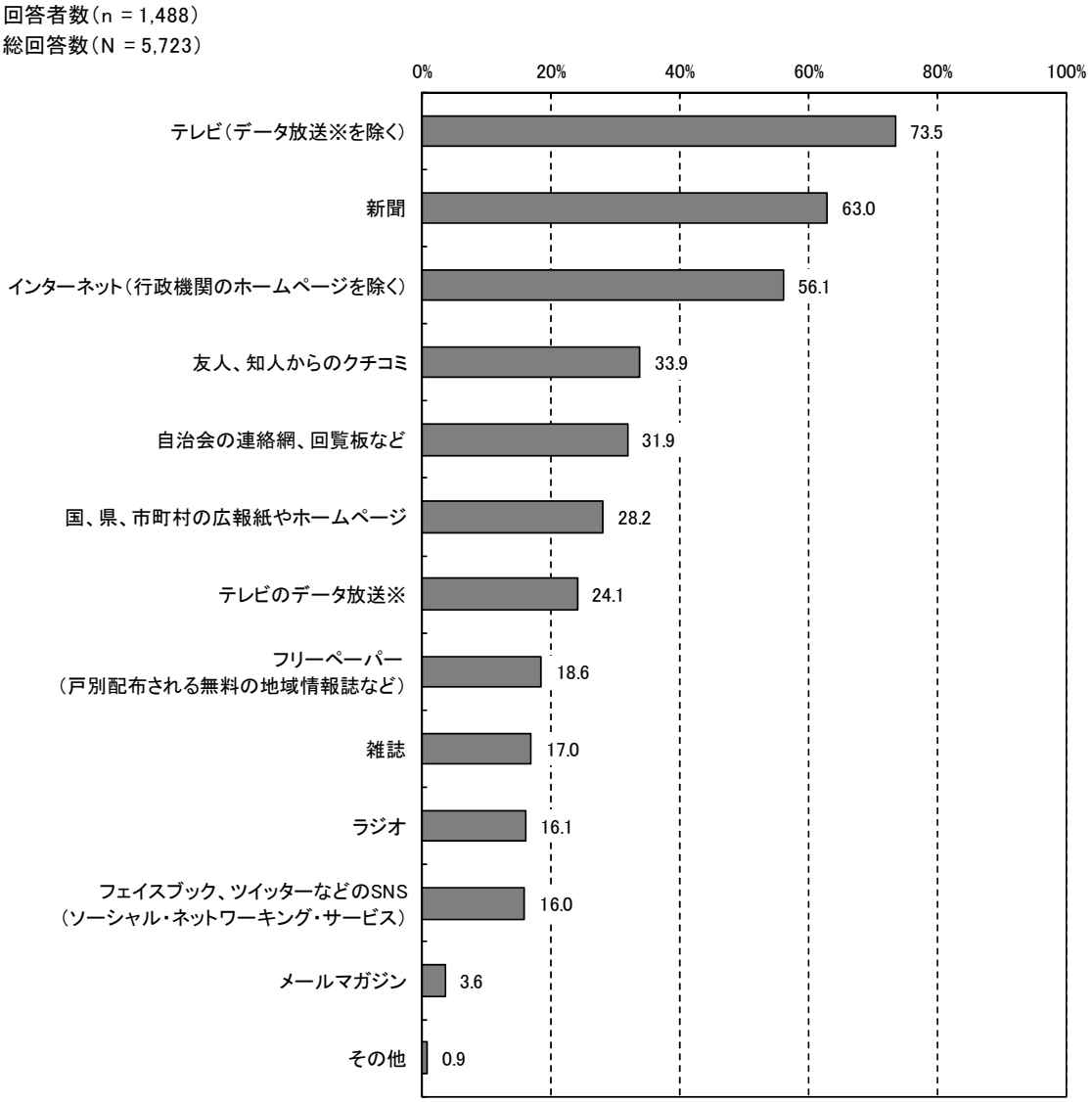

※ その他には、自由業、学生を含む。
※ N＝総回答数　n＝回答者数

## 問５　生活に必要な情報の入手媒体

| |
|---|
| 問５　あなたは、生活に必要な情報を何から得ていますか。（いくつでも） |

全体（図 5-1）でみると、「テレビ（データ放送を除く）」が 73.5%と最も高く、次いで「新聞」（63.0%）、「インターネット（行政機関のホームページを除く）」（56.1%）の順となっている。

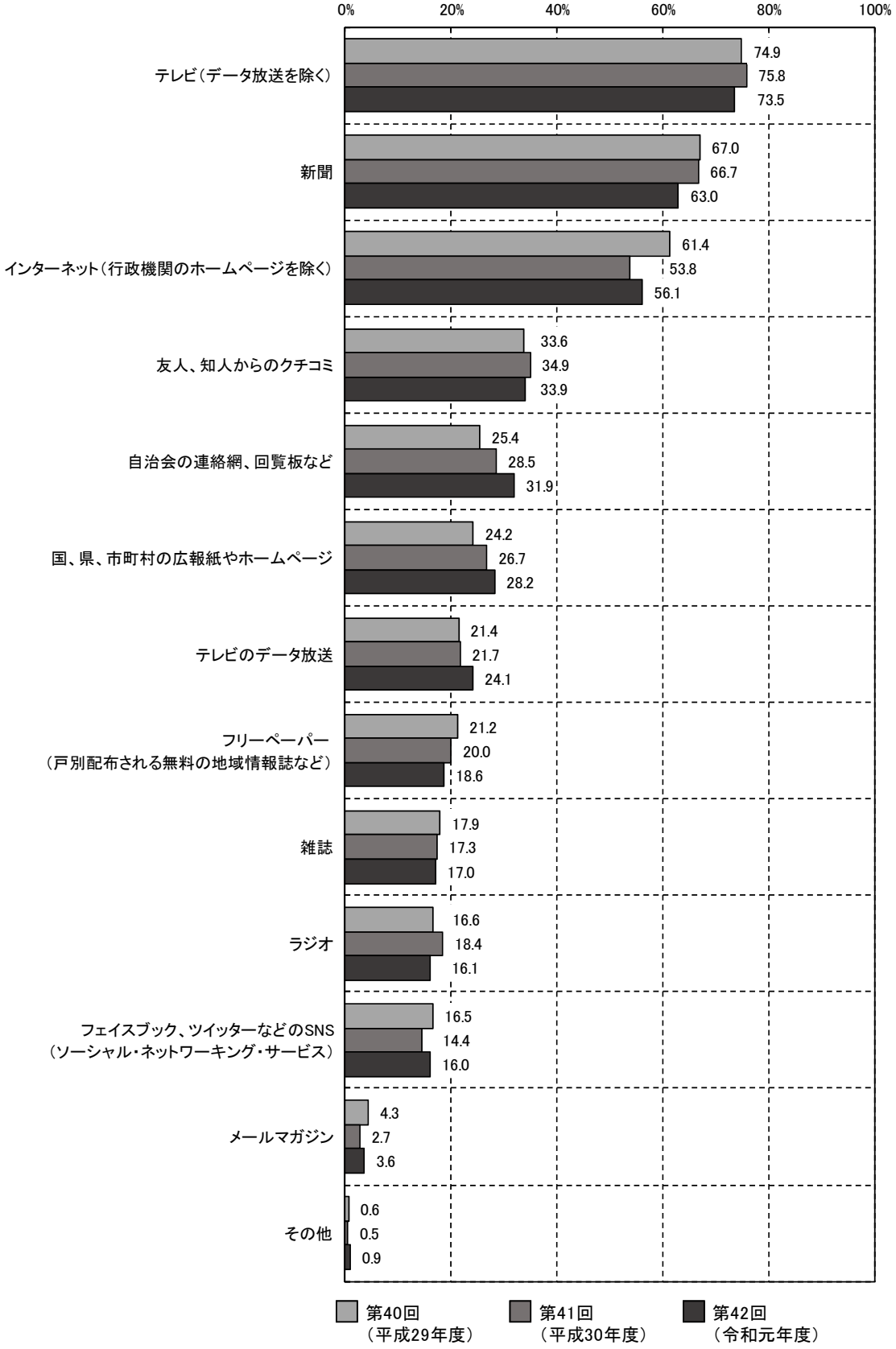
図 5-1　生活に必要な情報の入手媒体




※ データ放送：リモコンの「dボタン」を押すと天気やニュースなどの情報を入手できるサービス

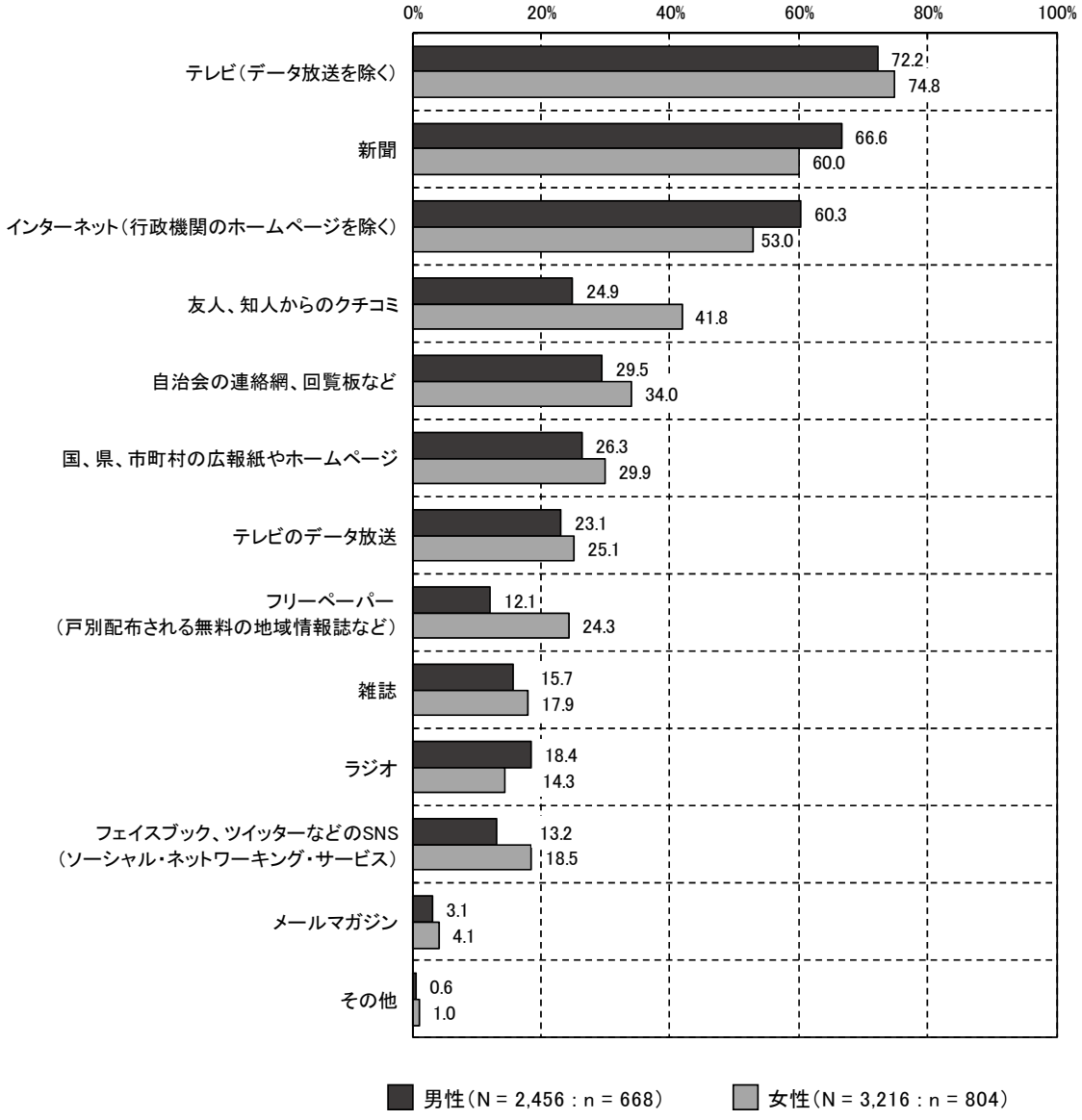
前々回・前回比較（図 5-2）でみると、前々回・前回と同様に「テレビ（データ放送を除く）」が最も高くなっており、次いで「新聞」、「インターネット（行政機関のホームページを除く）」の順となっている。

図 5-2 【前々回・前回比較】 生活に必要な情報の入手媒体



性別（図 5-3）でみると、男女ともに「テレビ（データ放送を除く）」が最も高くなっており、次いで「新聞」、「インターネット（行政機関のホームページを除く）」の順となっている。差が最も大きいのは「友人、知人からのクチコミ」で、女性が男性より 16.9 ポイント高くなっている。

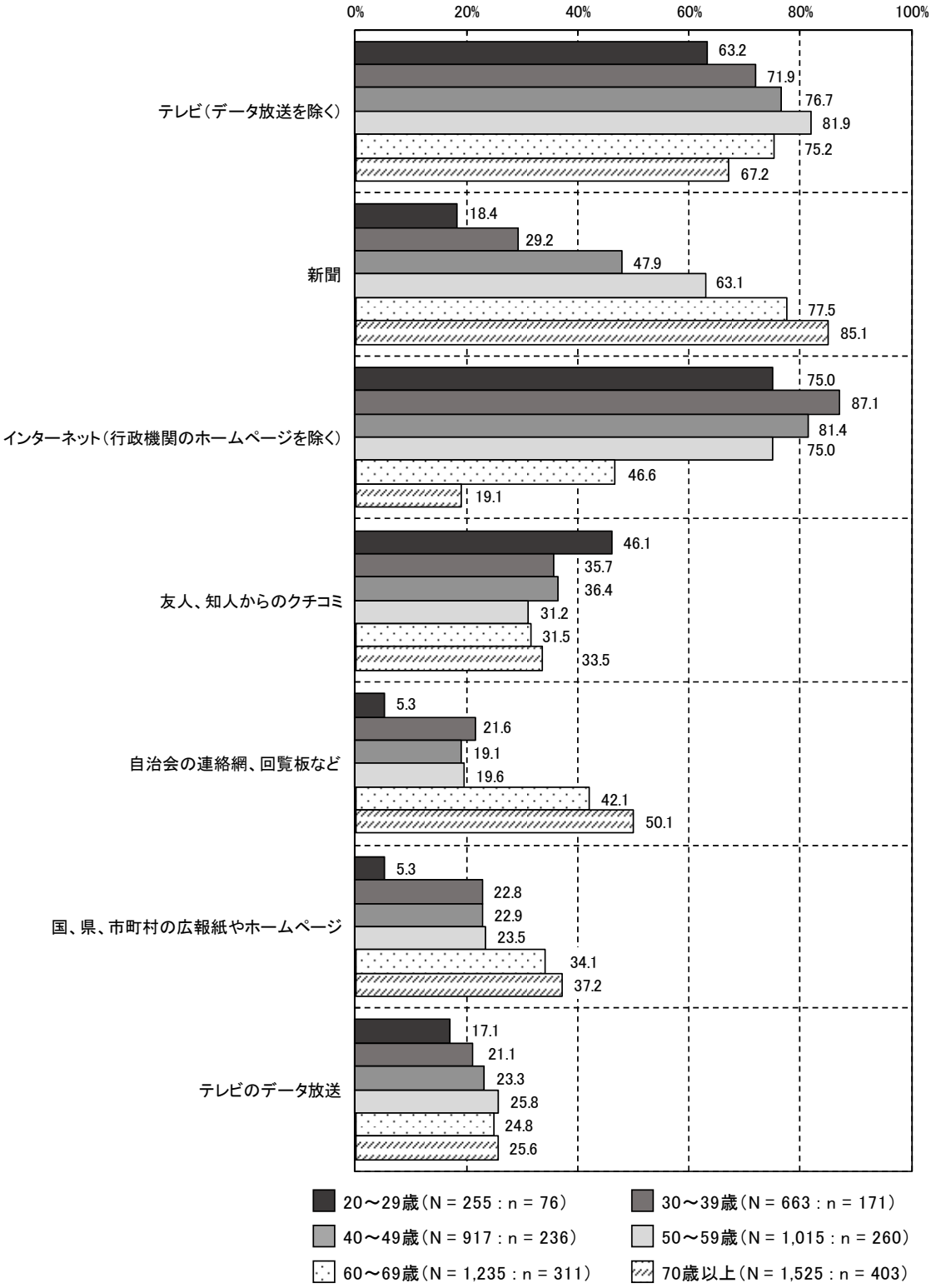
図 5-3 【性別】 生活に必要な情報の入手媒体




※ N＝総回答数 n＝回答者数

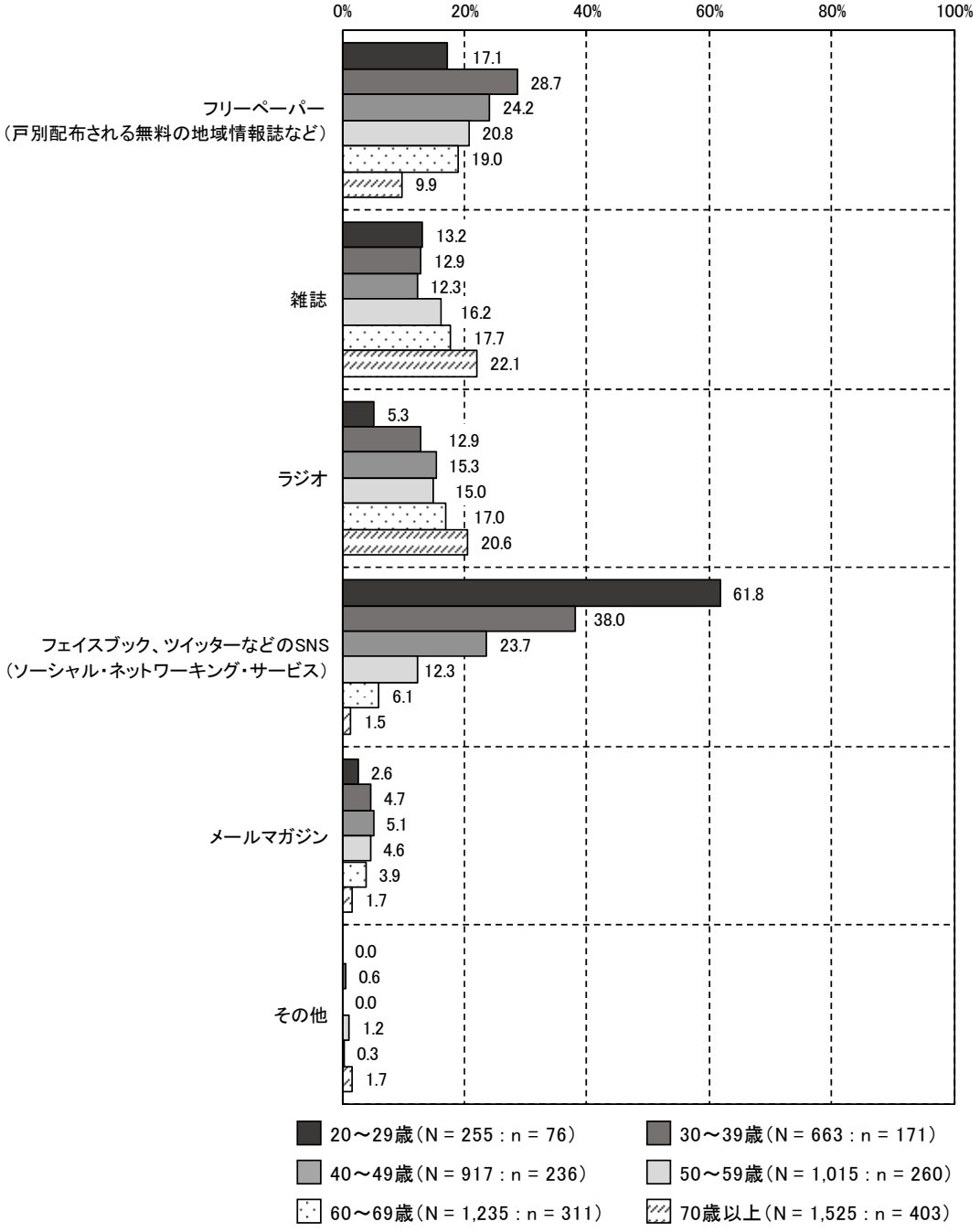
年代別（図 5-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代においては「インターネット（行政機関のホームページを除く）」が最も高く、50 歳代では「テレビ（データ放送を除く）」（81.9%）が、60 歳代、70 歳以上では「新聞」が最も高くなっている。

図 5-4 【年代別】 生活に必要な情報の入手媒体




※ N＝総回答数 n＝回答者数

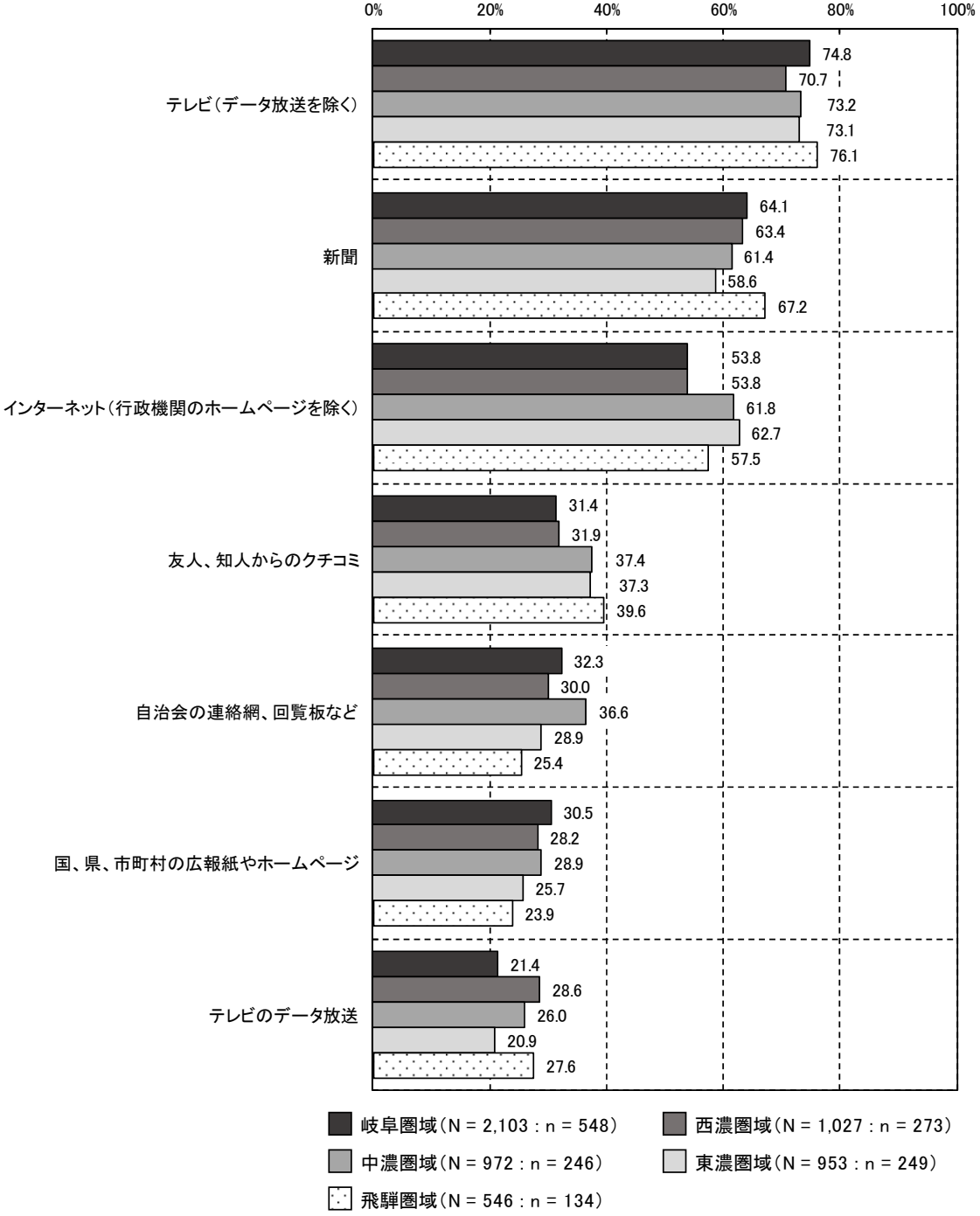
図 5-4 【年代別】 生活に必要な情報の入手媒体 （続き）




※ N＝総回答数 n＝回答者数

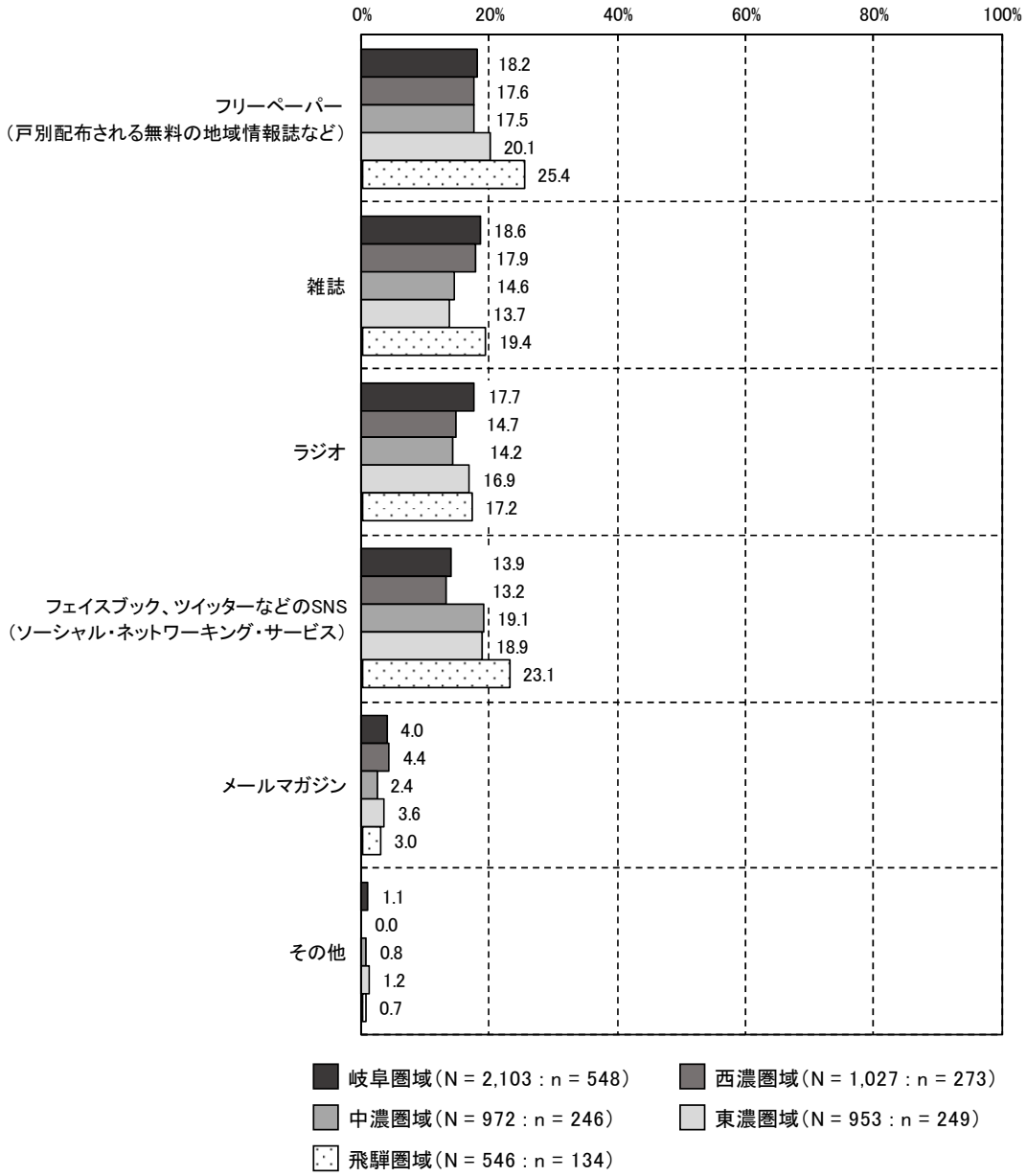
居住圏域別（図 5-5）でみると、いずれの居住圏域においても「テレビ（データ放送を除く）」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 76.1%と最も高くなっている。

図 5-5 【居住圏域別】 生活に必要な情報の入手媒体




※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 5-5 【居住圏域別】 生活に必要な情報の入手媒体 （続き）



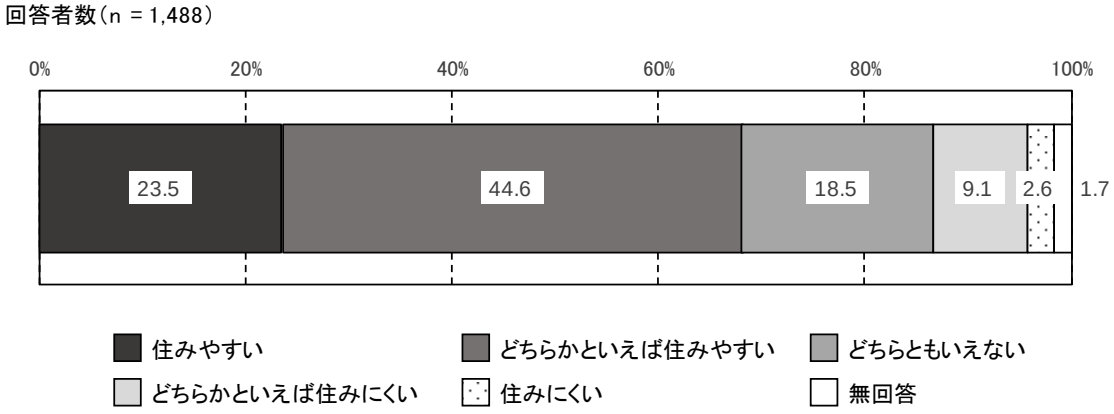

※ N＝総回答数 n＝回答者数

## 問６　現在住んでいる地域は住みやすいか

| |
|---|
| 問６　あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。（１つだけ） |

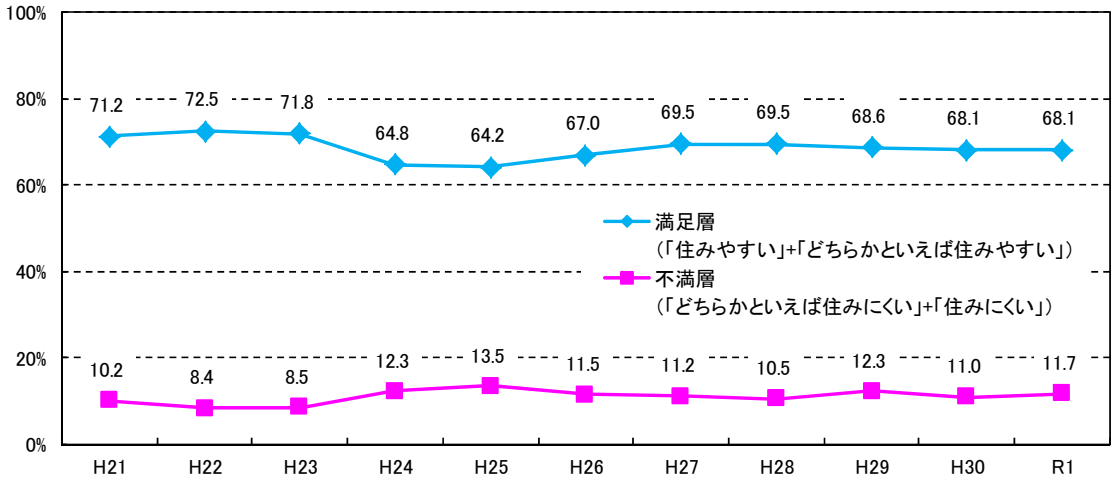
全体（図 6-1）でみると、「どちらかといえば住みやすい」が 44.6%と最も高くなっている。次いで、「住みやすい」(23.5%)、「どちらともいえない」(18.5%) の順となっている。

図 6-1　現在住んでいる地域は住みやすいか




経年変化（図 6-2）でみると、平成 21 年から「満足層」(「住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」) が「不満層」(「どちらかといえば住みにくい」+「住みにくい」) を上回っている。令和元年は前年と比べて「満足層」は増減がなく、「不満層」は 0.7 ポイント増加している。

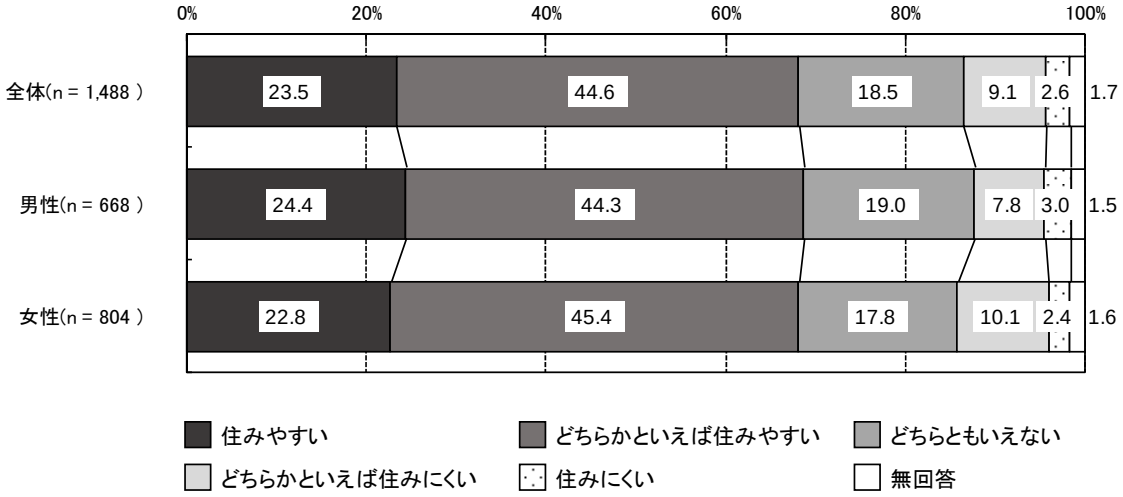
図 6-2【経年変化】現在住んでいる地域は住みやすいか




※ 平成 21 年度から調査

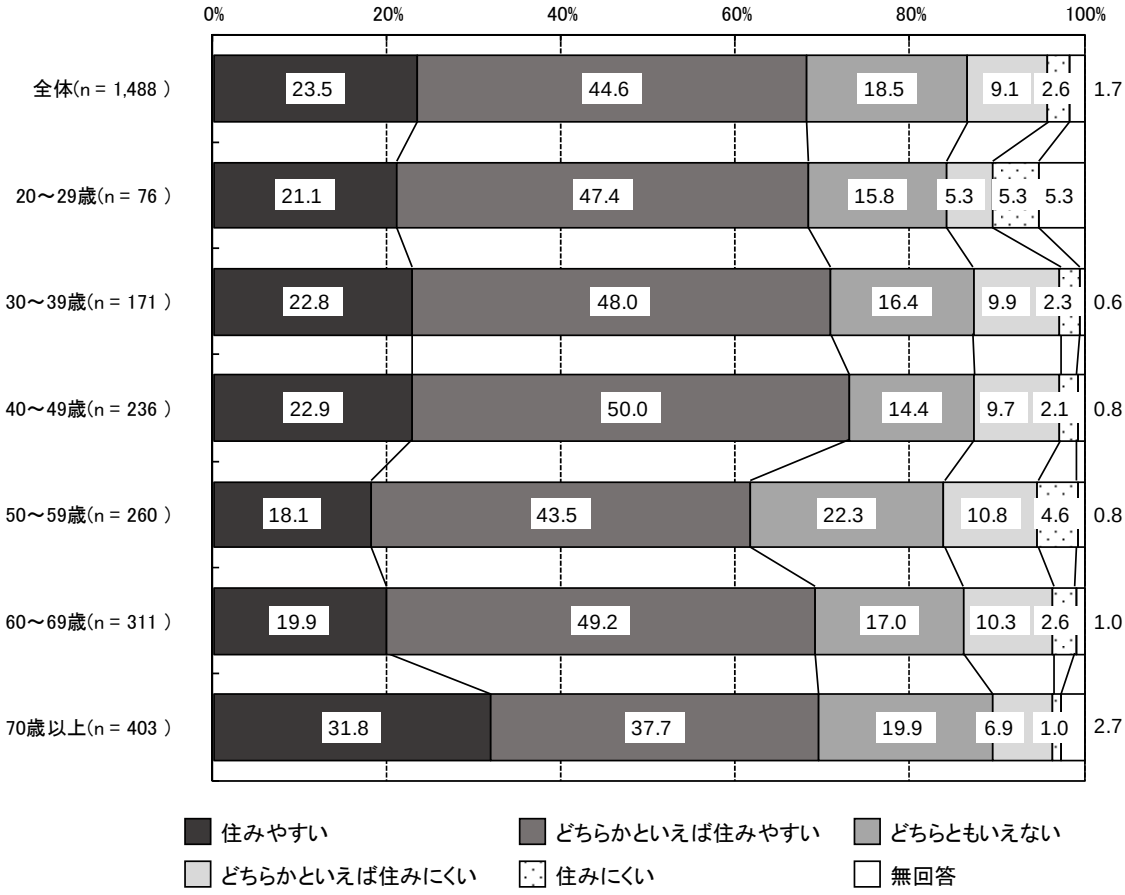
性別（図 6-3）でみると、男女ともに「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、男性が 44.3%、女性が 45.4%となっている。

図 6-3 【性別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



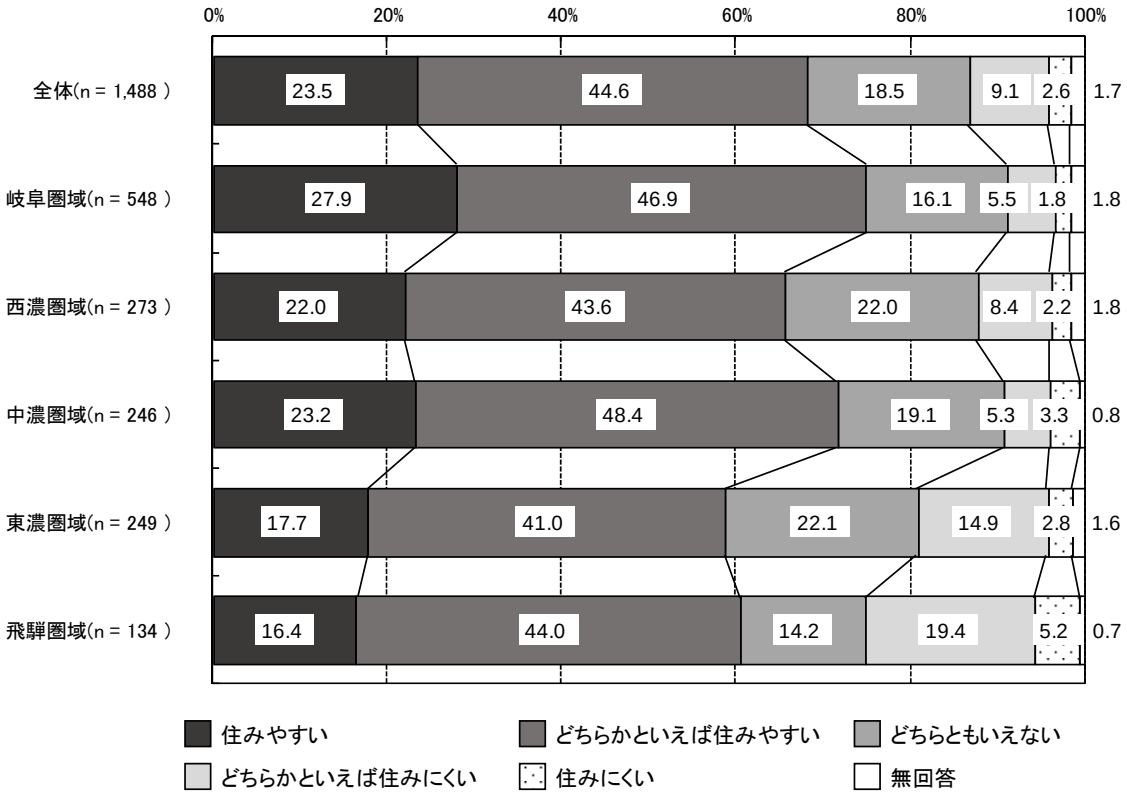

年代別（図 6-4）でみると、いずれの年代においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、そのうち 40 歳代が 50.0%と最も高くなっている。

図 6-4 【年代別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



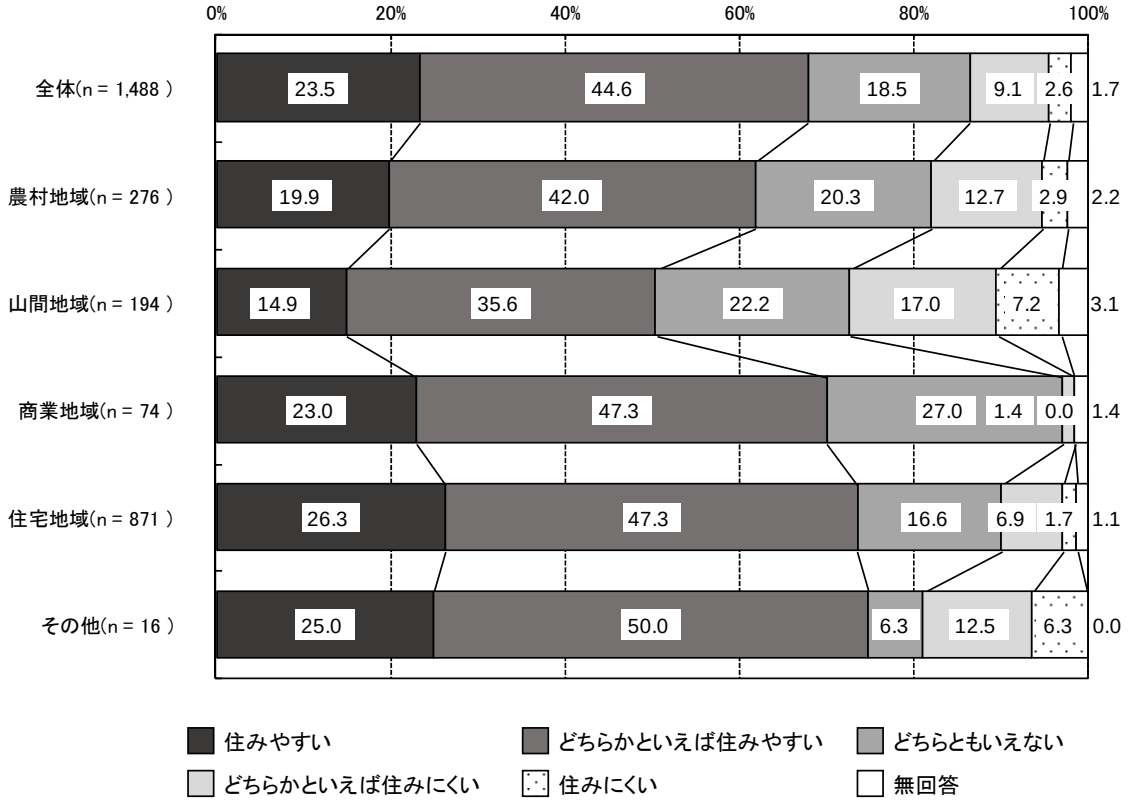
居住圏域別（図 6-5）でみると、いずれの居住圏域においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、そのうち中濃圏域が 48.4%と最も高くなっている。

図 6-5【居住圏域別】現在住んでいる地域は住みやすいか



居住環境別（図 6-6）でみると、いずれの居住環境においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、そのうちその他が 50.0%と最も高くなっている。

図 6-6 【居住環境別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



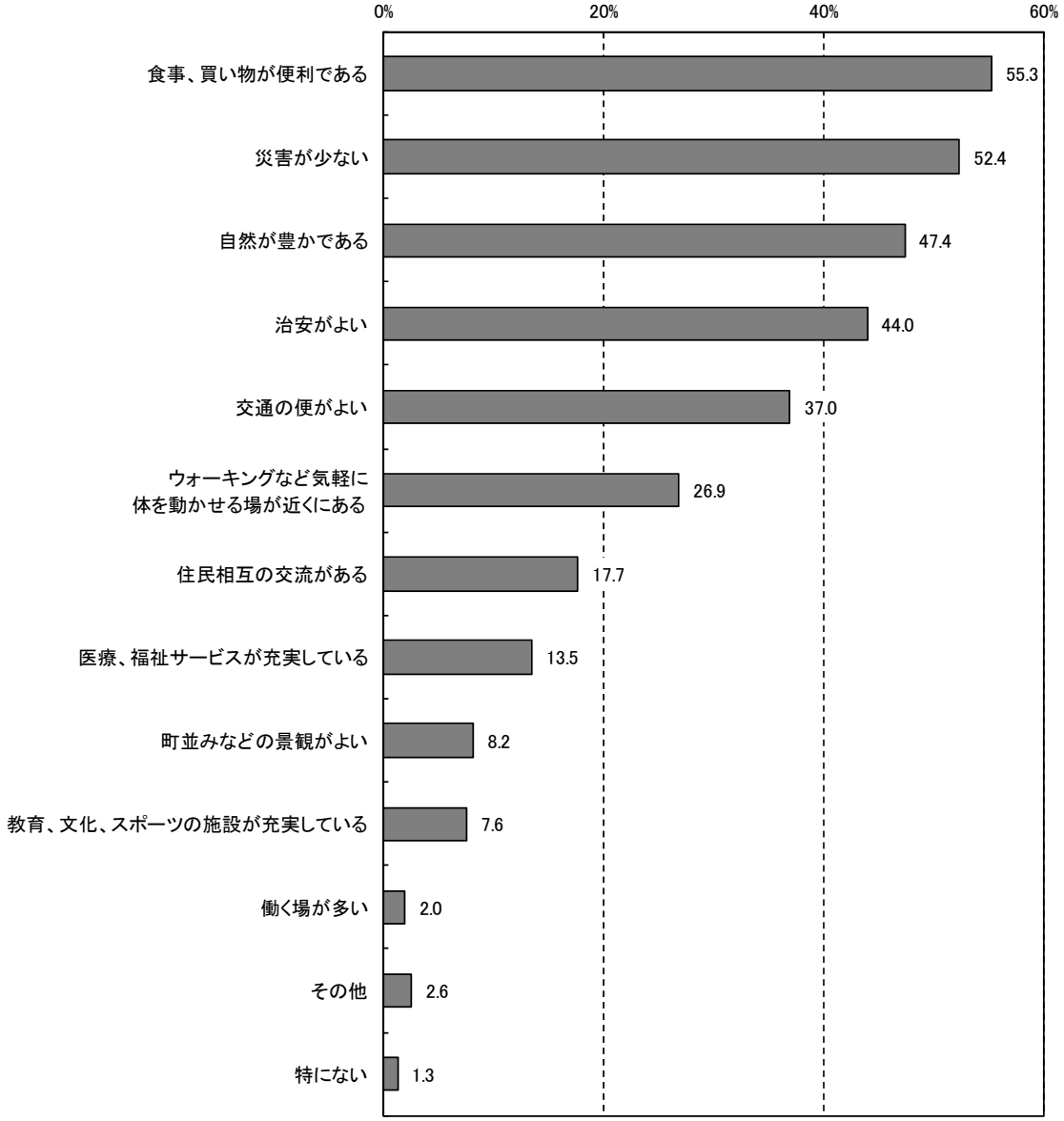
## 問６－２　住んでいる地域が住みやすいと感じる点

| |
|---|
| 問６－２　「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方にお尋ねします。<br>現在お住まいの地域が住みやすいと感じるのは、特にどのような点ですか。<br>（いくつでも） |

全体（図 6-2-1）でみると、「食事、買い物が便利である」が 55.3%と最も高く、次いで「災害が少ない」（52.4%）、「自然が豊かである」（47.4%）、「治安がよい」（44.0%）、「交通の便がよい」（37.0%）の順となっている。

**図 6-2-1　住んでいる地域が住みやすいと感じる点**

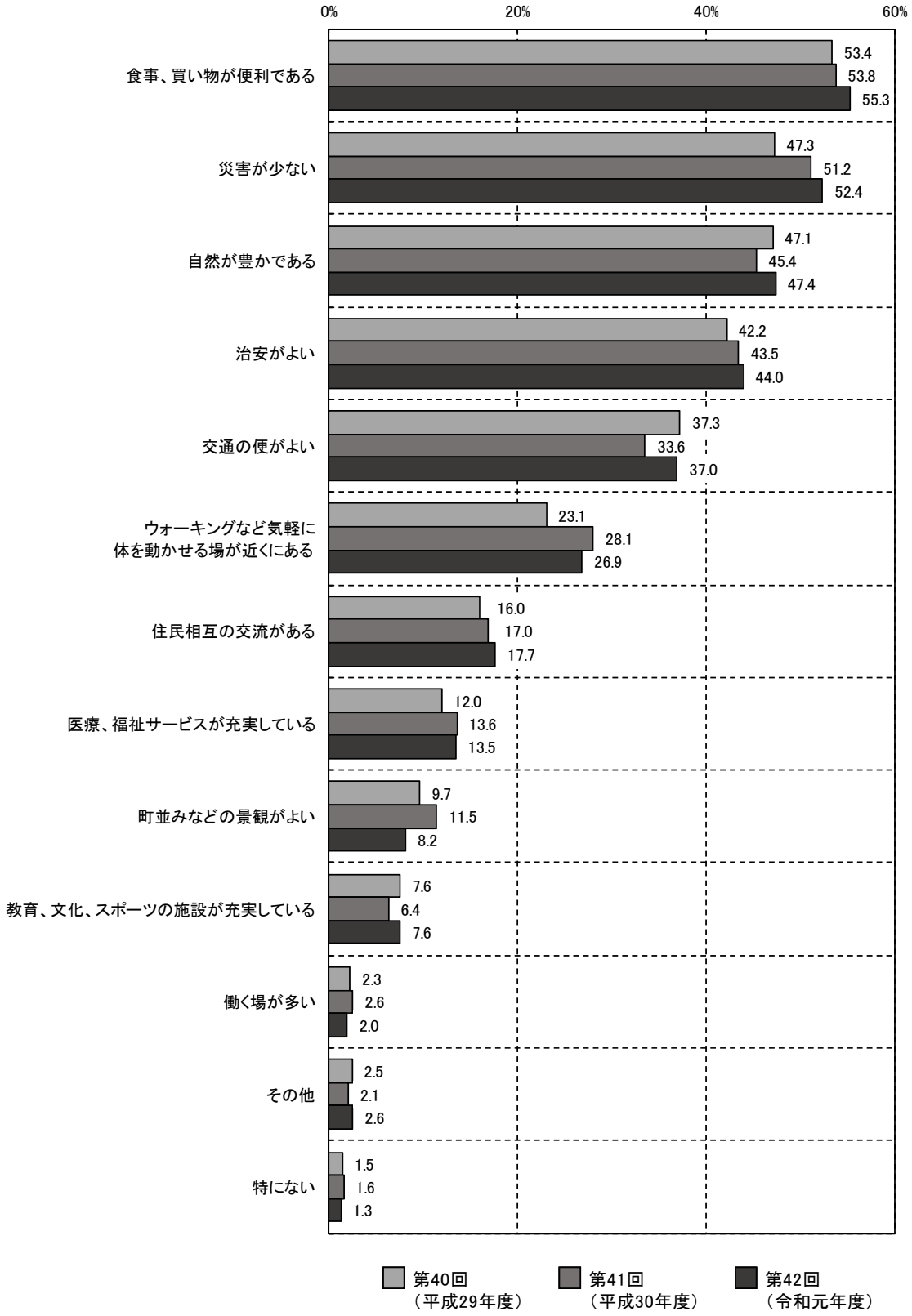
回答者数（n = 1,013）※
総回答数（N = 3,201）




※ 問 6 で「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方のみ

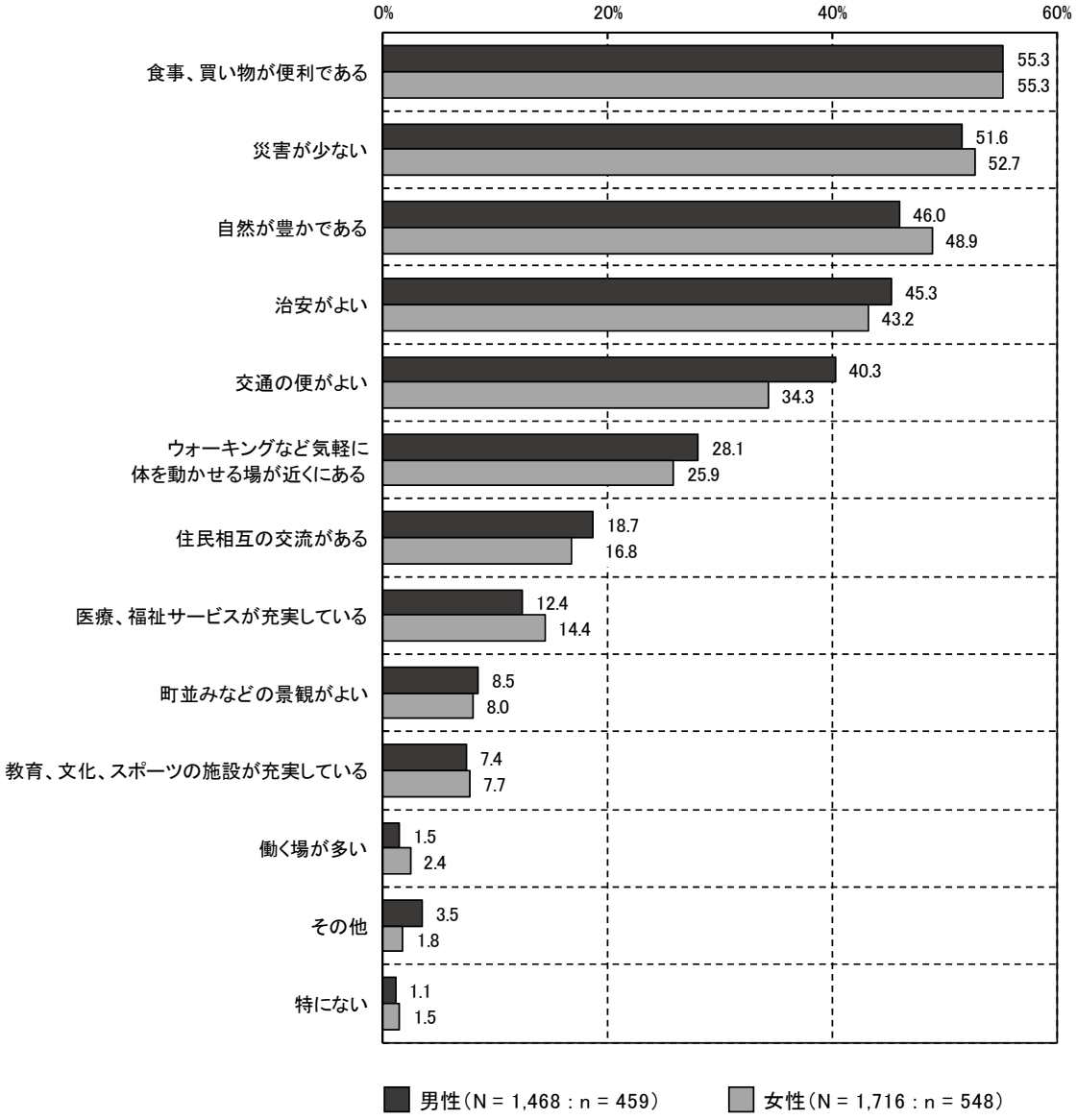
前々回・前回比較（図 6-2-2）でみると、前々回・前回と同様に「食事、買い物が便利である」が最も高く、次いで「災害が少ない」、「自然が豊かである」の順となっている。

図 6-2-2 【前々回・前回比較】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



性別（図 6-2-3）でみると、男女ともに「食事、買い物が便利である」が最も高くなっており、ともに 55.3%となっている。次いで「災害が少ない」、「自然が豊かである」の順となっている。「交通の便がよい」では男性が女性より 6.0 ポイント高くなっている。

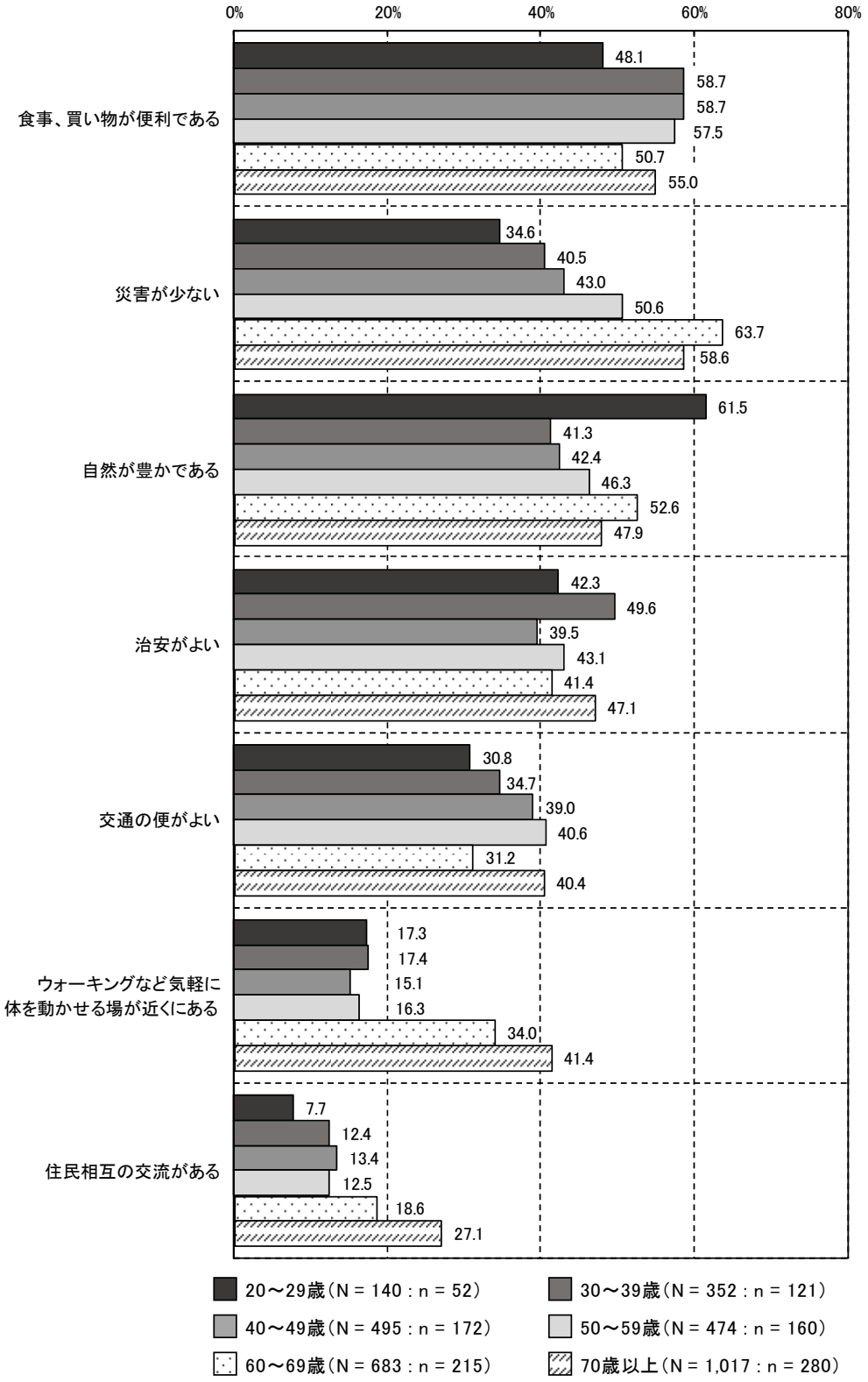
図 6-2-3 【性別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点




※ N＝総回答数 n＝回答者数

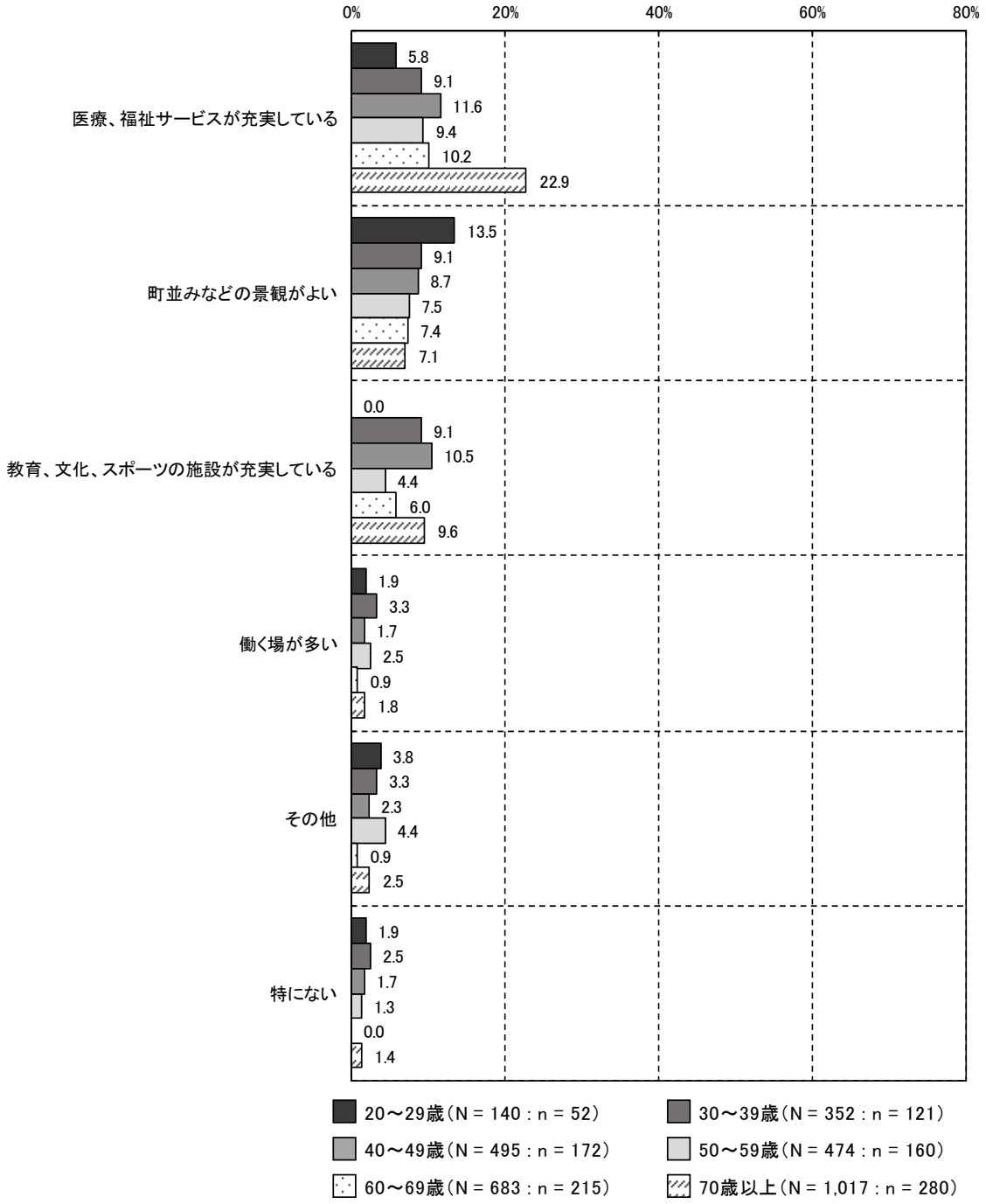
年代別（図 6-2-4）でみると、30 歳代、40 歳代、50 歳代で「食事、買い物が便利である」が最も高く、20 歳代では「自然が豊かである」（61.5%）が、60 歳代、70 歳以上では「災害が少ない」が最も高くなっている。

図 6-2-4 【年代別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点




※ N＝総回答数 n＝回答者数

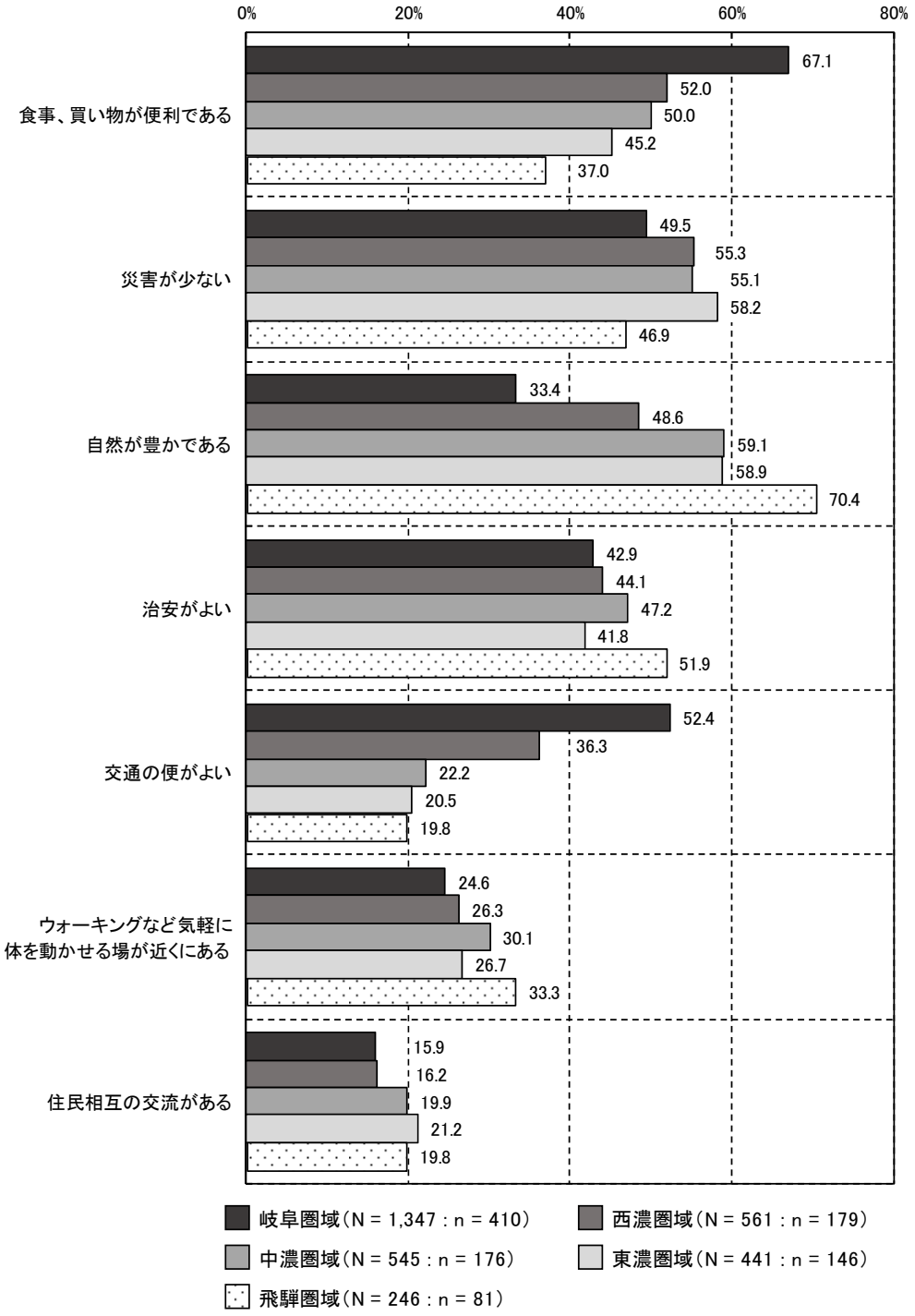
図 6-2-4 【年代別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点 （続き）




※ N＝総回答数 n＝回答者数

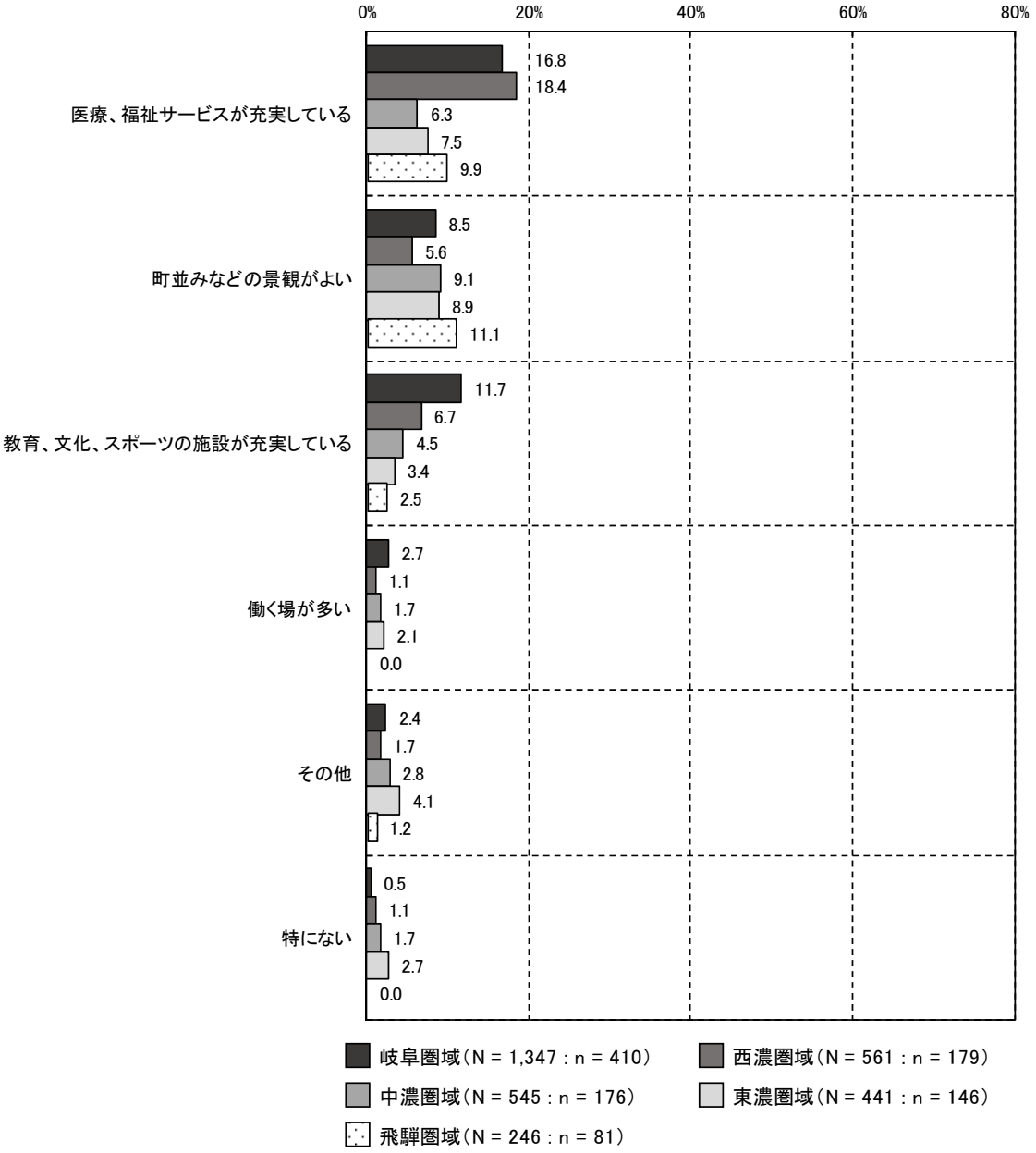
居住圏域別（図 6-2-5）でみると、岐阜圏域では「食事、買い物が便利である」（67.1%）が、西濃圏域では「災害が少ない」（55.3%）が、中濃圏域、東濃圏域、飛騨圏域では「自然が豊かである」が最も高くなっている。

図 6-2-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点




※ N＝総回答数　n＝回答者数

図 6-2-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点 （続き）



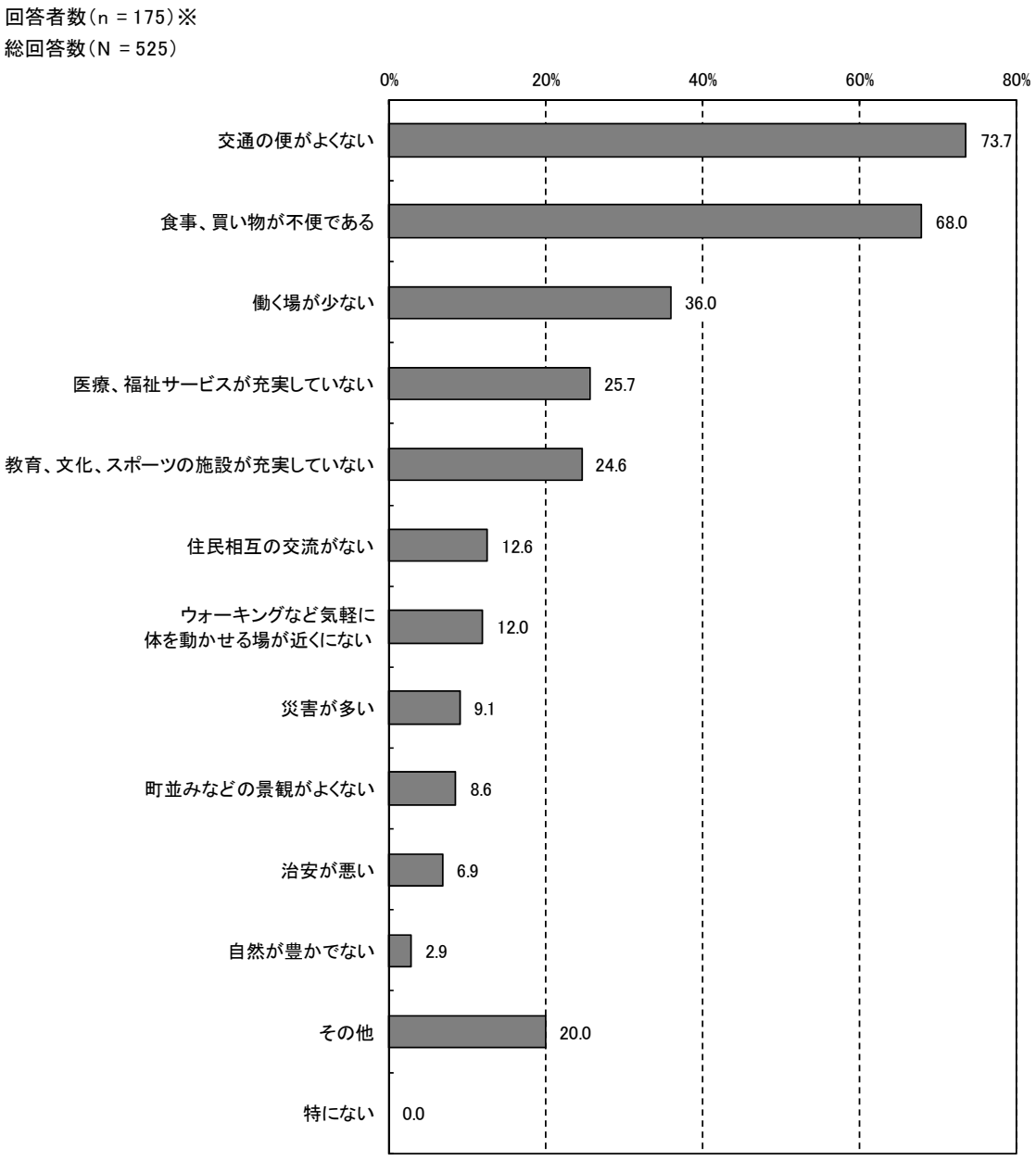

※ N＝総回答数 n＝回答者数

## 問６－３　住んでいる地域が住みにくいと感じる点

| |
|---|
| 問６－３　「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方にお尋ねします。<br>現在お住まいの地域が住みにくいと感じるのは、特にどのような点ですか。<br>（いくつでも） |

全体（図 6-3-1）でみると、「交通の便がよくない」が 73.7％と最も高く、次いで「食事、買い物が不便である」（68.0％）、「働く場が少ない」（36.0％）の順となっている。

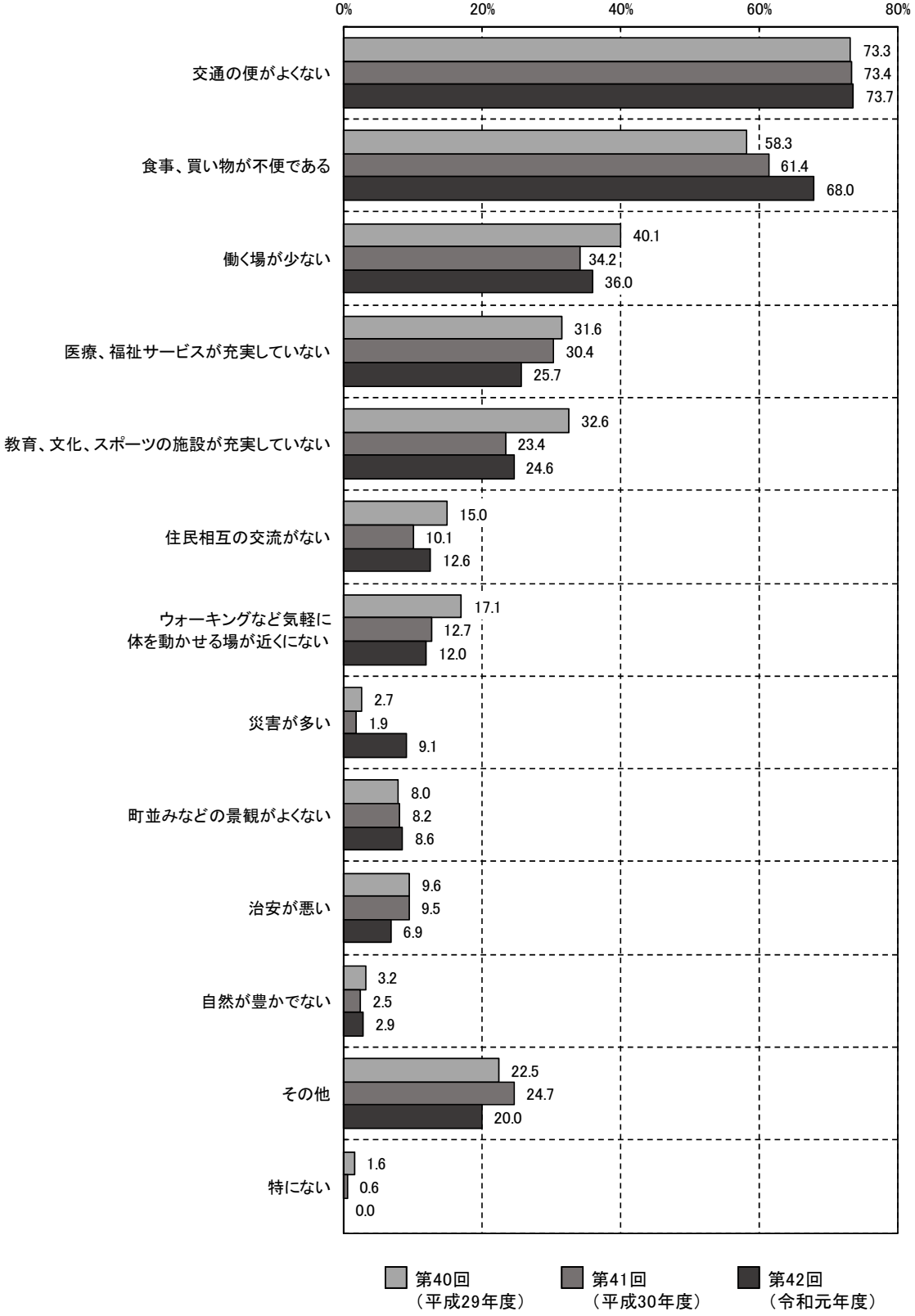
**図 6-3-1　住んでいる地域が住みにくいと感じる点**




※ 問 6 で「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方のみ

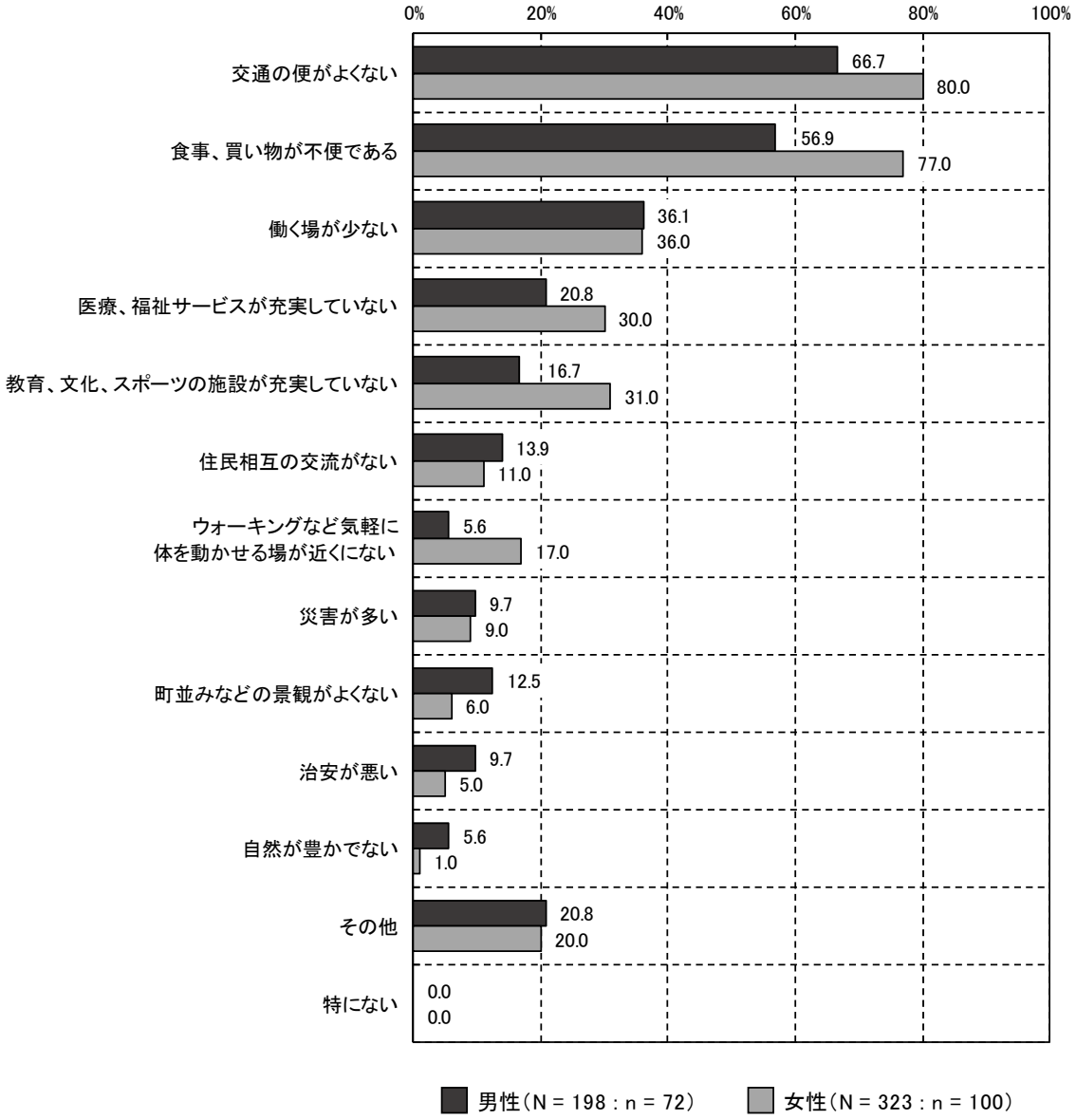
前々回・前回比較（図 6-3-2）でみると、前々回・前回と同様に「交通の便がよくない」が最も高くなっている。次いで「食事、買い物が不便である」、「働く場が少ない」の順となっており、「食事、買い物が不便である」は前回より 6.6 ポイント増加している。

図 6-3-2 【前々回・前回比較】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点



性別（図 6-3-3）でみると、男女ともに「交通の便がよくない」が最も高く、次いで「食事、買い物が不便である」が高くなっている。「食事、買い物が不便である」では女性が男性より 20.1 ポイント高くなっている。

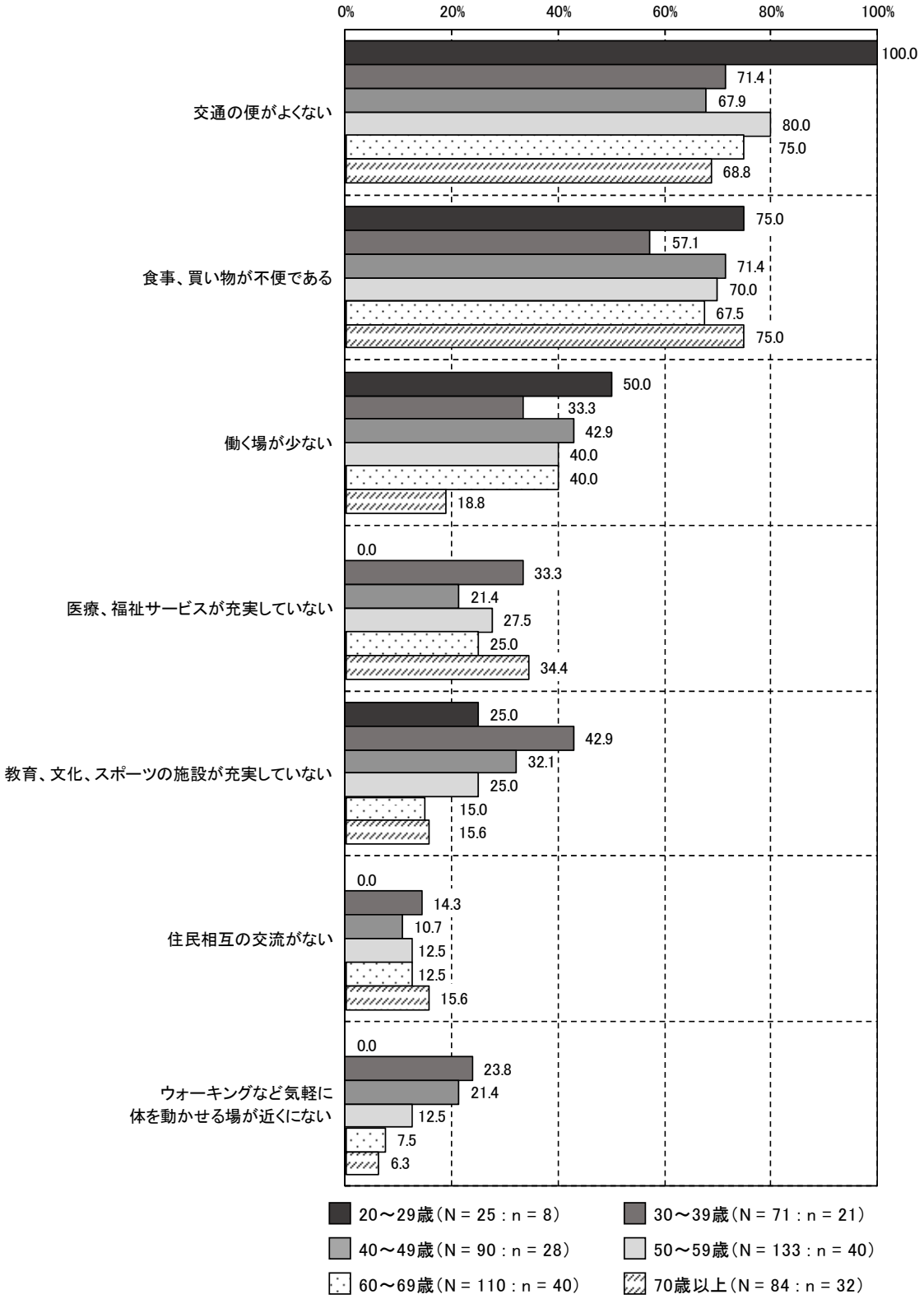
図 6-3-3 【性別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点




※ N＝総回答数 n＝回答者数

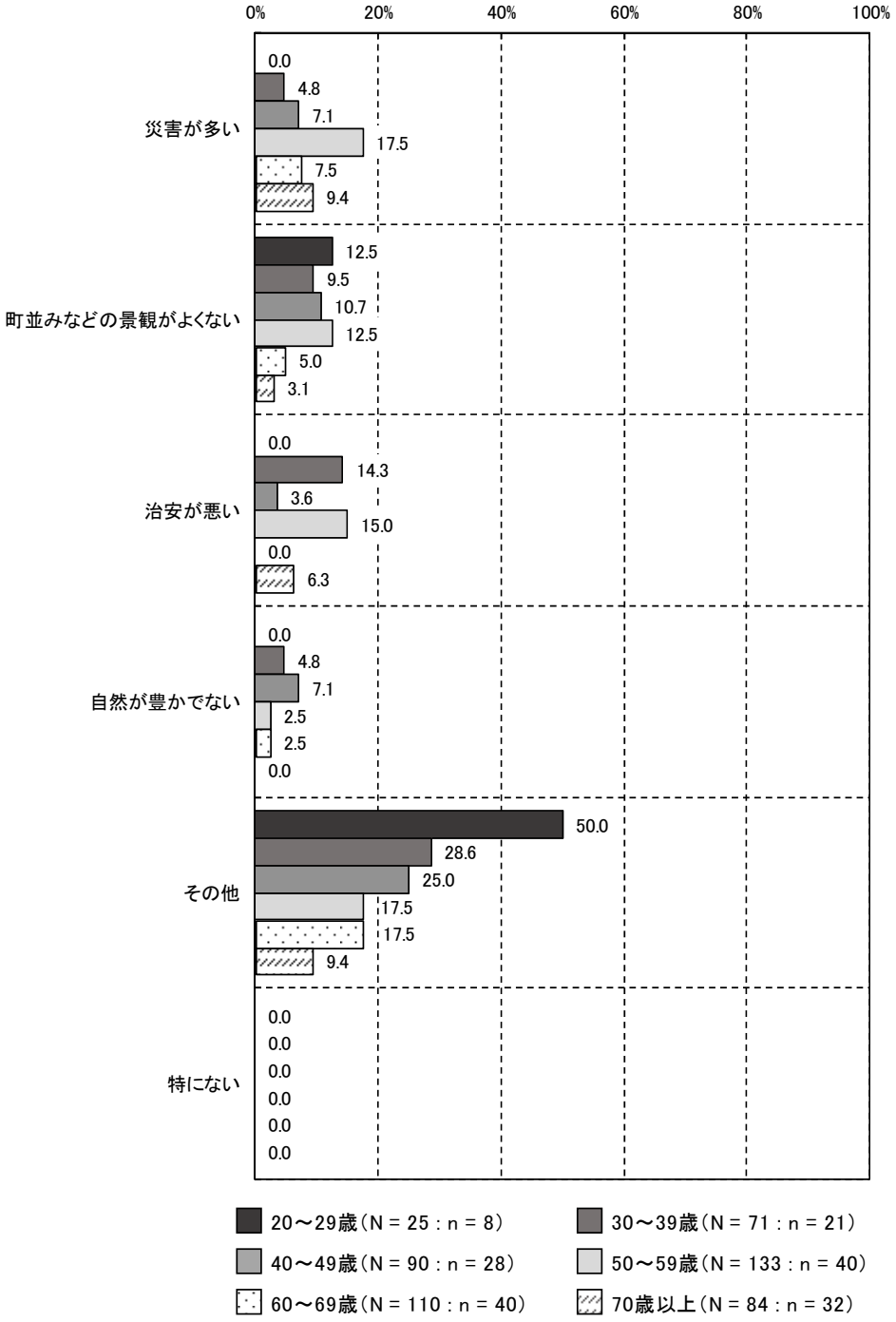
年代別（図 6-3-4）でみると、40 歳代、70 歳以上を除くいずれの年代においても、「交通の便がよくない」が最も高く、20 歳代は 100%となっている。40 歳代、70 歳以上では「食事、買い物が不便である」が最も高くなっている。

図 6-3-4 【年代別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点




※ N＝総回答数 n＝回答者数

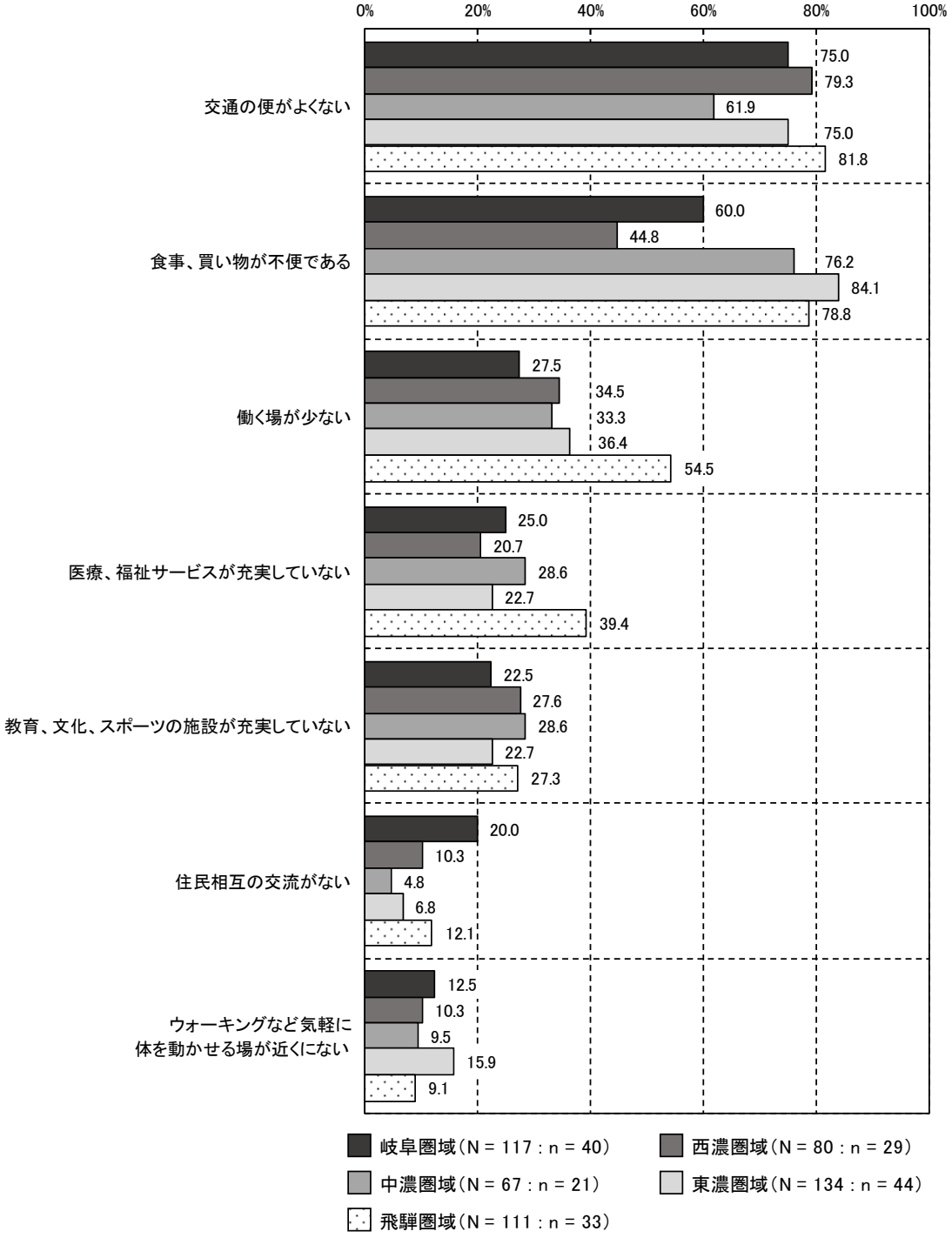
図 6-3-4 【年代別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点 （続き）




※ N＝総回答数 n＝回答者数

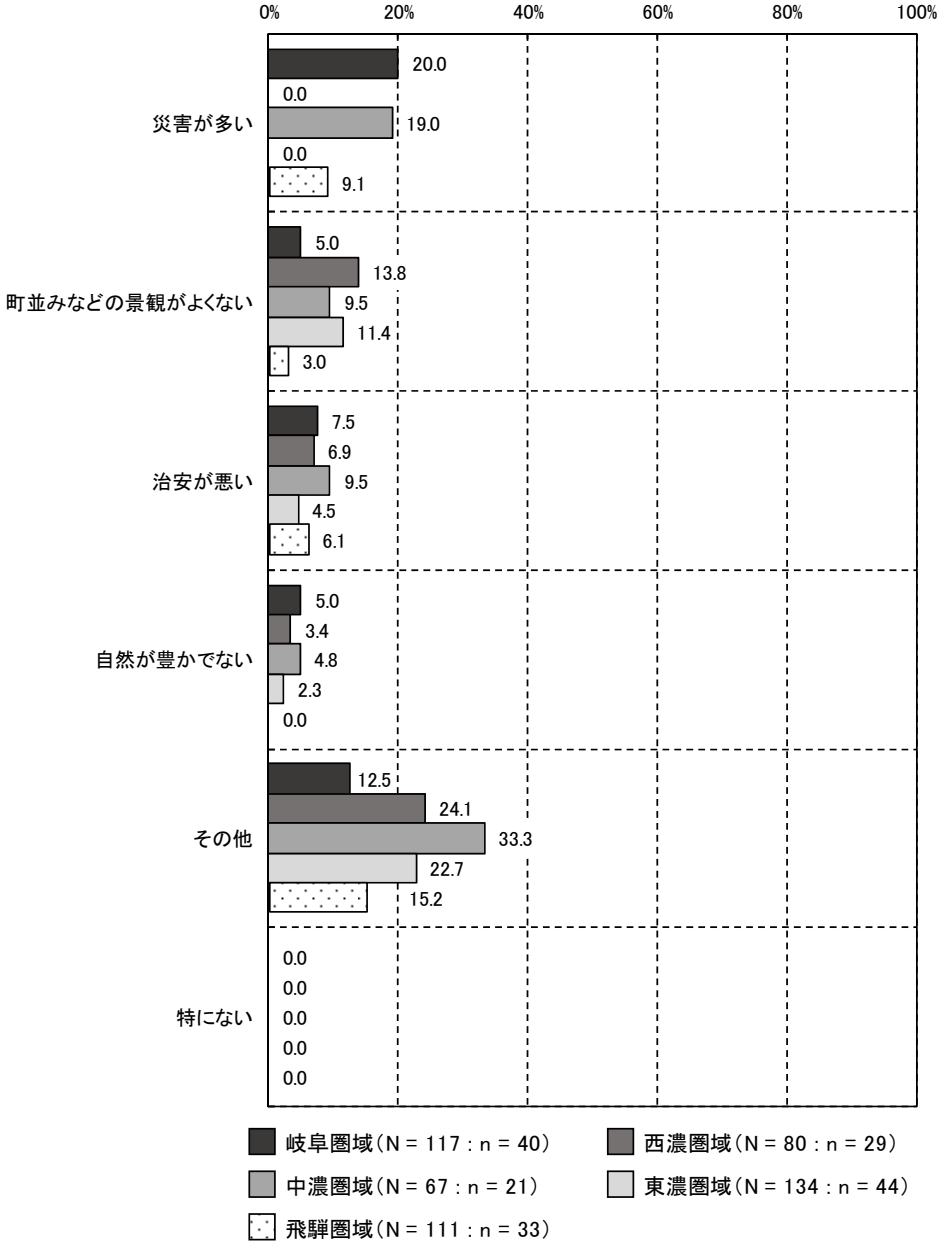
居住圏域別（図 6-3-5）でみると、岐阜圏域、西濃圏域、飛騨圏域では「交通の便がよくない」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 81.8%と最も高くなっている。中濃圏域、東濃圏域では「食事、買い物が不便である」が最も高くなっている。

図 6-3-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点




※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 6-3-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点 （続き）



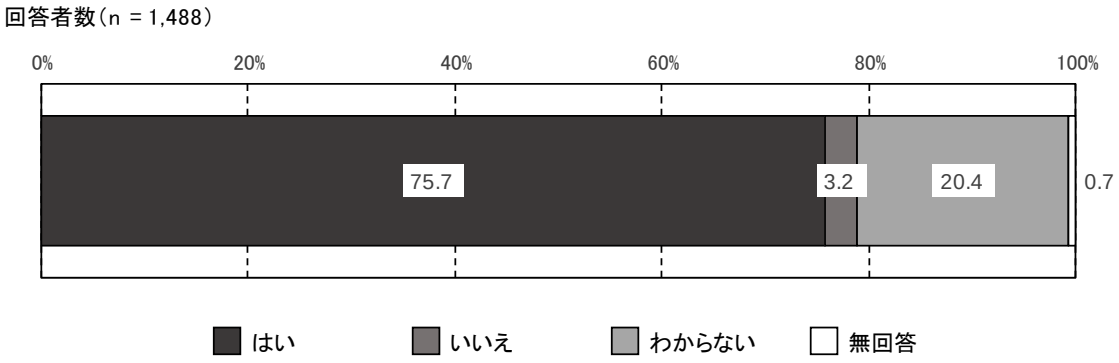

※ N＝総回答数 n＝回答者数

## 問７　今後も岐阜県に住み続けたいか

| |
|---|
| 問７　あなたは、今後も岐阜県に住み続けたいと思いますか。（１つだけ） |

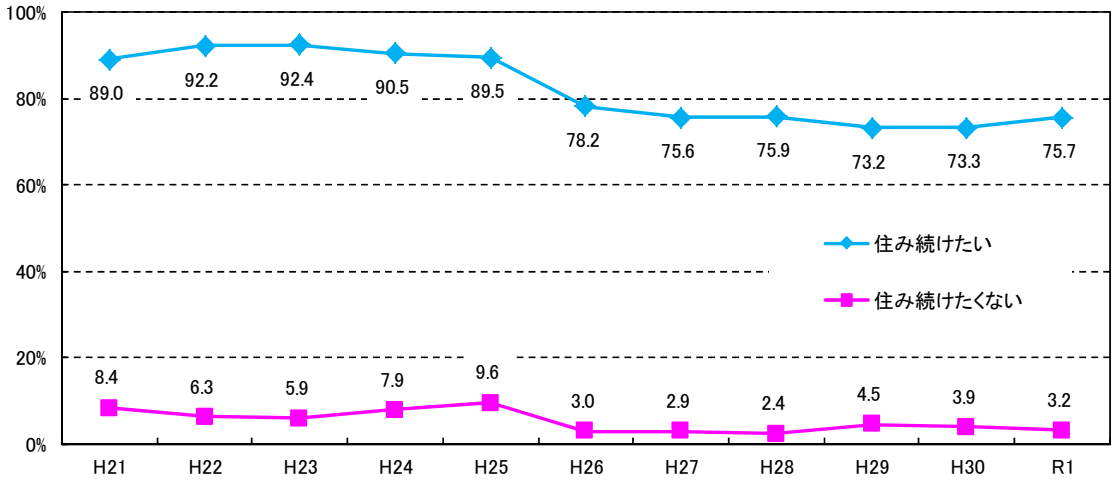
全体（図 7-1）でみると、「はい」が 75.7%と最も高くなっている。

**図 7-1　今後も岐阜県に住み続けたいか**




経年変化（図 7-2）でみると、平成 21 年から「住み続けたい」が「住み続けたくない」を上回っている。令和元年は、平成 30 年より「住み続けたい」が 2.4 ポイント増加し、「住み続けたくない」は 0.7 ポイント減少している。

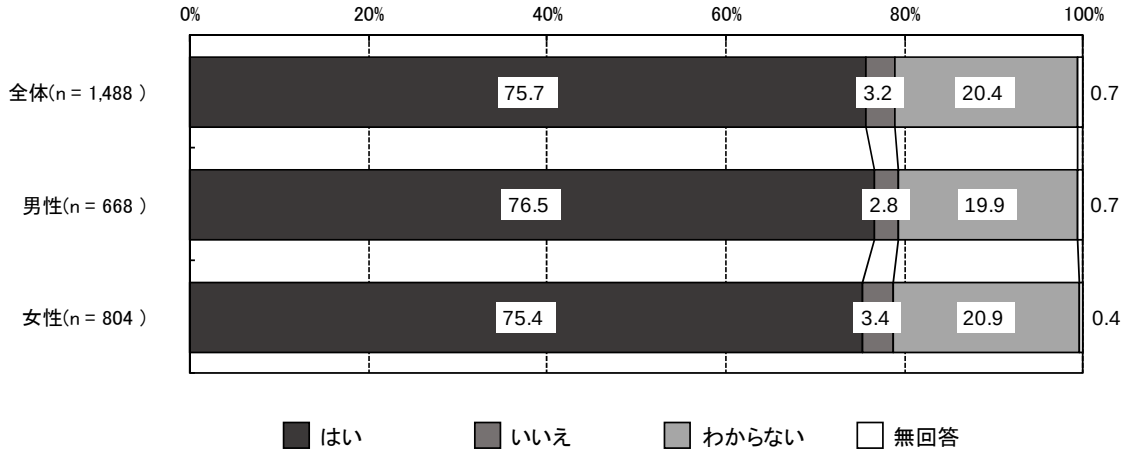
**図 7-2【経年変化】今後も岐阜県に住み続けたいか**




※ 平成 21 年度から調査

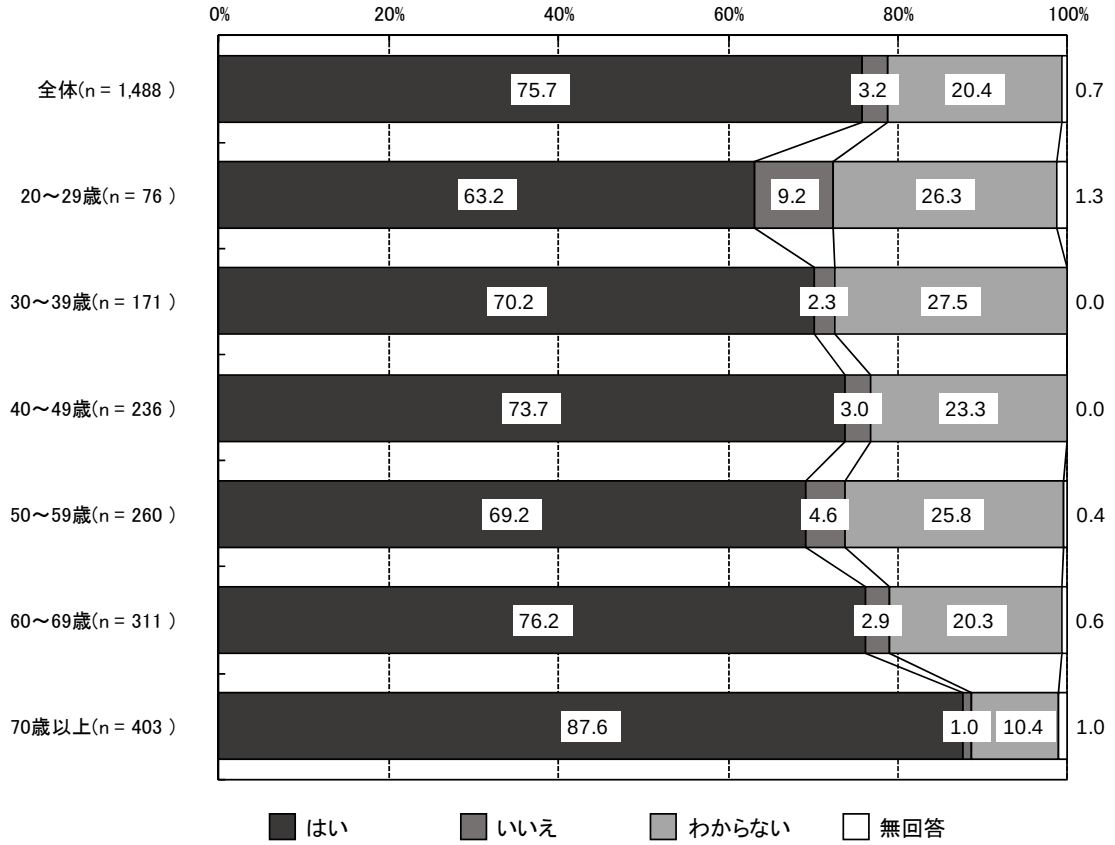
性別（図 7-3）でみると、男女ともに「はい」が最も高くなっており、男性が女性より1.1ポイント高くなっている。

図 7-3【性別】今後も岐阜県に住み続けたいか



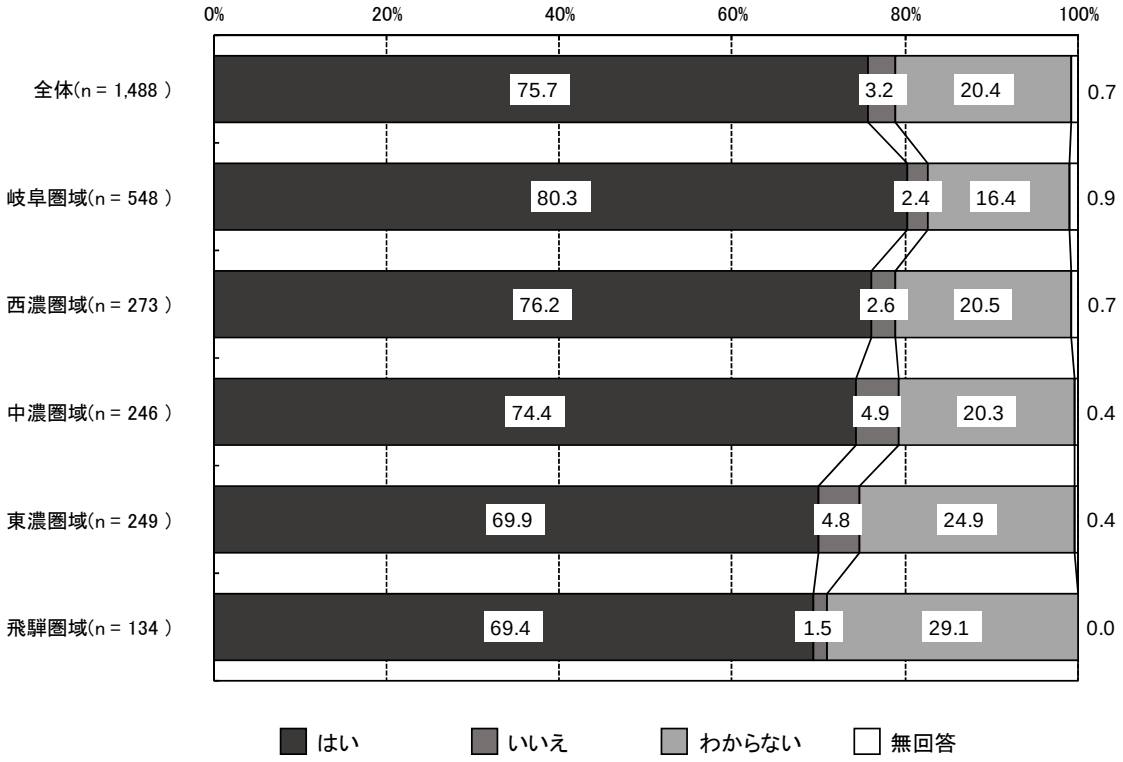

年代別（図 7-4）でみると、いずれの年代においても「はい」が最も高く、そのうち 70歳以上が 87.6%と最も高くなっている。

図 7-4【年代別】今後も岐阜県に住み続けたいか



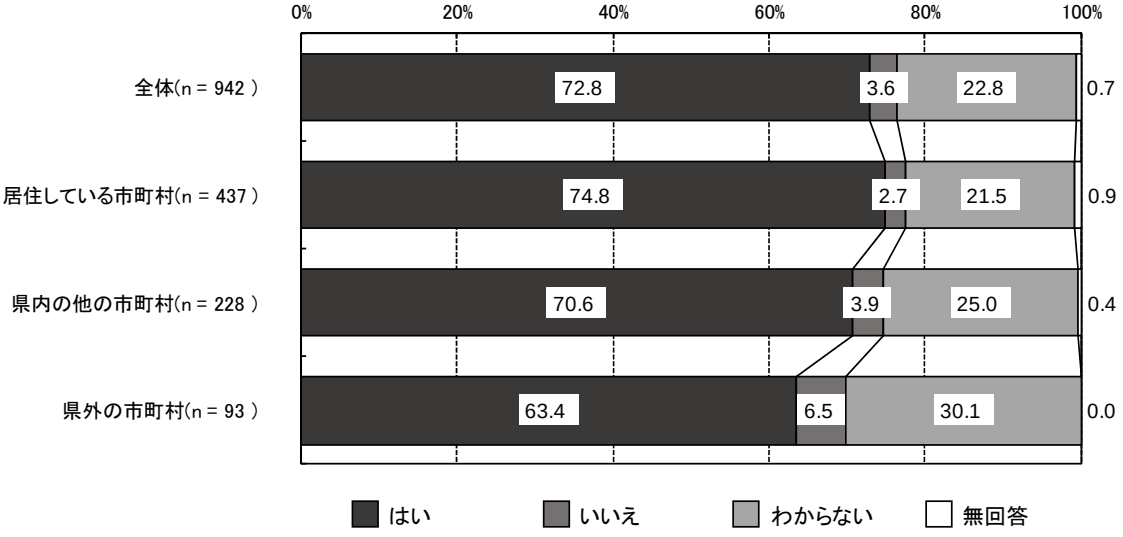
居住圏域別（図 7-5）でみると、いずれの居住圏域においても「はい」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 80.3%と最も高くなっている。

図 7-5【居住圏域別】今後も岐阜県に住み続けたいか



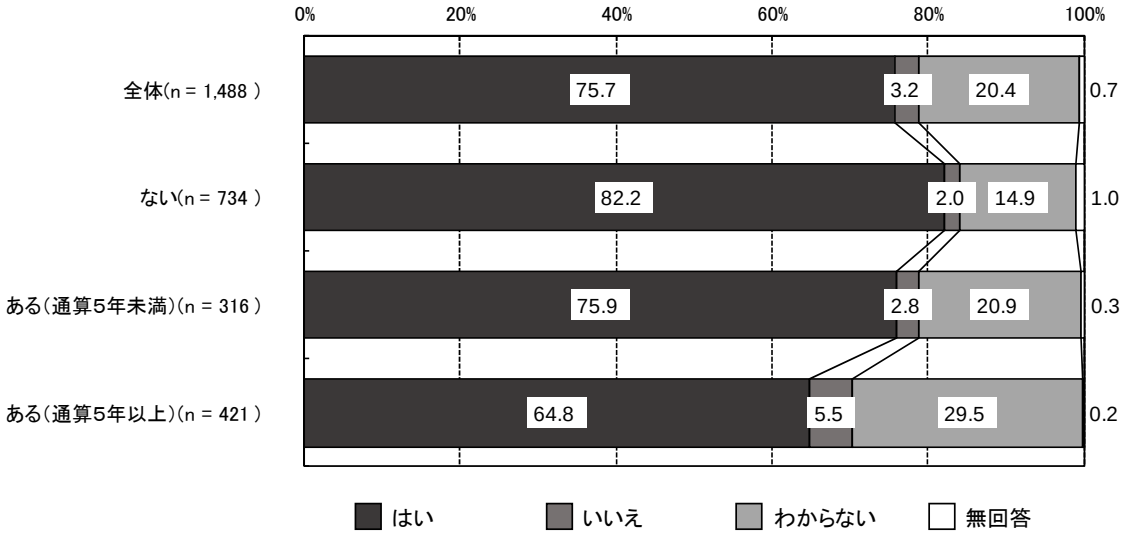

通勤、通学先別（図 7-6）でみると、いずれの通勤、通学先においても「はい」が最も高く、そのうち居住している市町村が 74.8%と最も高くなっている。

図 7-6【通勤、通学先別】今後も岐阜県に住み続けたいか



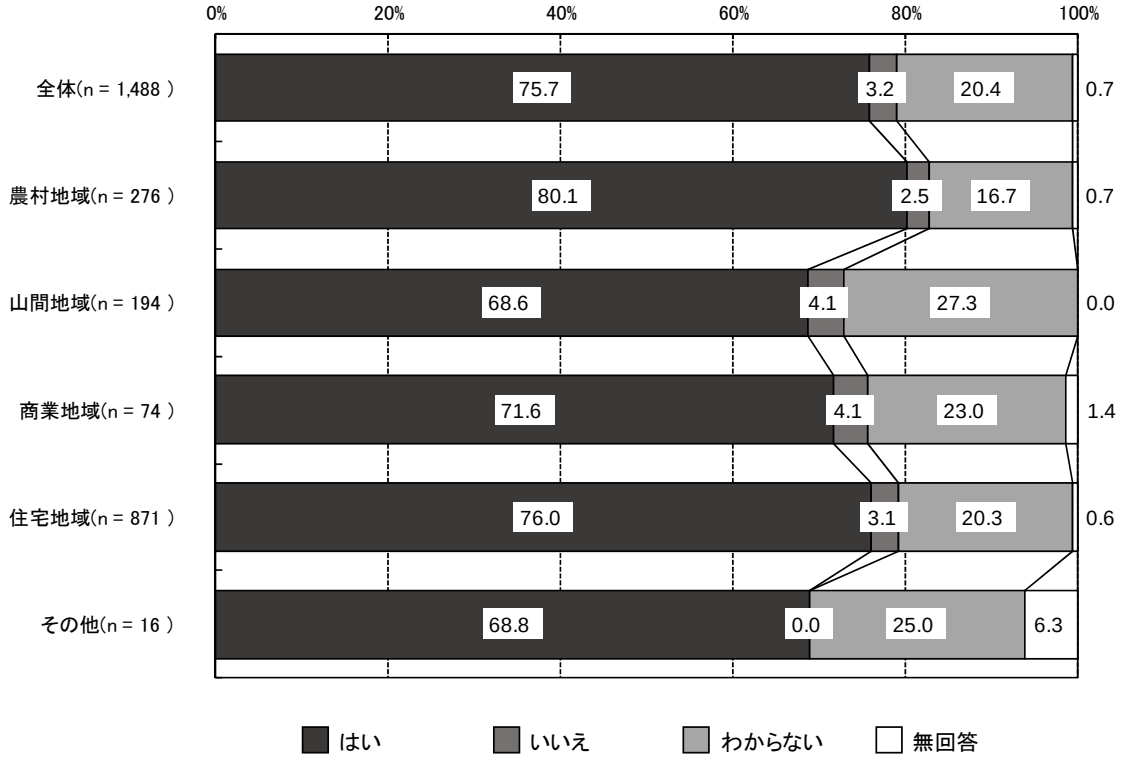
県外居住経験の有無別（図 7-7）でみると、県外居住経験がない人は、「はい」が 82.2%と、ある人より高くなっている。

図 7-7【県外居住経験の有無別】今後も岐阜県に住み続けたいか




居住環境別（図 7-8）でみると、いずれの居住環境においても「はい」が最も高く、そのうち農村地域が 80.1%と最も高くなっている。

図 7-8【居住環境別】今後も岐阜県に住み続けたいか



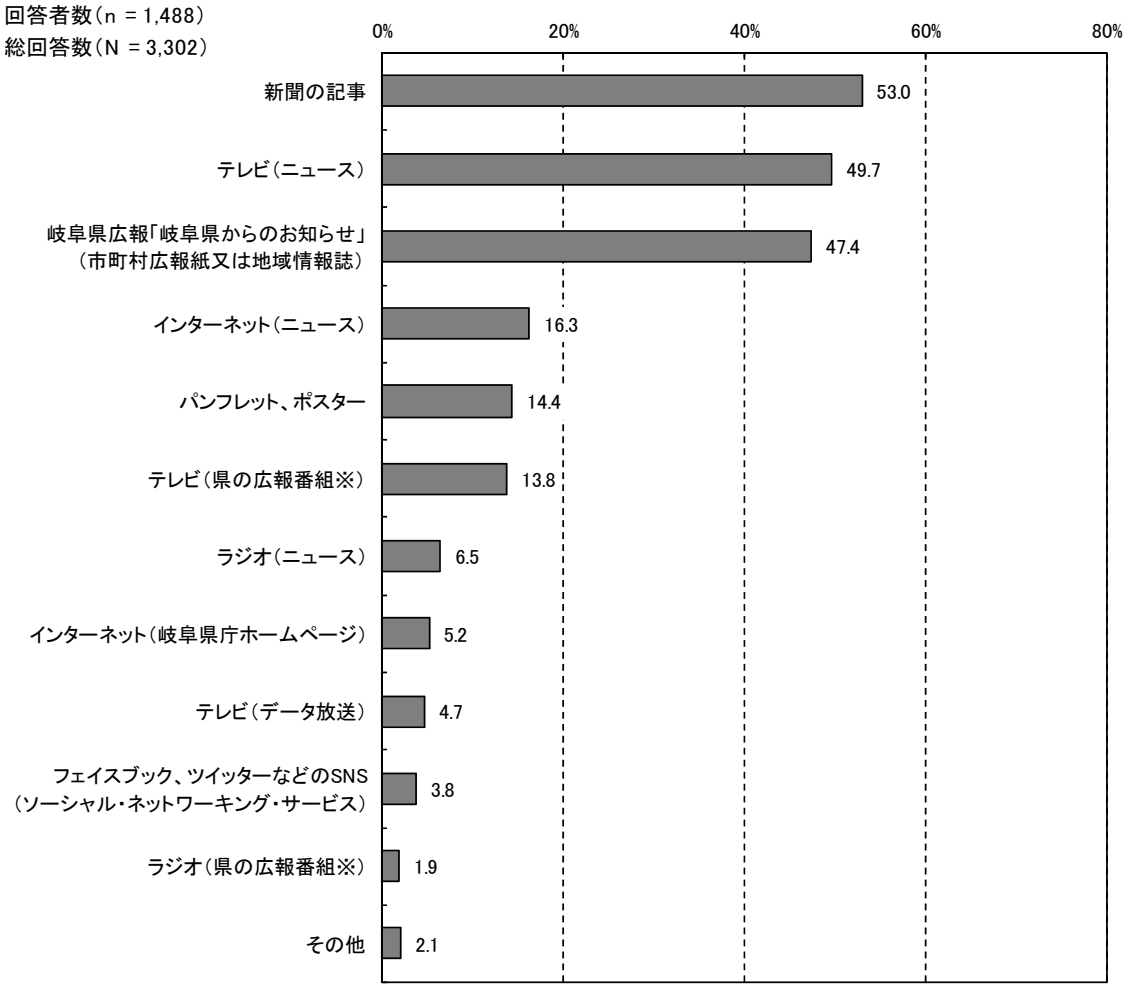
## ２．２　県の取組み全般について

### 問８　施策や事業についての情報の入手方法

| |
|---|
| 問８　あなたは、岐阜県が行っている施策や事業を、何によって知ることが多いですか。<br>（いくつでも） |

全体（図 8-1）でみると、「新聞の記事」が 53.0%と最も高く、次いで「テレビ（ニュース）」（49.7%）、「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」（47.4%）の順となっている。

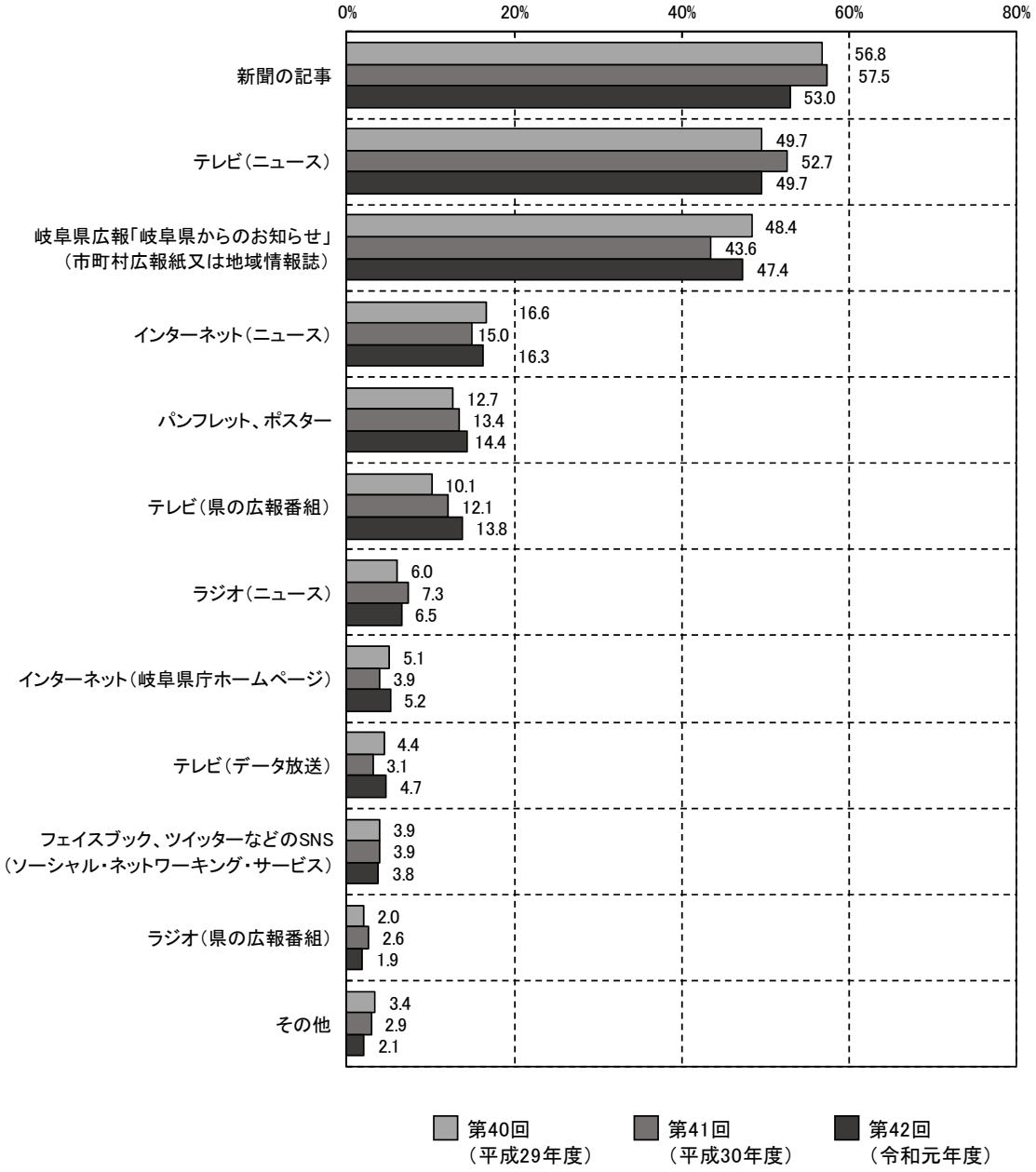
図 8-1　施策や事業についての情報の入手方法




※　県の広報番組：（テレビ）ぎふチャン（岐阜放送）「ぎふ県政ほっとライン」「ぎふ県だより」
（ラジオ）エフエム岐阜「GIFUインフォメーション」「ギフトピ」
ぎふチャン（岐阜放送）「ぎふ県だより」「週刊ぎふタイム」

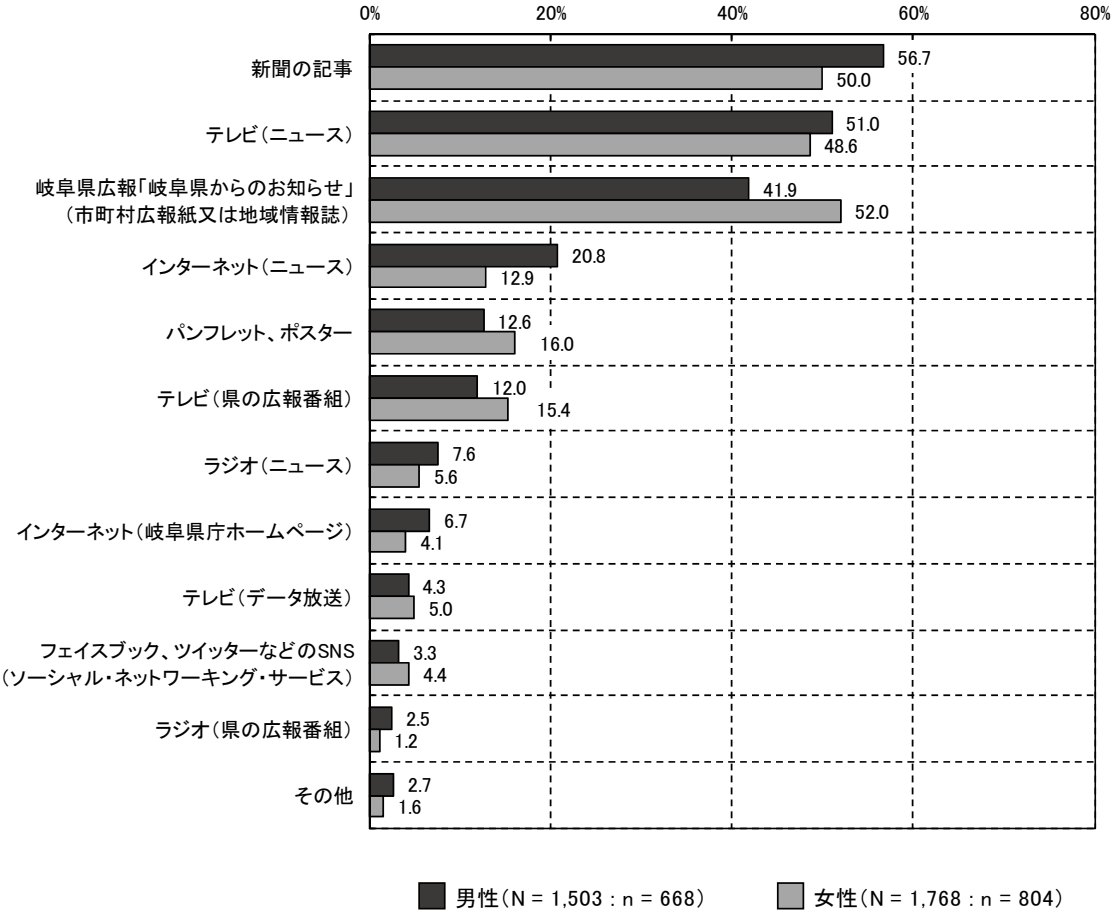
前々回・前回比較（図 8-2）でみると、前々回・前回と同様に「新聞の記事」が最も高く、次いで「テレビ（ニュース）」、「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」の順となっている。

図 8-2 【前々回・前回比較】 施策や事業についての情報の入手方法



性別（図 8-3）でみると、男性は「新聞の記事」が最も高く、女性より 6.7 ポイント高くなっている。女性は「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」が最も高く、男性より 10.1 ポイント高くなっている。

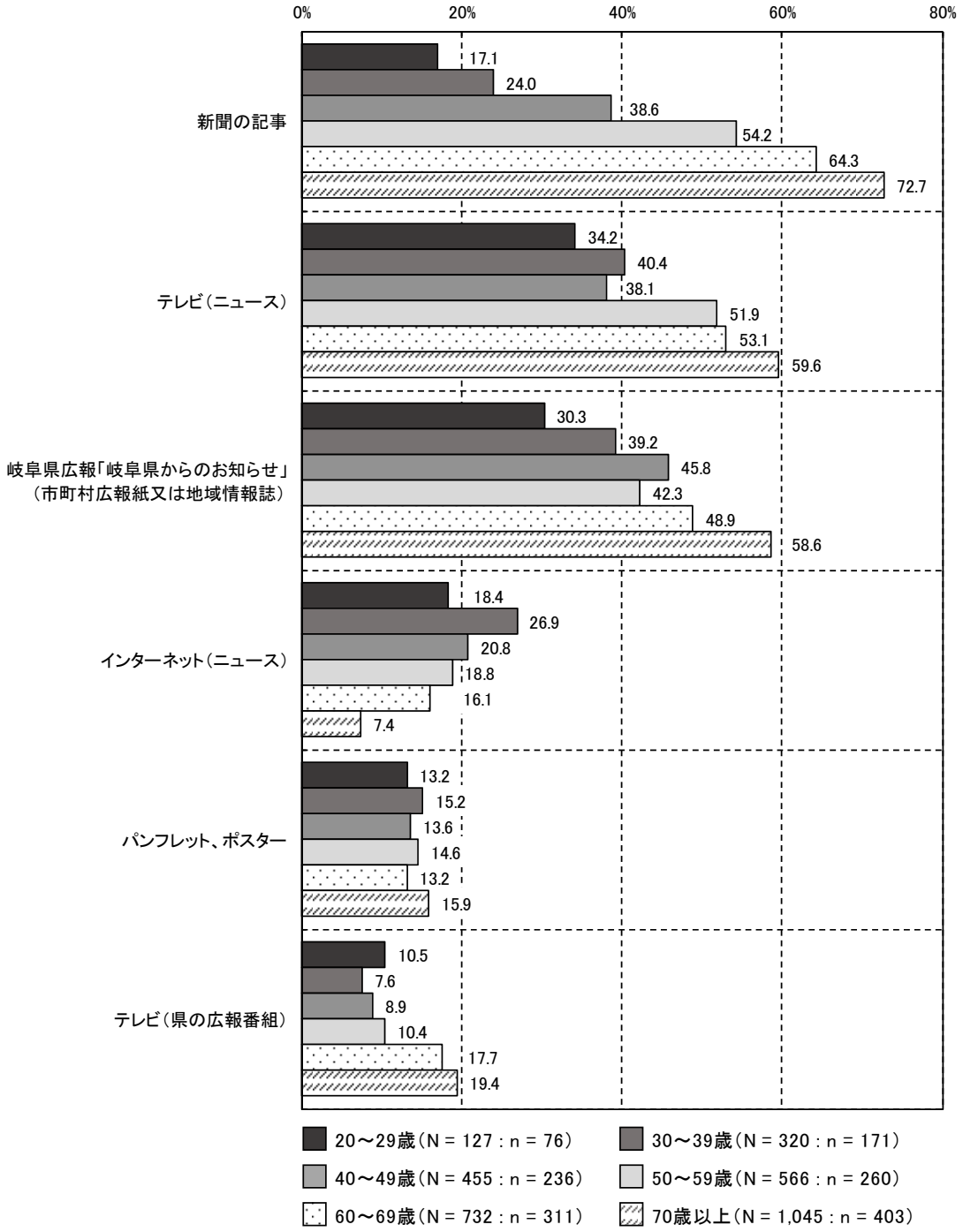
図 8-3 【性別】 施策や事業についての情報の入手方法




※ N＝総回答数 n＝回答者数

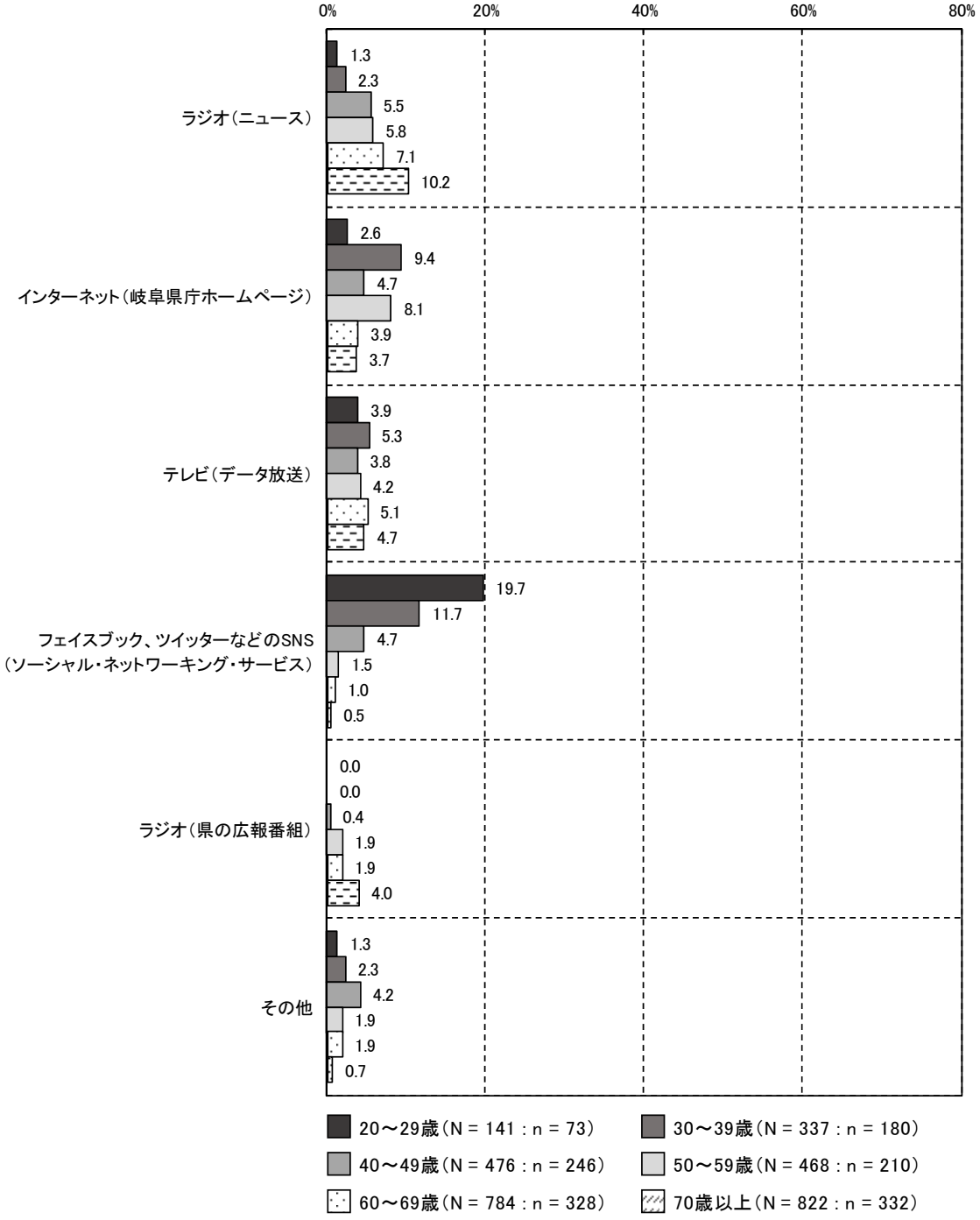
年代別（図 8-4）でみると、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「新聞の記事」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 72.7%と最も高くなっている。20 歳代、30 歳代では「テレビ（ニュース）」が、40 歳代では「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」が最も高くなっている。

図 8-4 【年代別】 施策や事業についての情報の入手方法




※ N＝総回答数　n＝回答者数

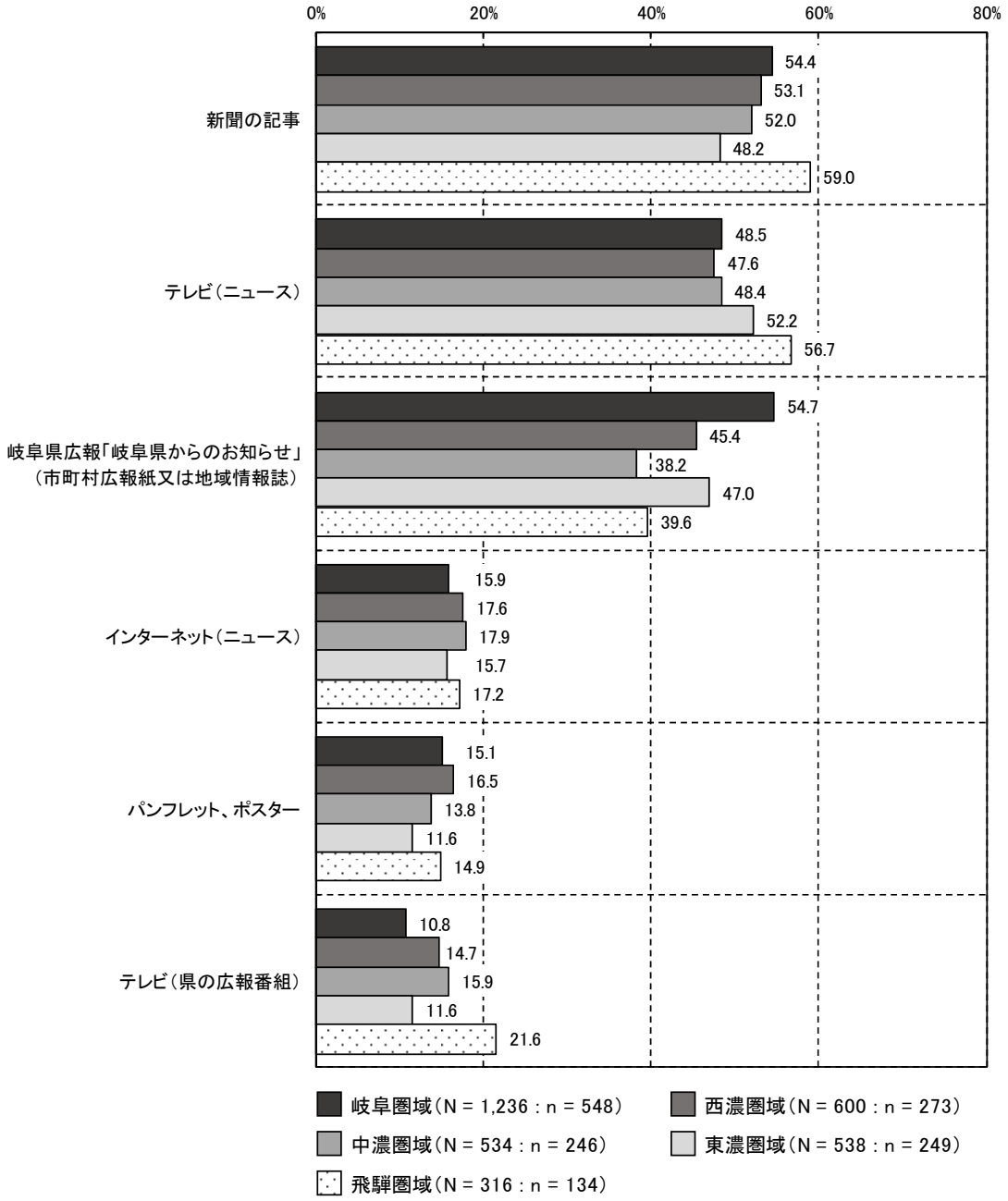
図 8-4 【年代別】 施策や事業についての情報の入手方法 （続き）




※ N＝総回答数 n＝回答者数

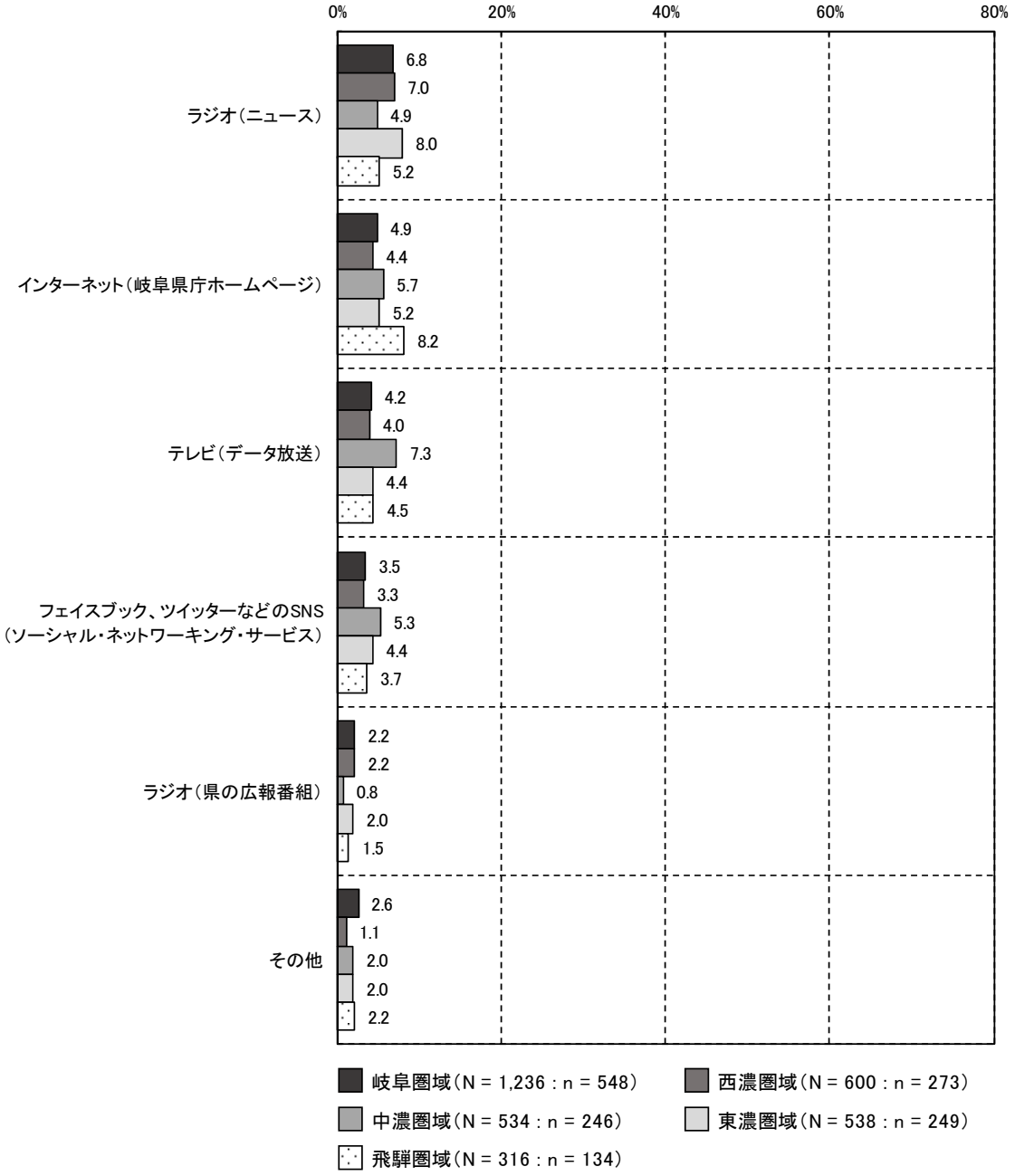
居住圏域別（図 8-5）でみると、西濃圏域、中濃圏域、飛騨圏域では「新聞の記事」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 59.0%と最も高くなっている。岐阜圏域では「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」（54.7%）が、東濃圏域では「テレビ（ニュース）」（52.2%）が最も高くなっている。

図 8-5【居住圏域別】施策や事業についての情報の入手方法




※ N＝総回答数　n＝回答者数

図 8-5 【居住圏域別】 施策や事業についての情報の入手方法 （続き）



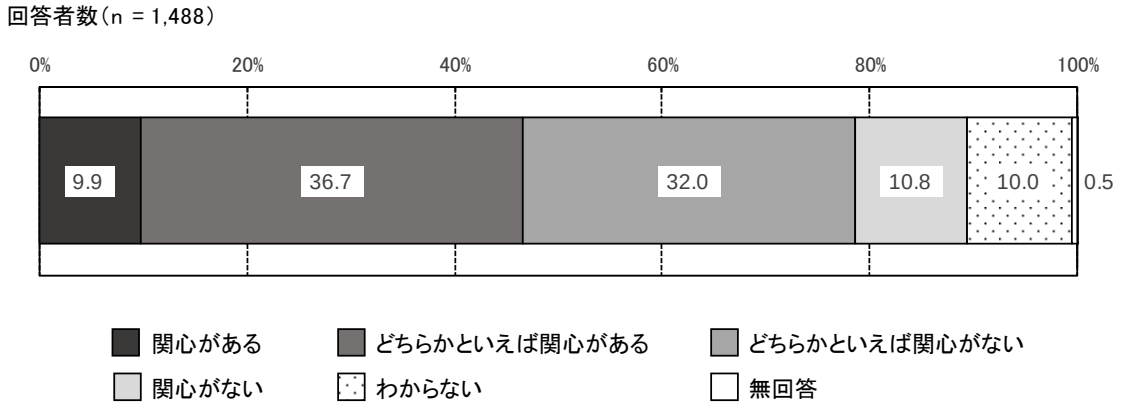

※ N＝総回答数 n＝回答者数

## 問９　県事業への関心の有無

| |
|---|
| 問９　あなたは、岐阜県が行っている事業やその進め方について、関心をお持ちですか。<br>（１つだけ） |

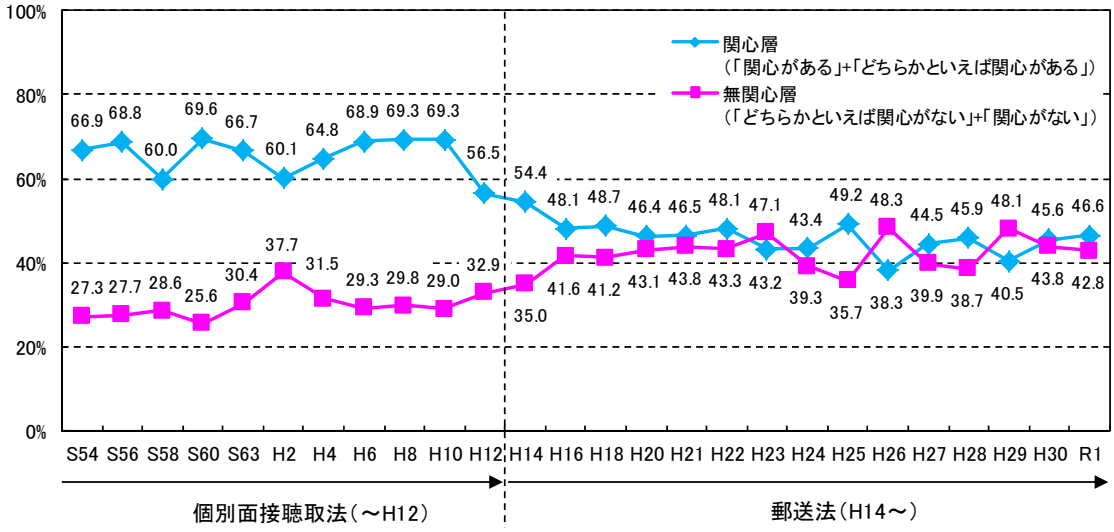
全体（図 9-1）でみると、「どちらかといえば関心がある」が 36.7%と最も高く、次いで「どちらかとかえば関心がない」（32.0%）、「関心がない」（10.8%）の順となっている。

**図 9-1　県事業への関心の有無**




経年変化（図 9-2）でみると、平成 22 年までは「関心層」（「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」）が「無関心層」（「どちらかといえば関心がない」+「関心がない」）より高く、平成 23 年に逆転して以降は「関心層」と「無関心層」が逆転を繰り返している。平成 30 年に「関心層」が「無関心層」より高くなり、令和元年は、前年より「関心層」が 1.0 ポイント増加し、「無関心層」が 1.0 ポイント減少しており、引き続き「関心層」が「無関心層」を上回っている。

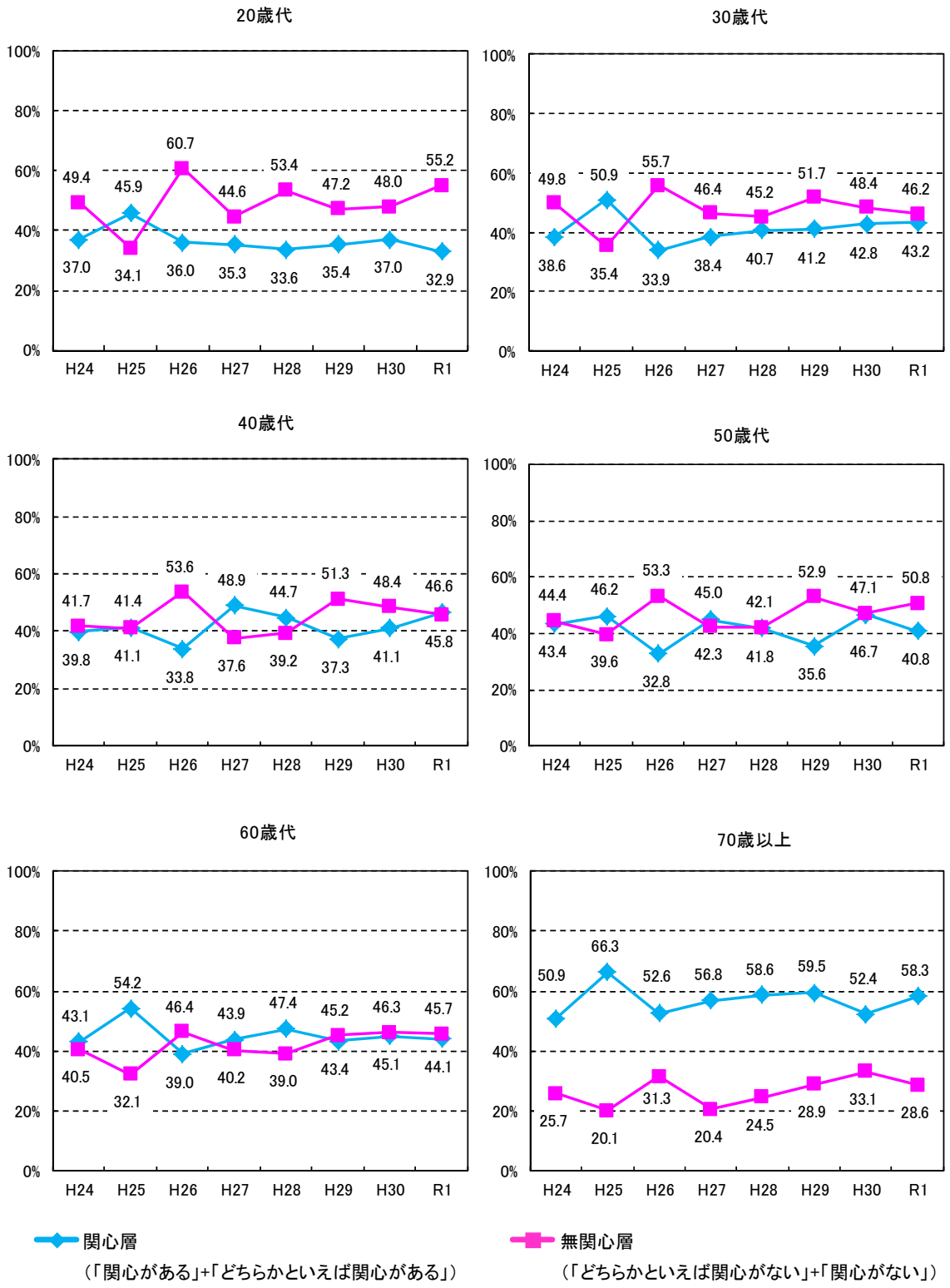
**図 9-2【経年変化】県事業への関心の有無**




※ 調査方法：平成 12 年度まで個別面接聴取法、平成 14 年度から郵送法

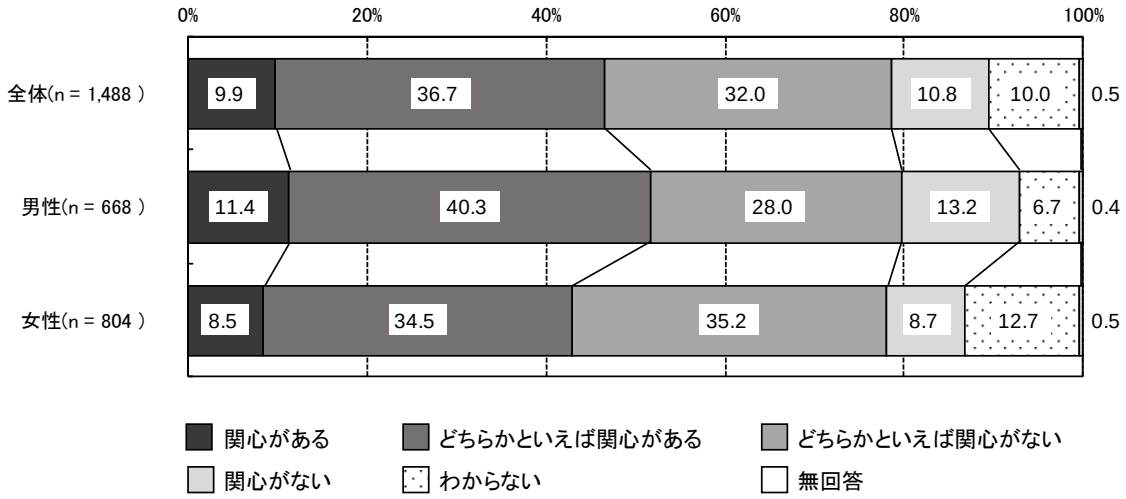
年代別の経年変化（図 9-3）でみると、20 歳代、50 歳代、60 歳代では、前年より「関心層」が減少し、特に 20 歳代では 32.9%と最も低くなっている。70 歳以上では一貫して「関心層」が「無関心層」より高くなっている。

図 9-3【経年変化（年代別）】県事業への関心の有無



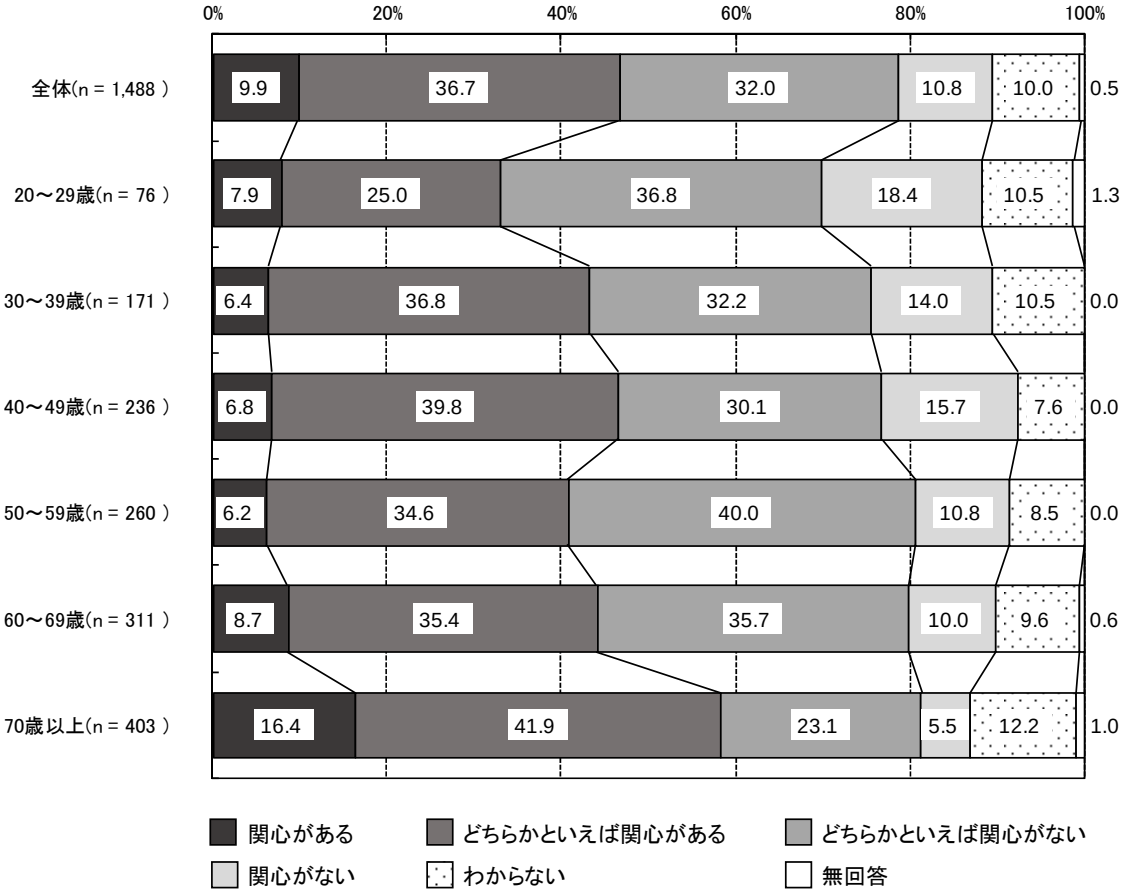
性別（図 9-4）でみると、男性は「どちらかといえば関心がある」が最も高く、女性は「どちらかといえば関心がない」が最も高くなっている。「関心層」（「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」）では、男性が女性より 8.7 ポイント高くなっている。

**図 9-4【性別】県事業への関心の有無**



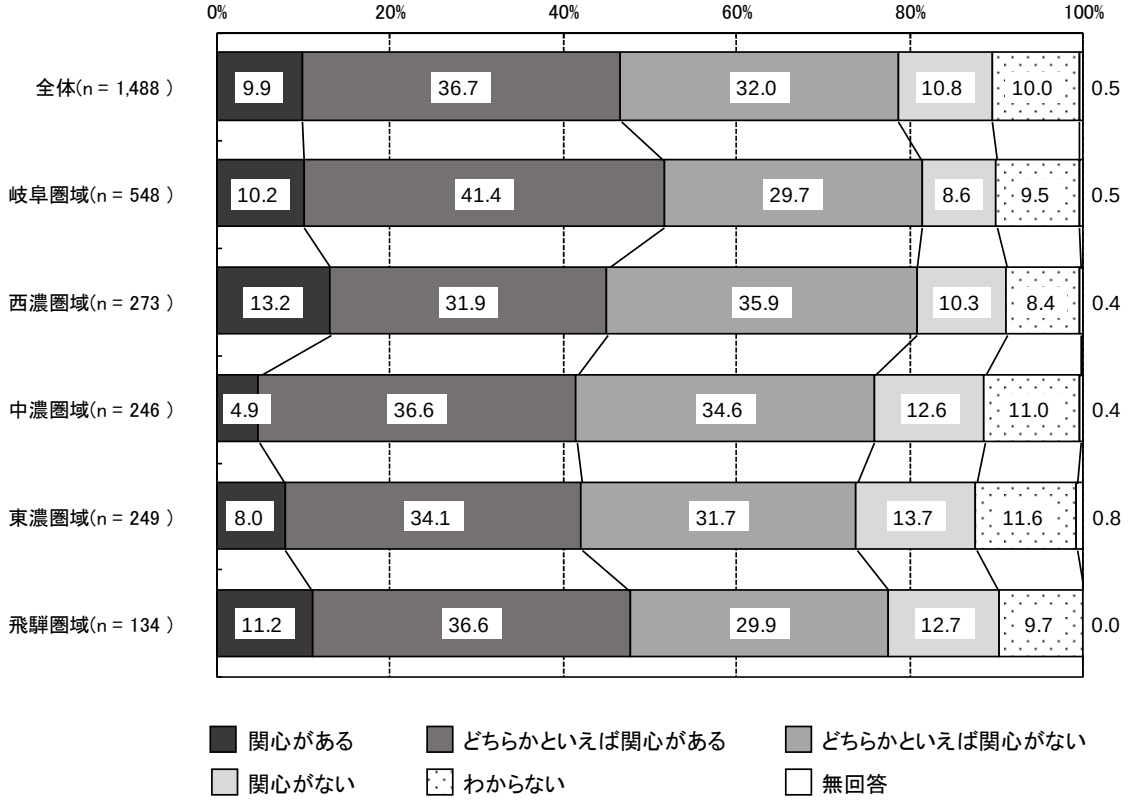

年代別（図 9-5）でみると、30 歳代、40 歳代、70 歳以上で「どちらかといえば関心がある」が最も高く、20 歳代、50 歳代、60 歳代では、「どちらかといえば関心がない」が最も高くなっている。

**図 9-5【年代別】県事業への関心の有無**



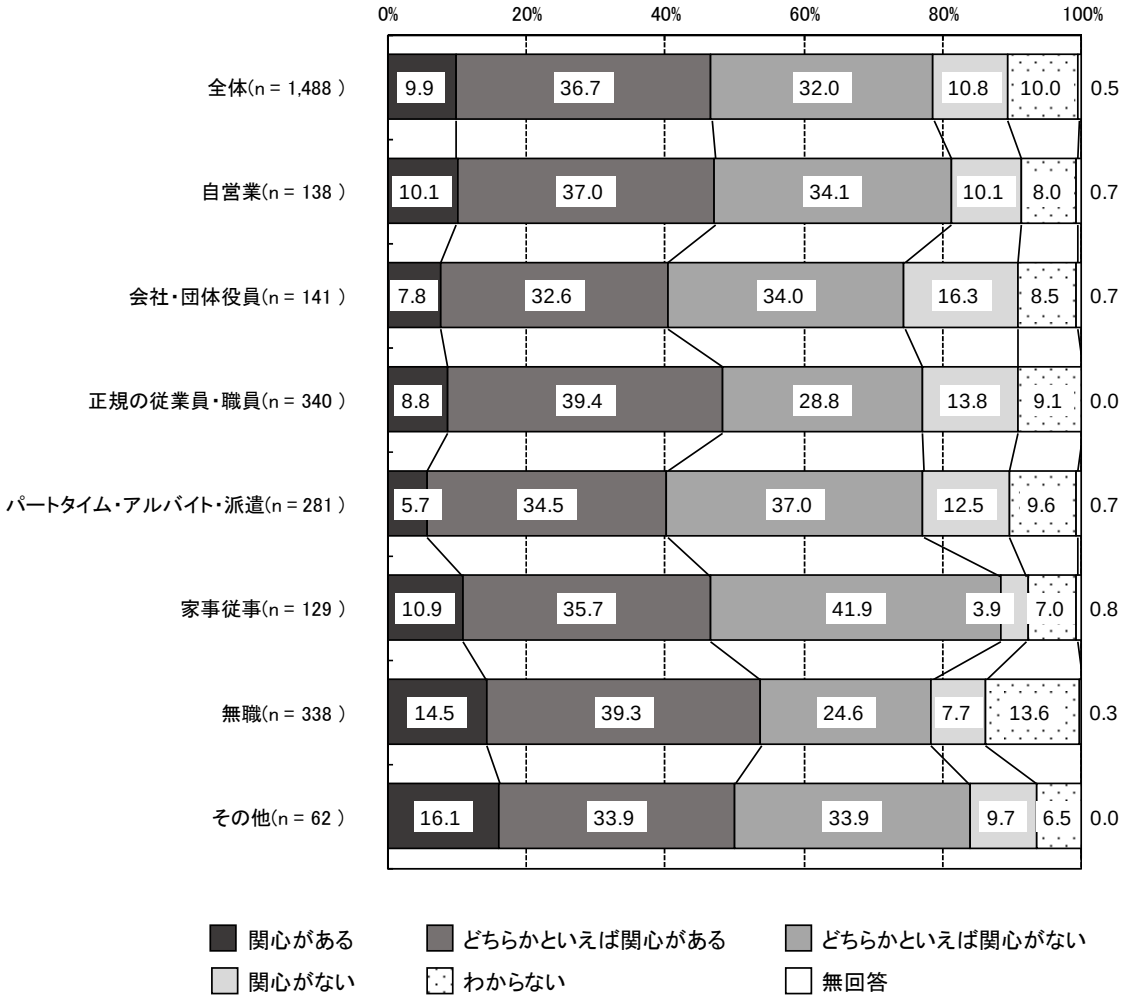
居住圏域別（図 9-6）でみると、西濃圏域を除くいずれの圏域においても「どちらかといえば関心がある」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 41.4%と最も高くなっている。西濃圏域においては、「どちらかといえば関心がない」（35.9%）が最も高くなっている。

**図 9-6【居住圏域別】県事業への関心の有無**



職業別（図 9-7）でみると、自営業、正規の従業員・職員、無職では「どちらかといえば関心がある」が最も高く、会社・団体役員、パートタイム・アルバイト・派遣、家事従事では「どちらかといえば関心がない」が最も高く、その他では「どちらかといえば関心がある」と「どちらかといえば関心がない」が同率になっている。

**図 9-7【職業別】県事業への関心の有無**




※ その他には、自由業、学生を含む。

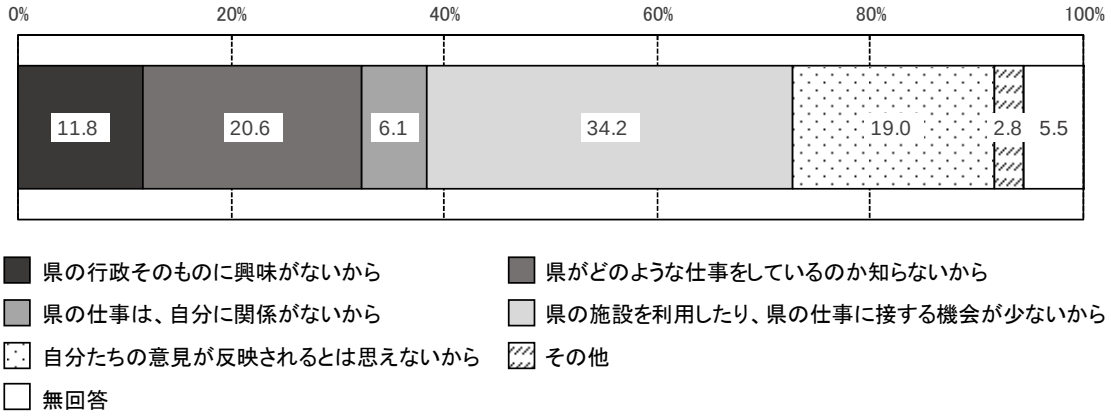
## 問９－２　県事業に関心がない理由

| | |
|---|---|
| 問９－２ | 「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方にお尋ねします。<br>あなたが、岐阜県が行っている事業やその進め方に関心がないのは、<br>どのような理由からですか。（１つだけ） |

全体（図 9-2-1）でみると、「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が 34.2％と最も高く、次いで「県がどのような仕事をしているのか知らないから」(20.6％)、「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」(19.0％）の順となっている。

**図 9-2-1　県事業に関心がない理由**

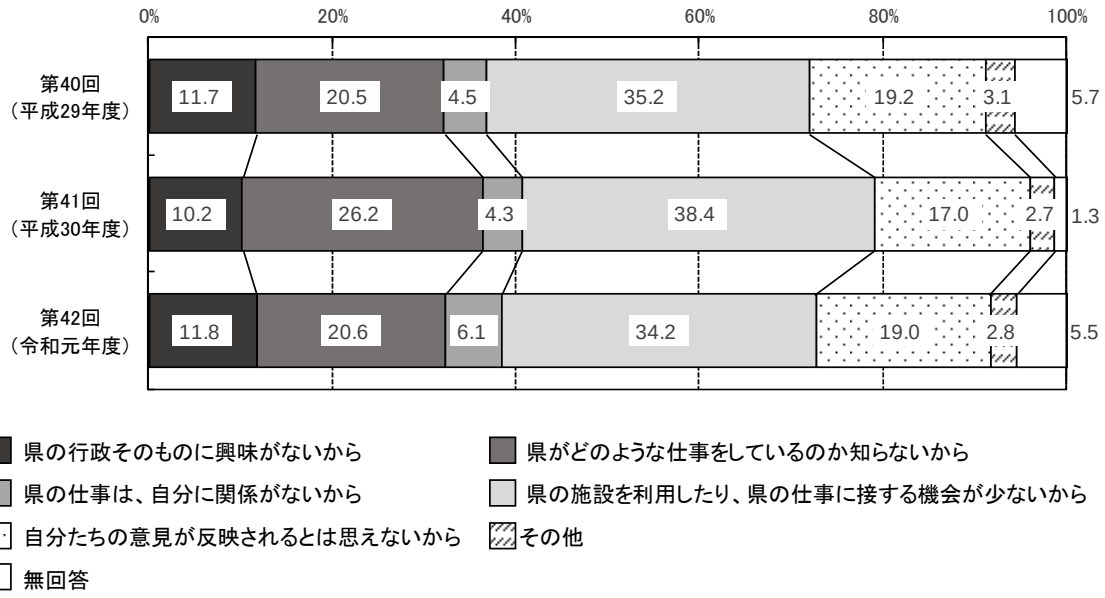
回答者数(n = 637)※




※ 問 9 で「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方のみ

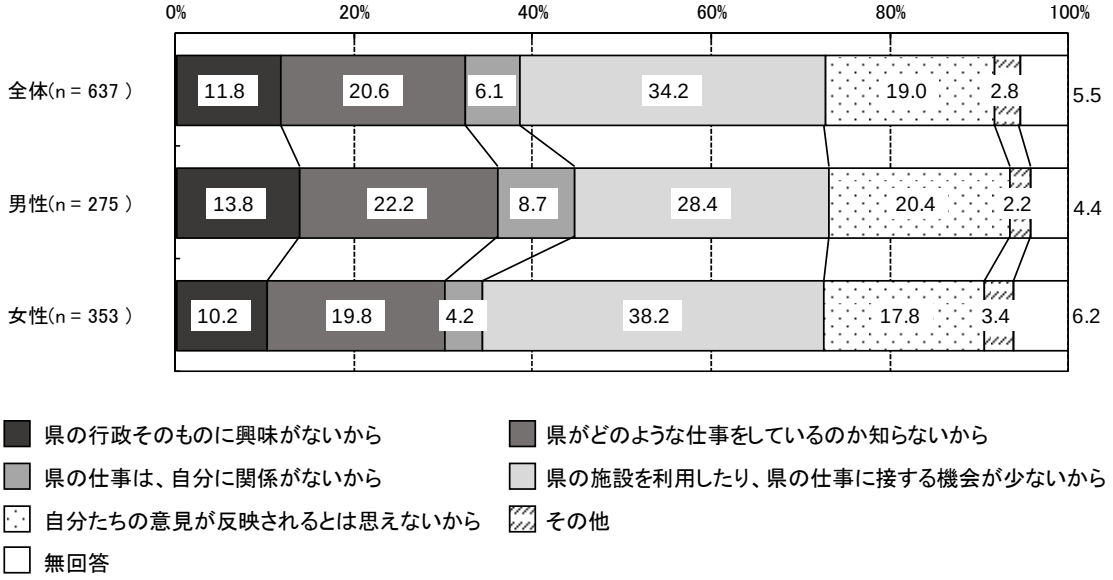
前々回・前回比較（図 9-2-2）でみると、前々回・前回と同様に「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高くなっている。

**図 9-2-2 【前々回・前回比較】 県事業に関心がない理由**



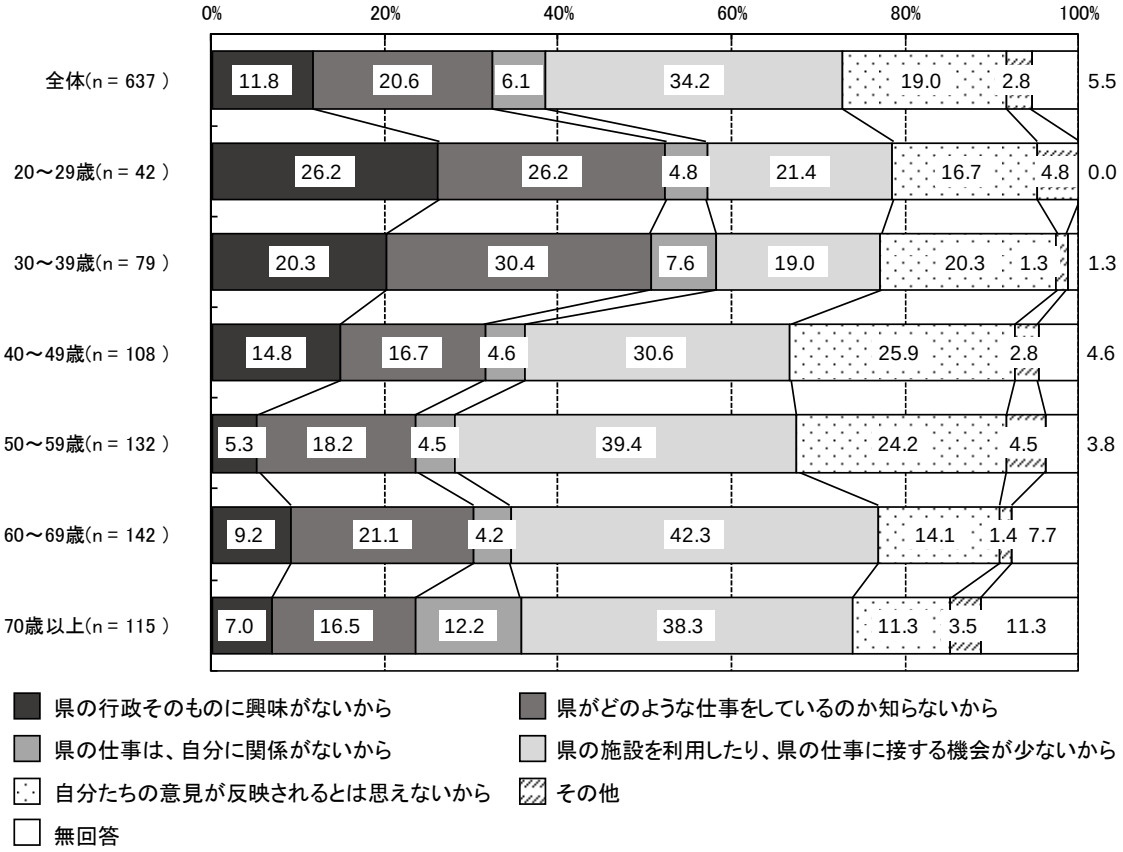
性別（図 9-2-3）でみると、男女ともに「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、女性が男性より 9.8 ポイント高くなっている。

図 9-2-3 【性別】 県事業に関心がない理由



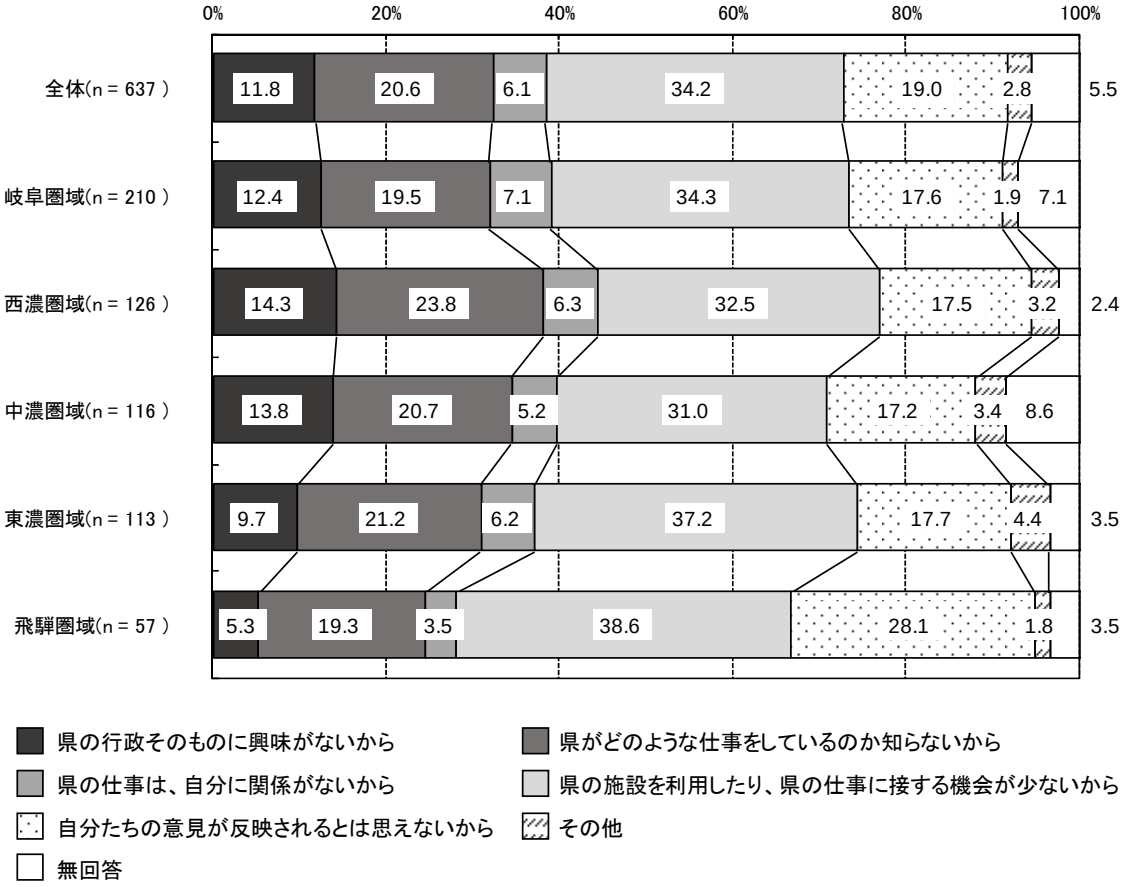

年代別（図 9-2-4）でみると、20 歳代、30 歳代を除くいずれの年代においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高くなっている。30 歳代では「県がどのような仕事をしているのか知らないから」が最も高く、20 歳代では「県の行政そのものに興味がないから」と「県がどのような仕事をしているのか知らないから」が同率となっている。

図 9-2-4 【年代別】 県事業に関心がない理由



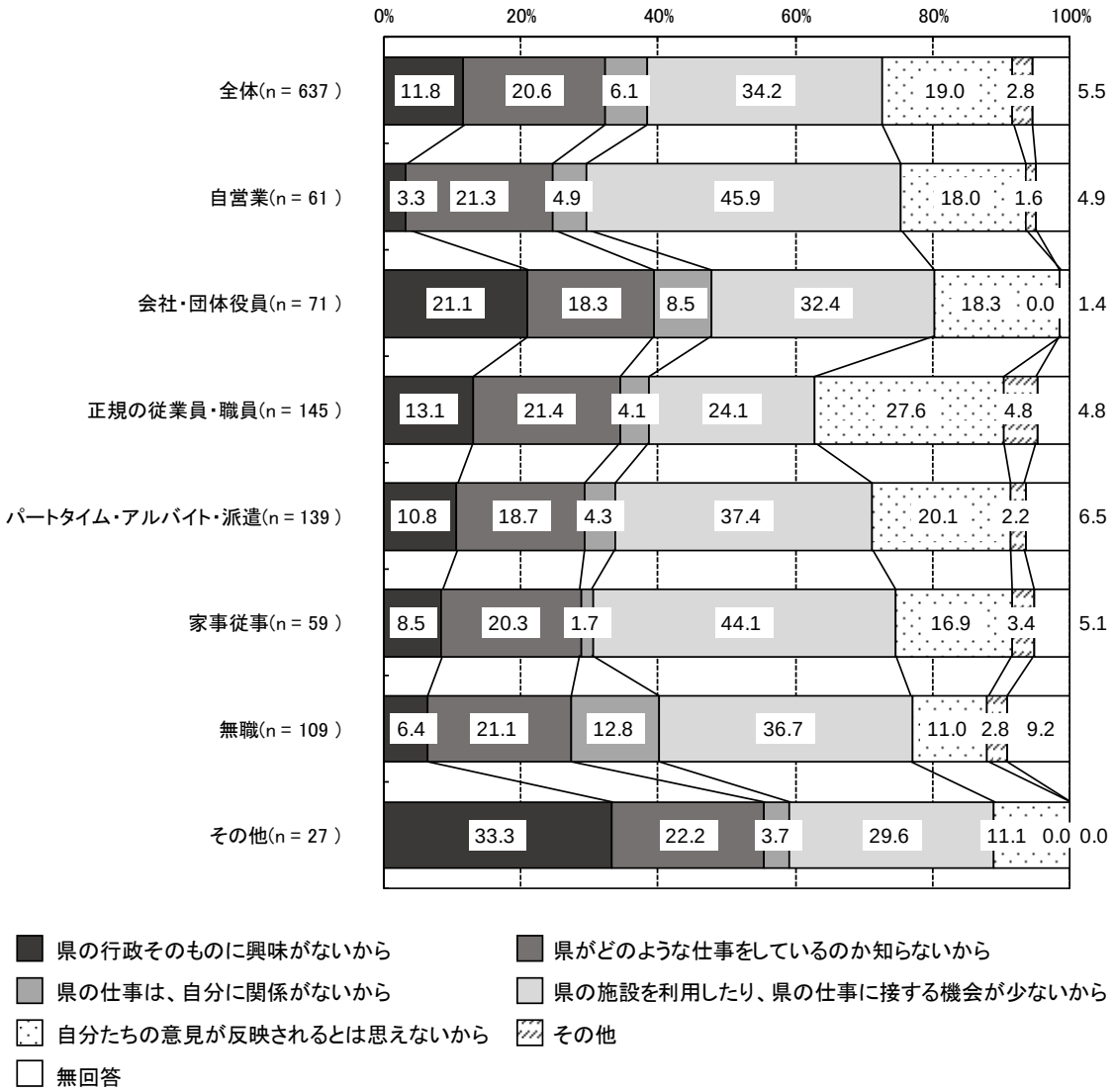
居住圏域別（図 9-2-5）でみると、いずれの居住圏域においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 38.6%と最も高くなっている。

図 9-2-5 【居住圏域別】 県事業に関心がない理由



職業別（図 9-2-6）でみると、正規の従業員・職員とその他を除くいずれの職業においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高くなっている。正規の従業員・職員では「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」（27.6%）が、その他では「県の行政そのものに興味がないから」（33.3%）が最も高くなっている。

**図 9-2-6 【職業別】 県事業に関心がない理由**




※ その他には、自由業、学生を含む。

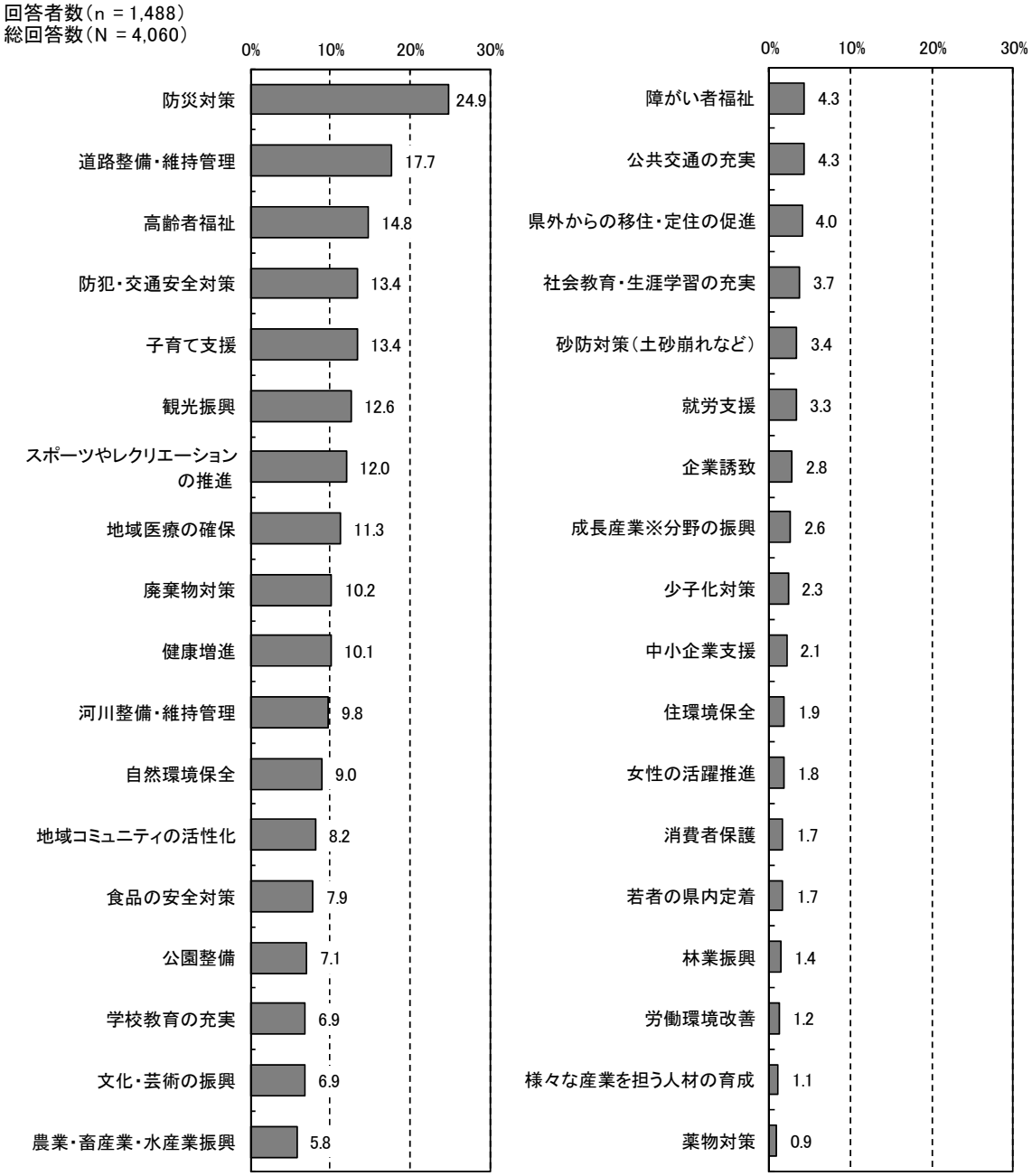
## 問１０　県の取組でよくやっていると思う分野、努力が足りないと思う分野

| |
|---|
| 問１０　あなたが、県の取組についてよくやっていると思うのは、どの分野ですか。<br>　　また、努力が足りないと思うのは、どの分野ですか。（それぞれ５つまで） |

### 【県の取組でよくやっていると思う分野】

全体（図 10-1）でみると、「防災対策」が 24.9%と最も高く、次いで「道路整備・維持管理」（17.7%）、「高齢者福祉」（14.8%）の順となっている。

図 10-1　県の取組でよくやっていると思う分野

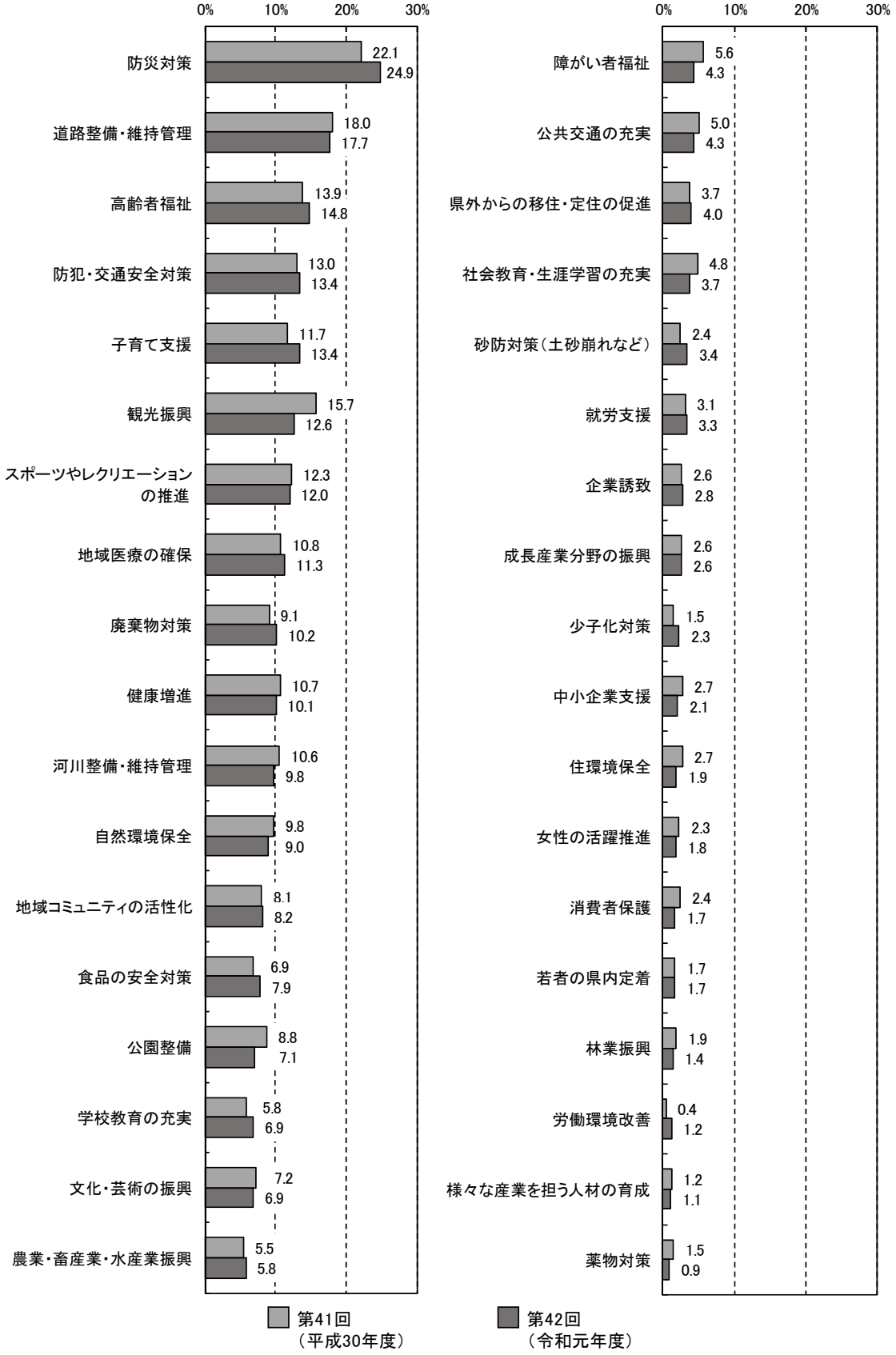



※ 成長産業：岐阜県においては、航空宇宙、医療福祉機器、医薬品、食料品、次世代エネルギーを位置づけている（令和元年度現在）

※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。
・住環境保全：騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全

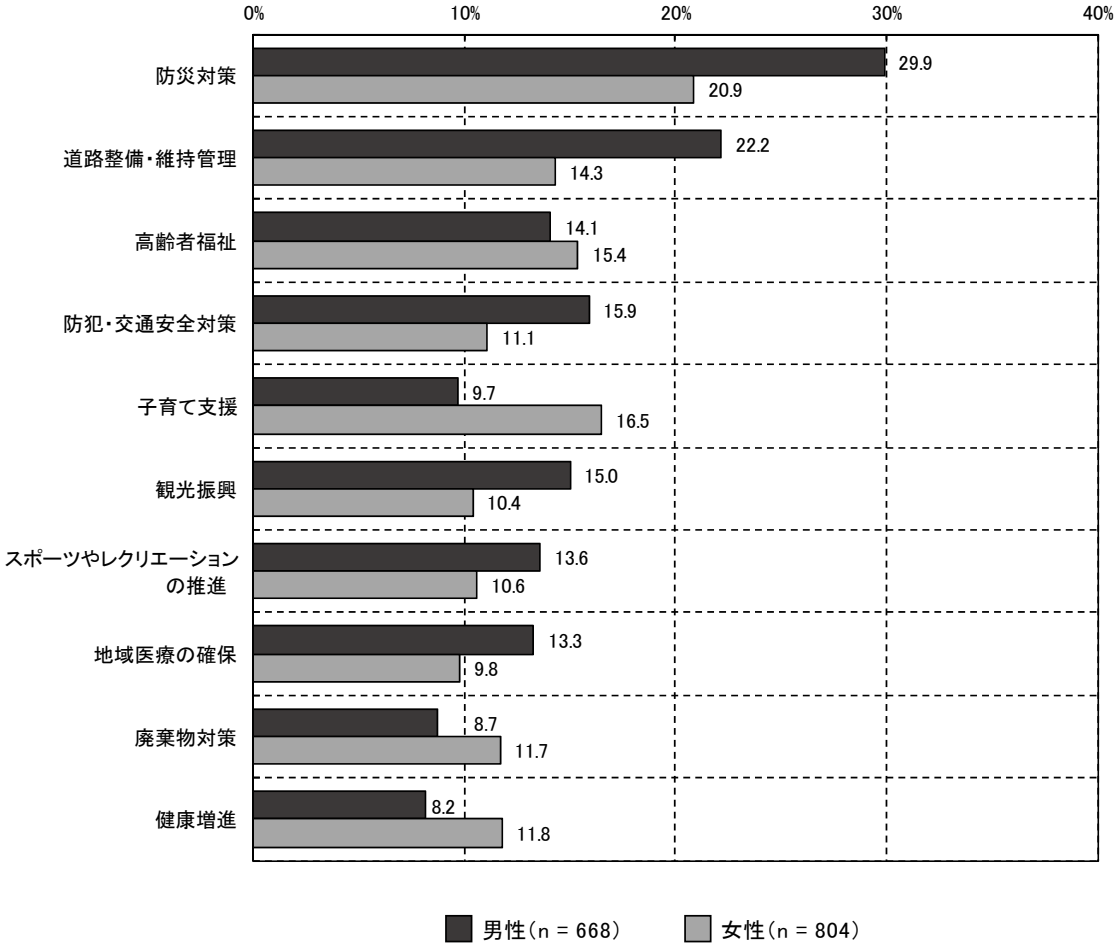
前回比較（図 10-2）でみると、前回と同様に「防災対策」が 24.9%と最も高く、次いで「道路整備・維持管理」（18.0%）となっている。前回第４位の「高齢者福祉」が第３位になっている。

図 10-2 【前回比較】 県の取組でよくやっていると思う分野



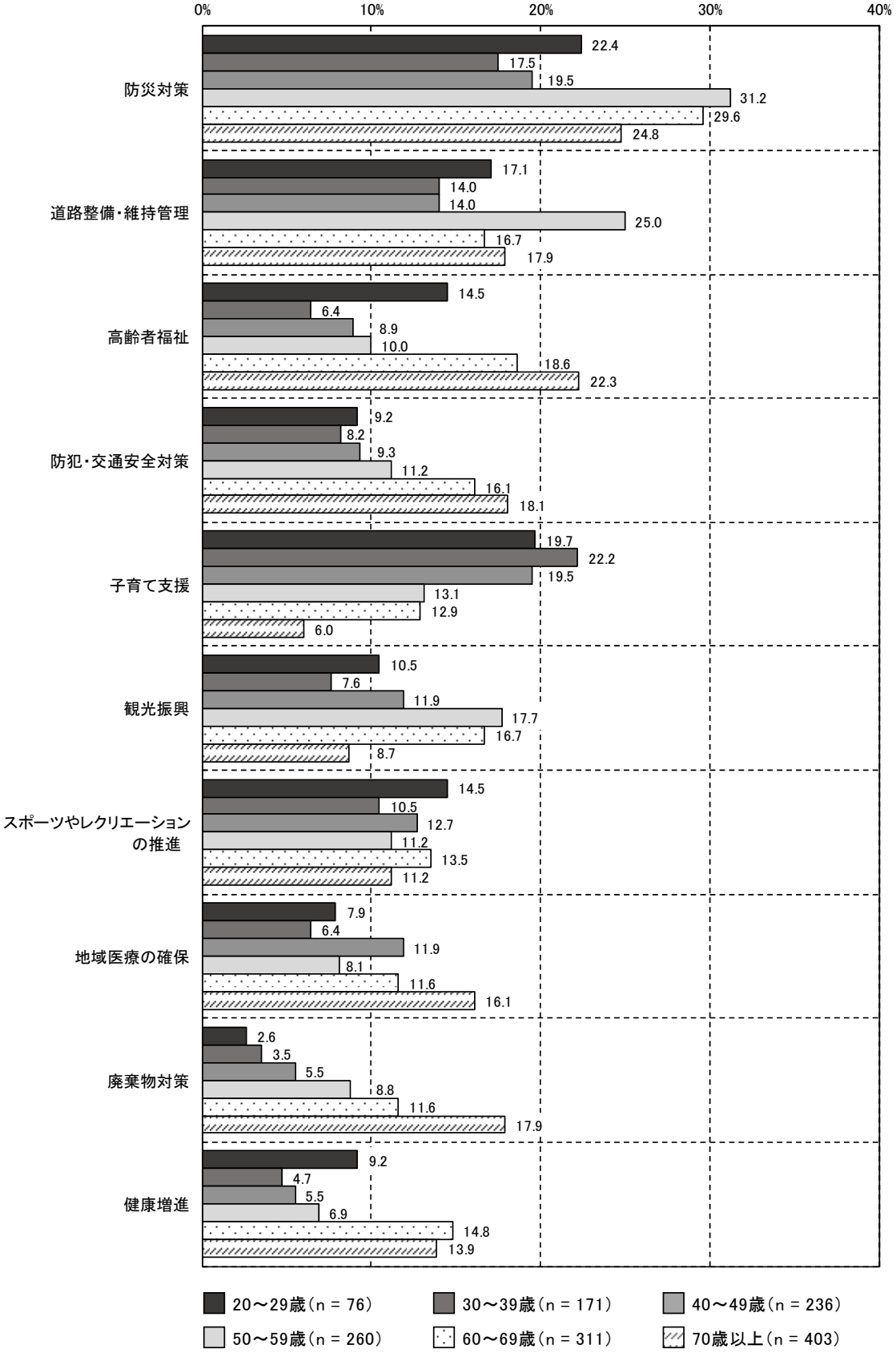
性別（図 10-3）でみると、男女ともに「防災対策」が最も高く、次いで、男性は「道路整備・維持管理」、女性は「子育て支援」となっている。「防災対策」では男性が女性より 9.0 ポイント高く、「子育て支援」では、女性が男性より 6.8 ポイント高くなっている。

図 10-3 【性別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



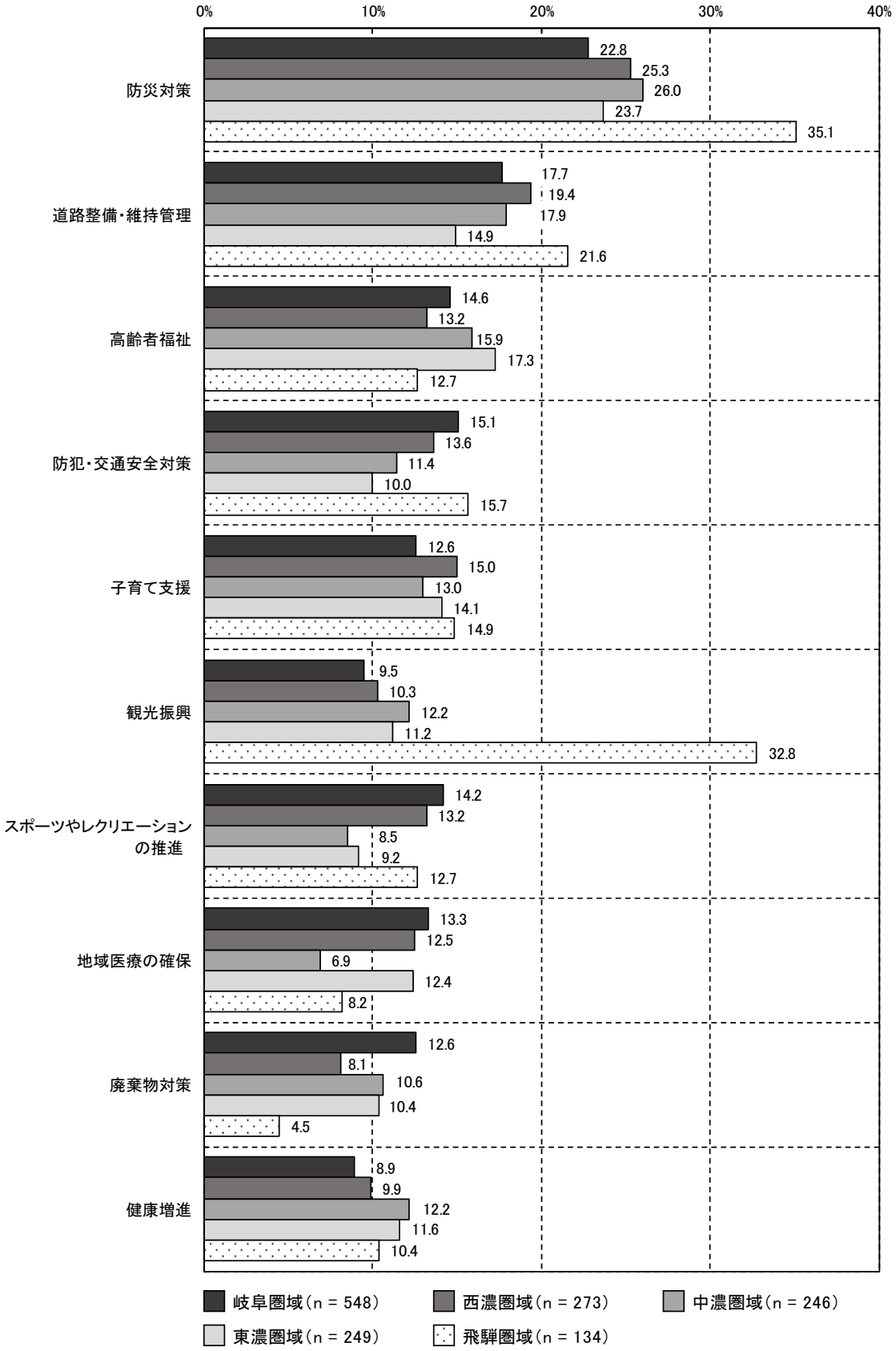
年代別（図 10-4）でみると、30 歳代を除くすべての年代で「防災対策」が最も高く（40 歳代は「防災対策」と「子育て支援」が同率)、30 歳代は「子育て支援」（22.2%）が最も高くなっている。

図 10-4 【年代別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



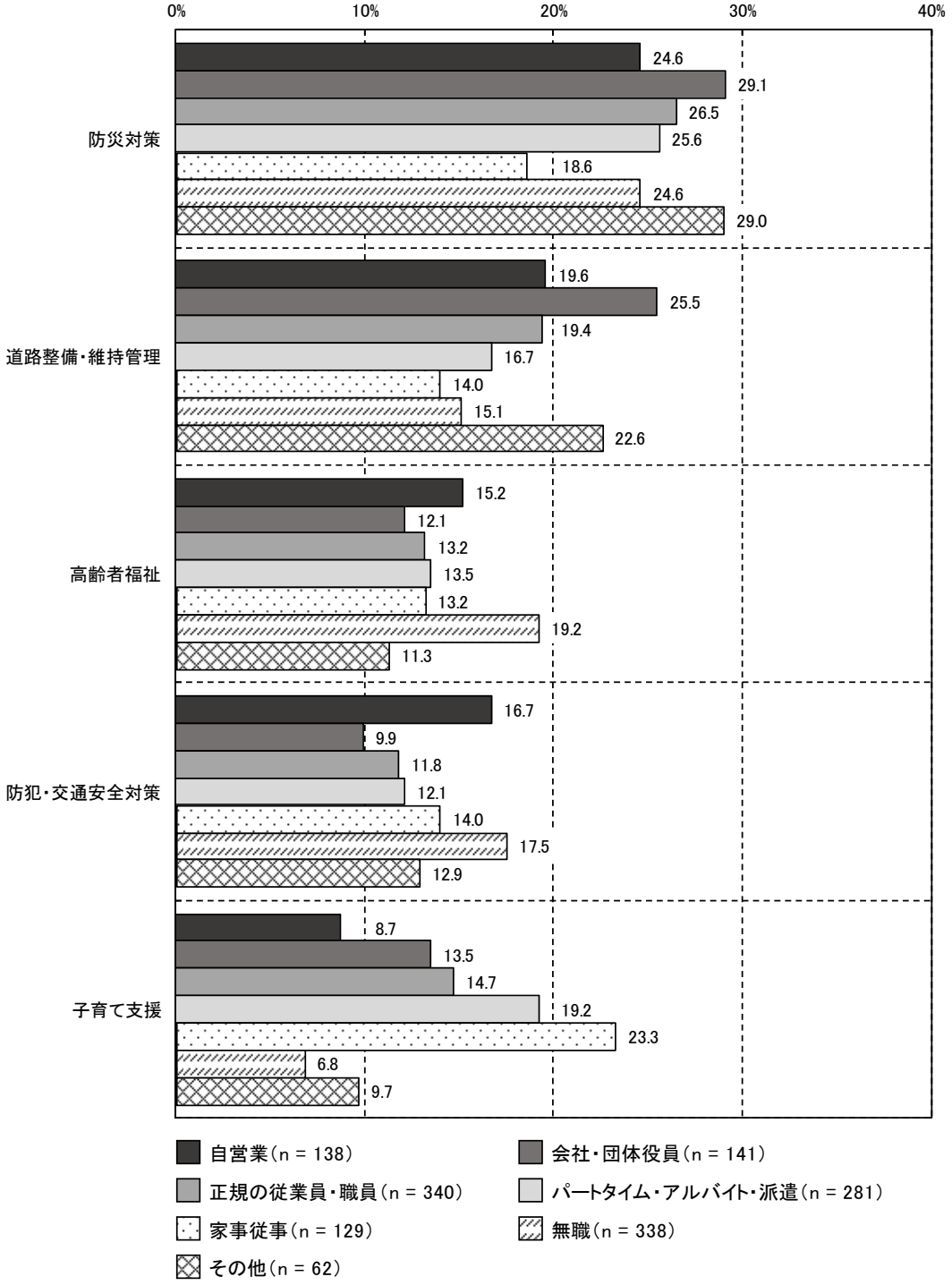
居住圏域別（図 10-5）でみると、いずれの居住圏域においても「防災対策」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 35.1%と最も高くなっている。飛騨圏域では「観光振興」が他の圏域より 20 ポイント以上高くなっている。

図 10-5 【居住圏域別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



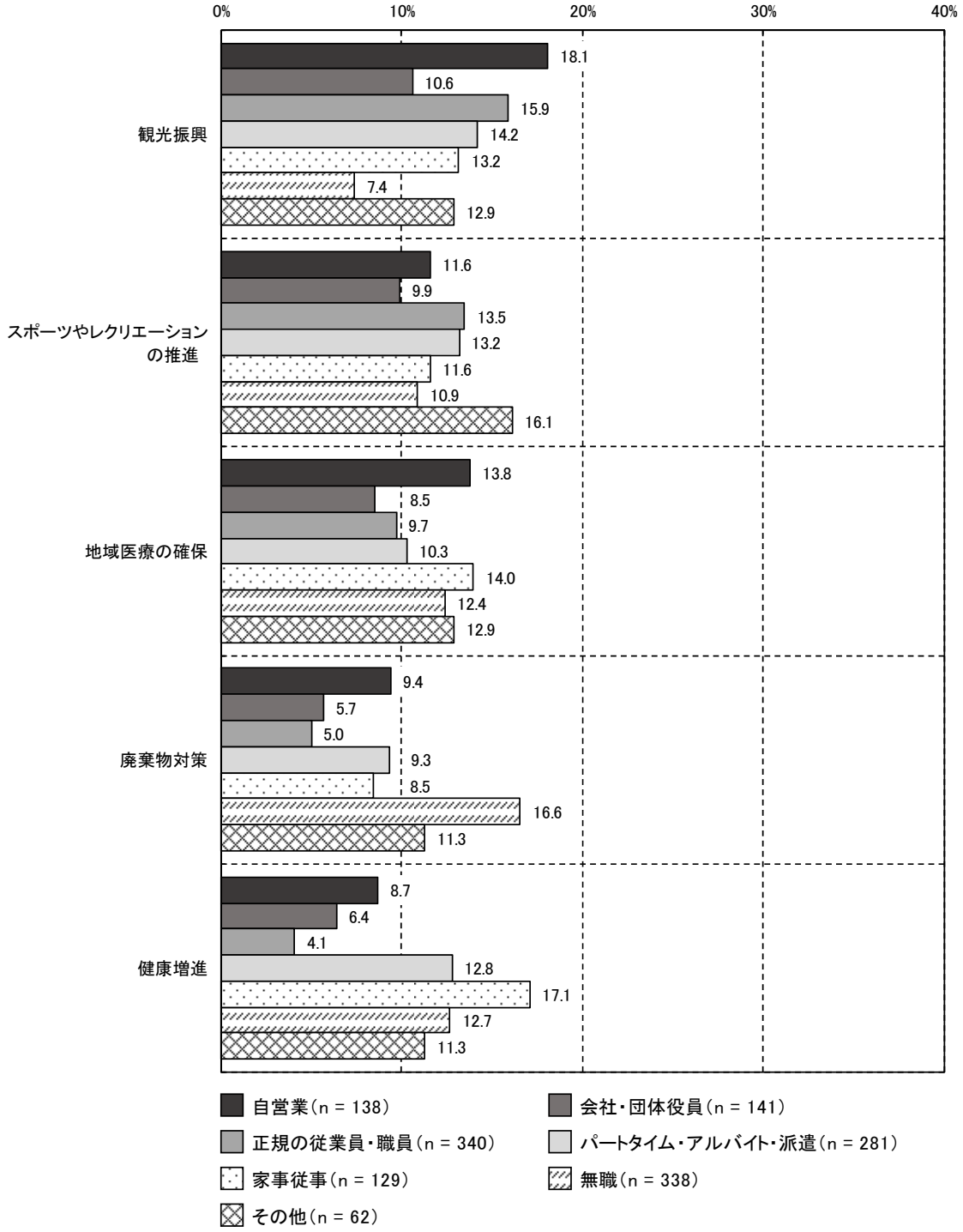
職業別（図 10-6）でみると、家事従事を除くいずれの職業においても「防災対策」が最も高くなっている。家事従事は「子育て支援」が最も高くなっている。

図 10-6 【職業別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）




※ その他には、自由業、学生を含む。

図 10-6 【職業別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）（続き）

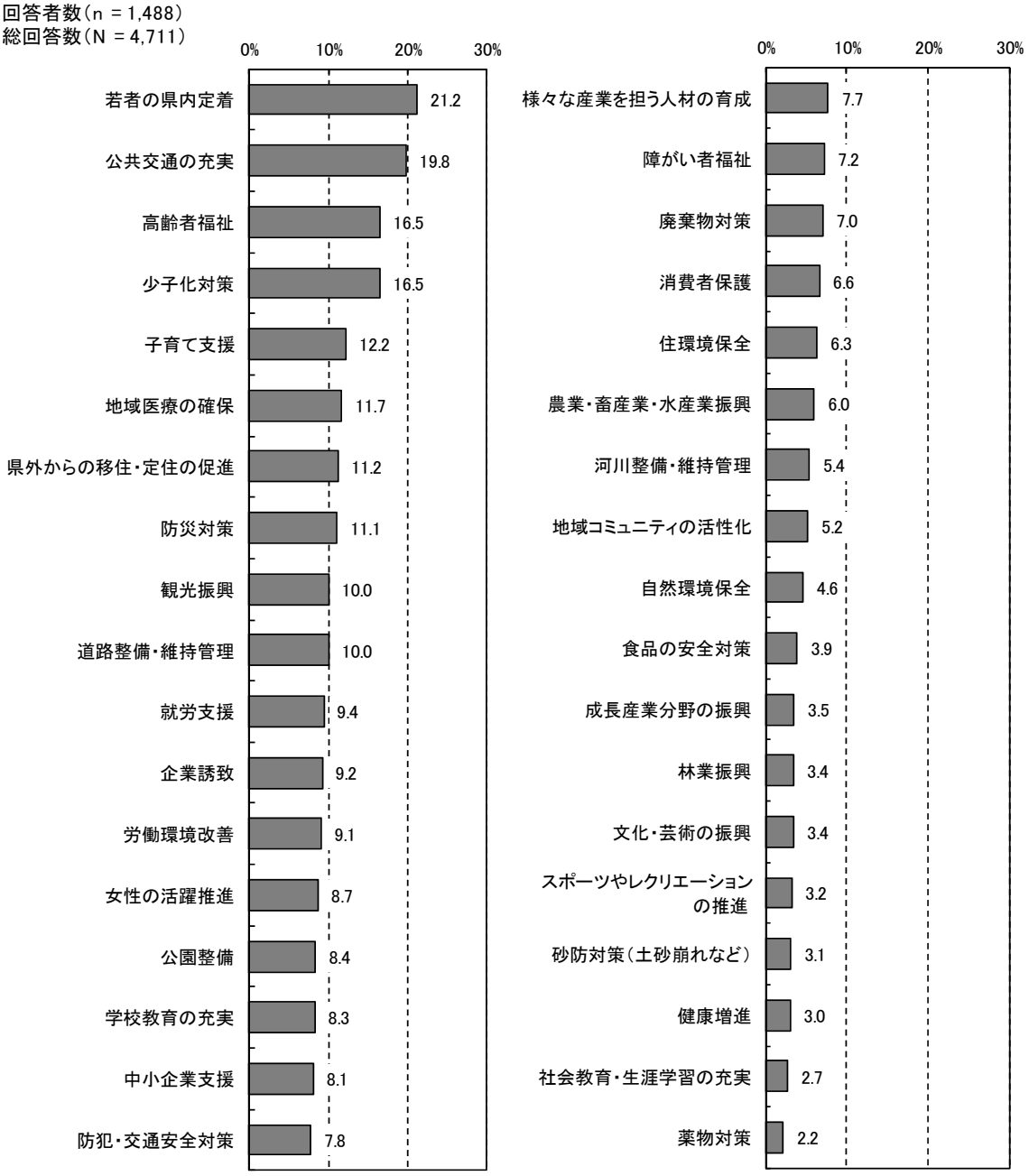



※ その他には、自由業、学生を含む。

【県の取組で努力が足りないと思う分野】

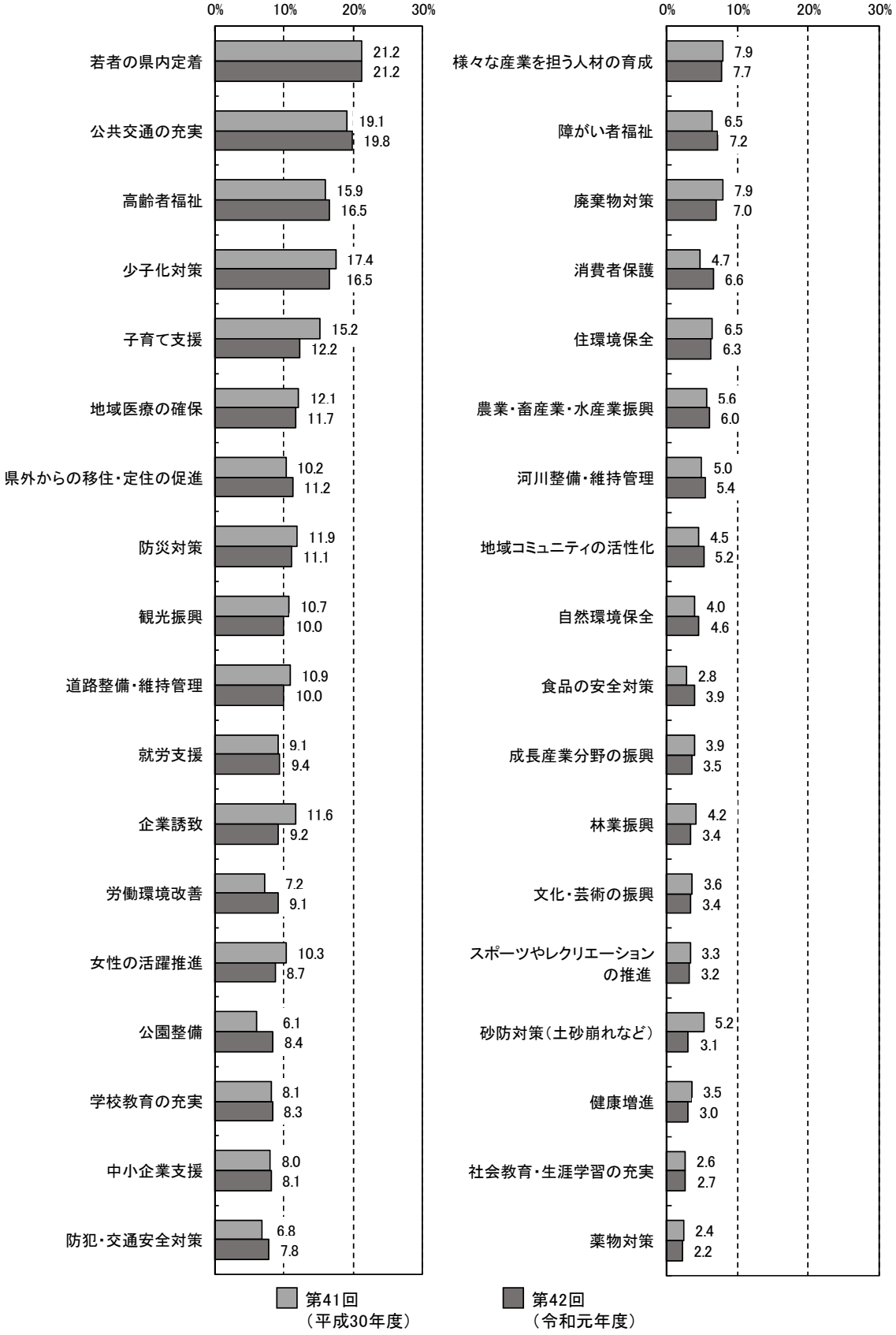
全体（図 10-2-1）でみると、「若者の県内定着」が 21.2%と最も高く、次いで「公共交通の充実」（19.8%）、「高齢者福祉」と「少子化対策」（ともに 16.5%）の順となっている。

図 10-2-1 県の取組で努力が足りないと思う分野



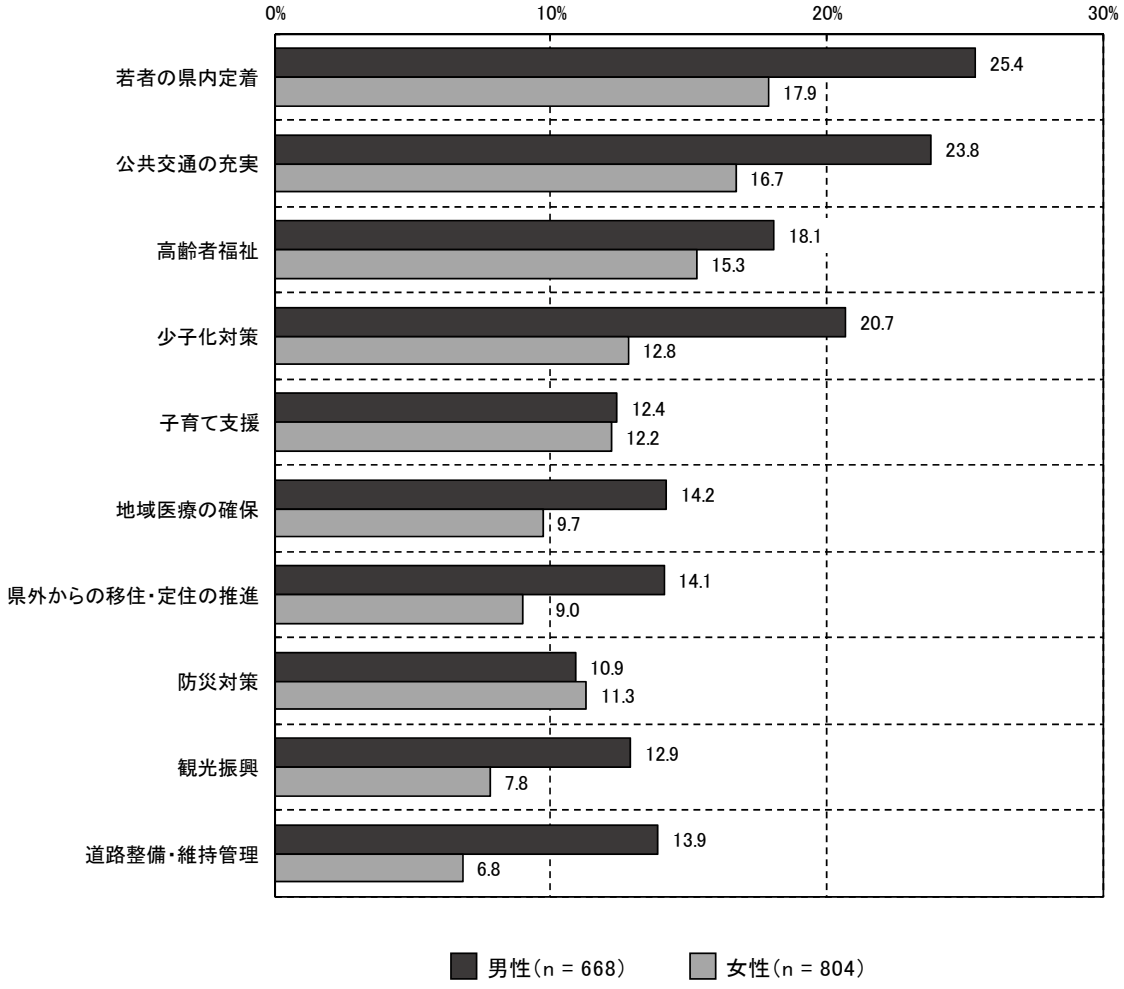
前回比較（図 10-2-2）でみると、前回と同様に「若者の県内定着」が 21.2%と最も高く、次いで「公共交通の充実」（19.8%）となっている。前回第３位の「少子化対策」と前回第４位の「高齢者福祉」が同率（16.5%）で第３位となっている。

図 10-2-2 【前回比較】 県の取組で努力が足りないと思う分野



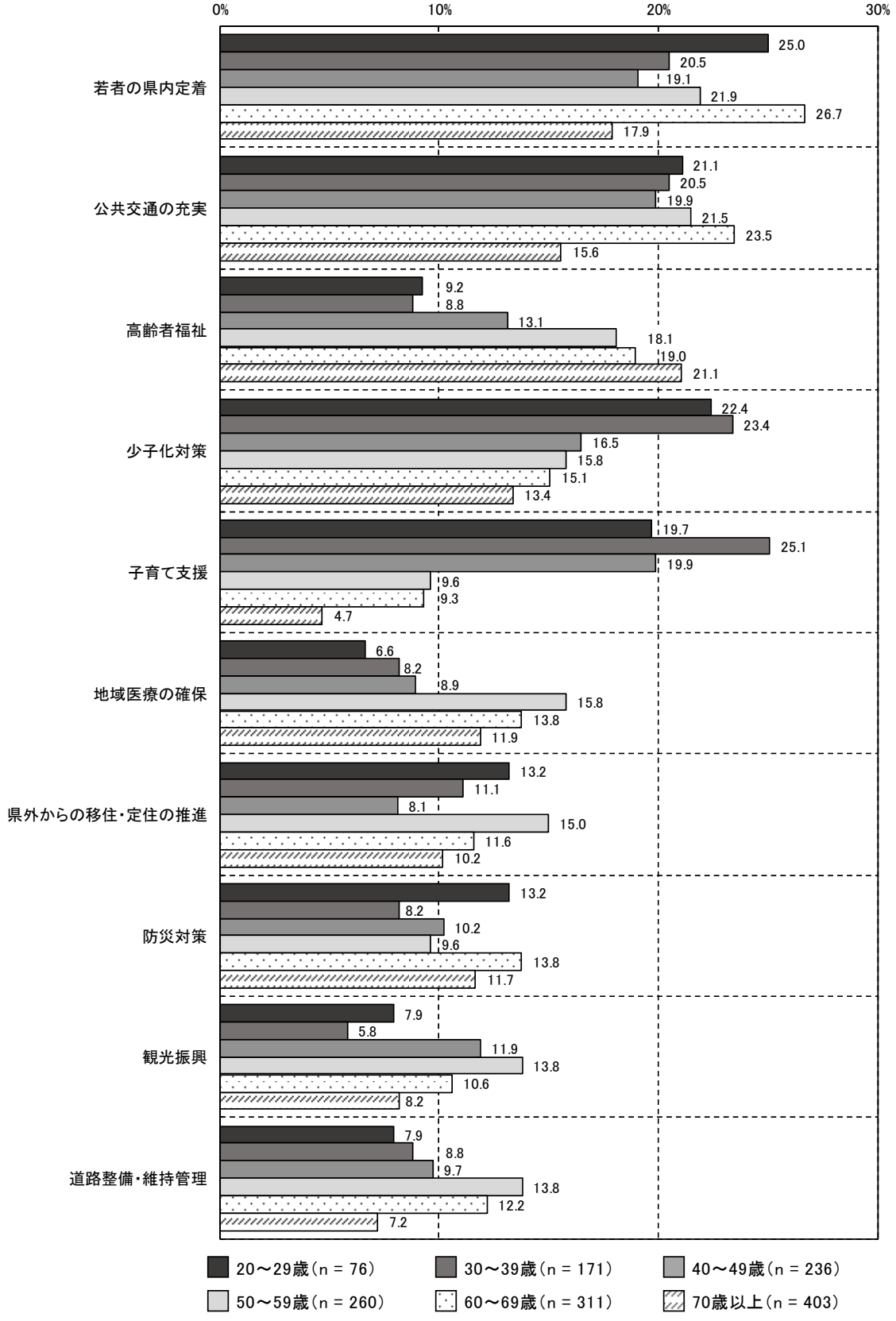
性別（図 10-2-3）でみると、男女ともに「若者の県内定着」が最も高く、次いで「公共交通の充実」となっている。次に、男性では「少子化対策」、女性では「高齢者福祉」が続き、「少子化対策」では男性が女性より 7.9 ポイント高くなっている。

図 10-2-3 【性別】 県の取組で努力が足りないと思う分野（上位 10 施策）



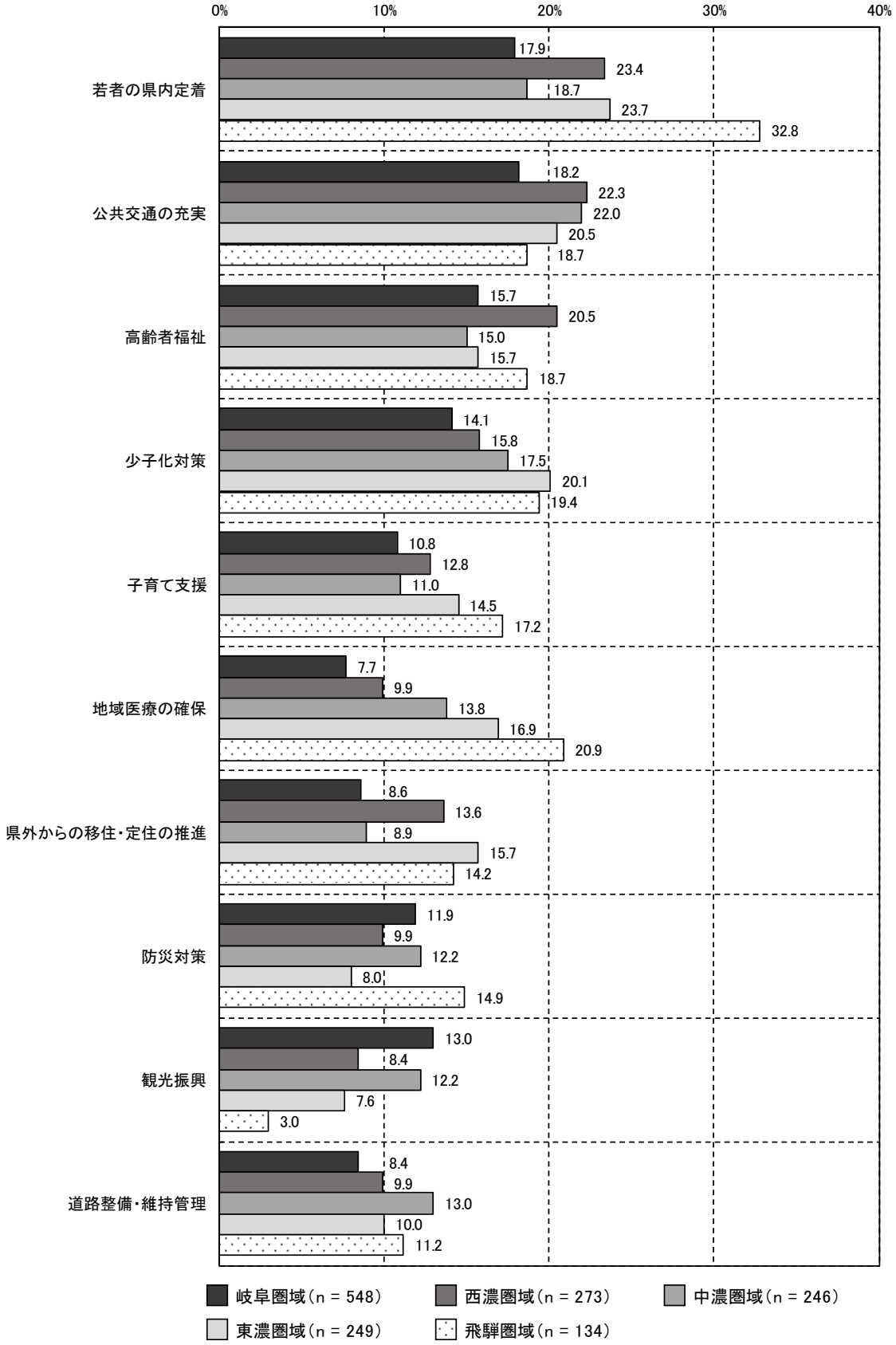
年代別（図 10-2-4）でみると、20 歳代、50 歳代、60 歳代は「若者の県内定着」が最も高く、30 歳代は「子育て支援」（25.1%）が、40 歳代は「公共交通の充実」と「子育て支援」（ともに 19.9%）が、70 歳以上は「高齢者福祉」（21.1%）が最も高くなっている。

図 10-2-4 【年代別】 県の取組で努力が足りないと思う分野（上位 10 施策）



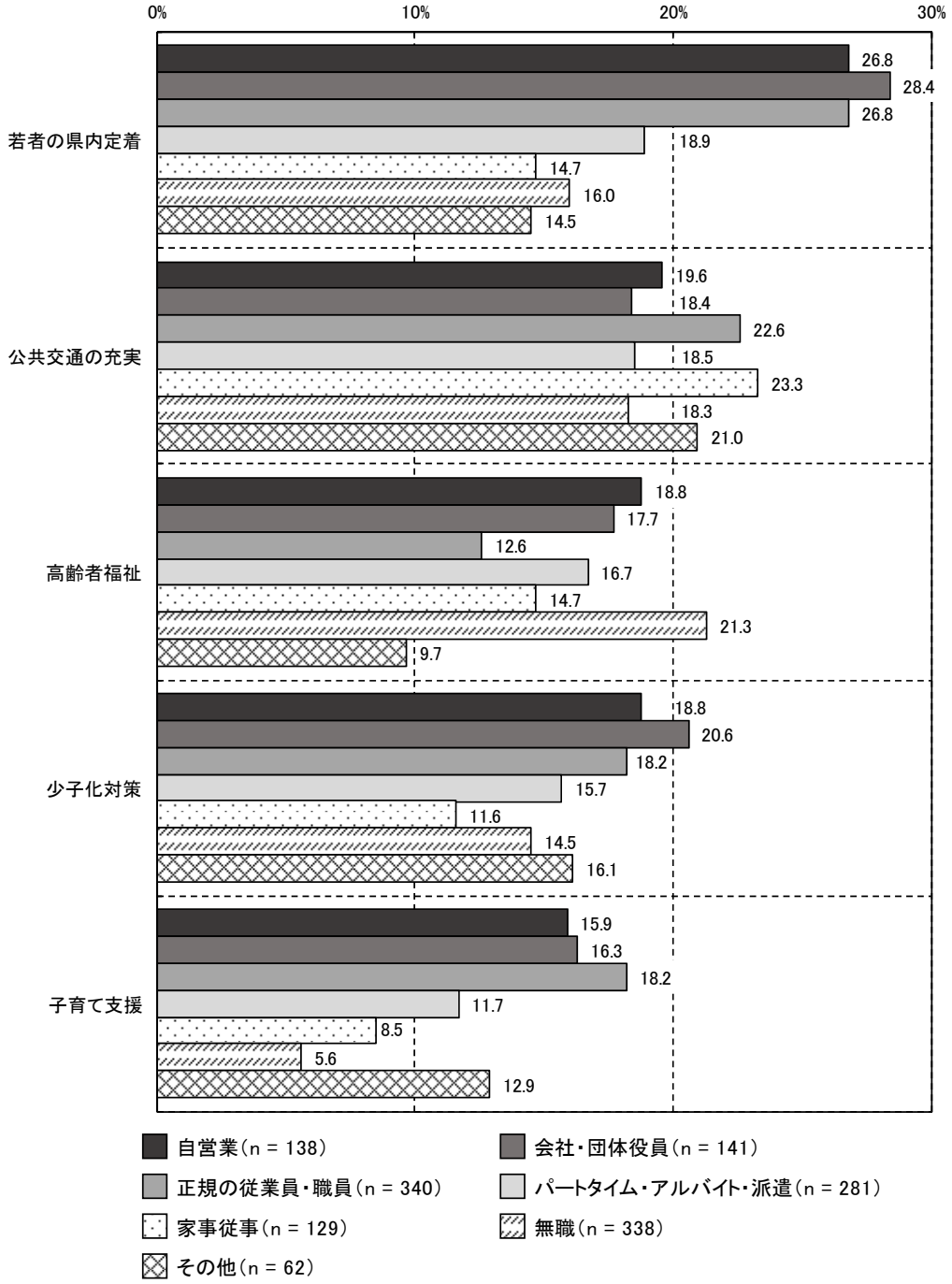
居住圏域別（図 10-2-5）でみると、西濃圏域、東濃圏域、飛騨圏域では「若者の県内定着」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 32.8%と最も高くなっている。岐阜圏域、中濃圏域では「公共交通の充実」が最も高くなっている。

図 10-2-5 【居住圏域別】 県の取組で努力が足りないと思う分野（上位 10 施策）



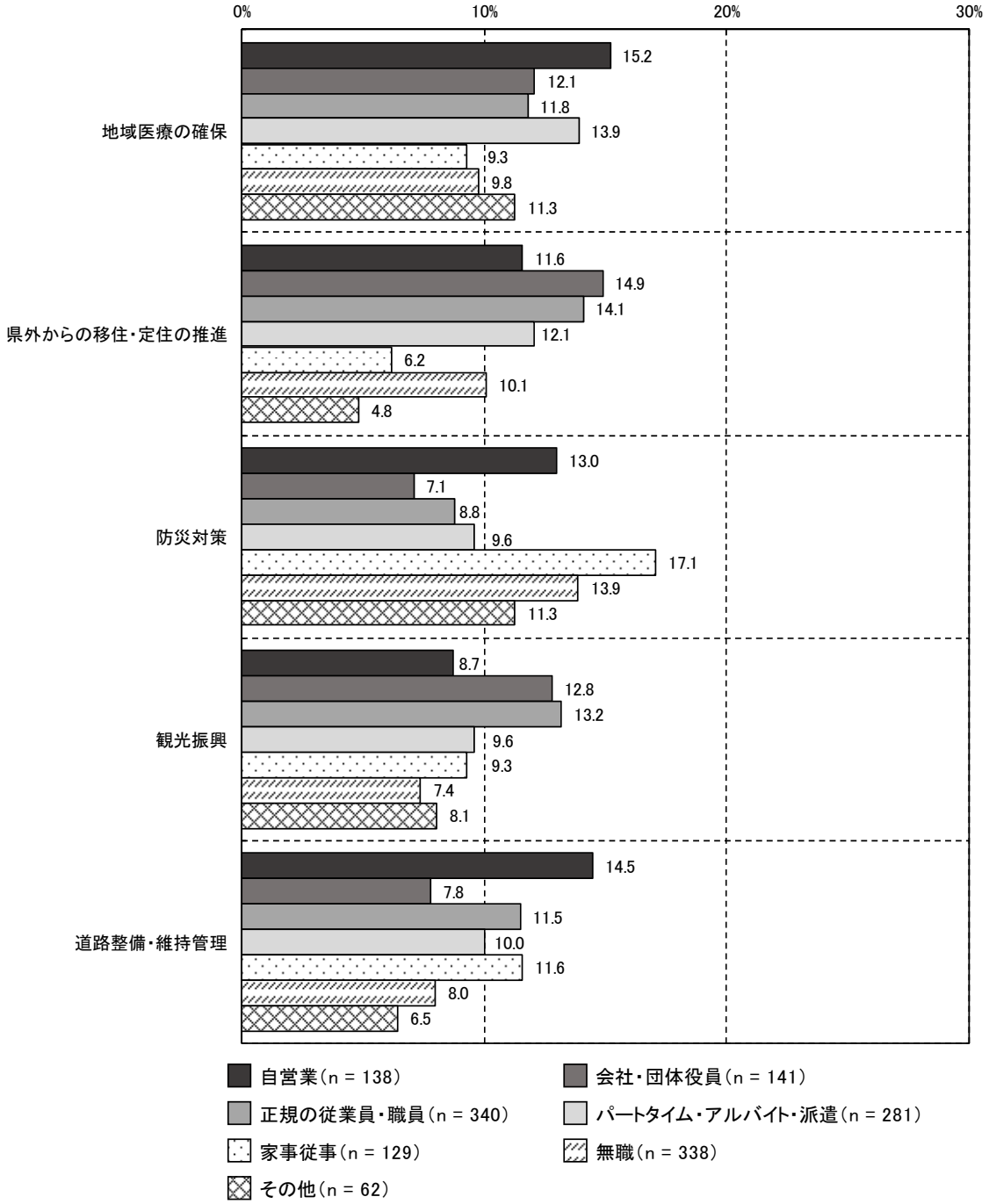
職業別（図 10-2-6）でみると、自営業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣では「若者の県内定着」が最も高く、家事従事、その他では「公共交通の充実」が、無職では「高齢者福祉」（21.3%）が最も高くなっている。

図 10-2-6 【職業別】 県の取組で努力が足りないと思う分野（上位 10 施策）




※ その他には、自由業、学生を含む。

図 10-2-6 【職業別】 県の取組で努力が足りないと思う分野（上位 10 施策）（続き）



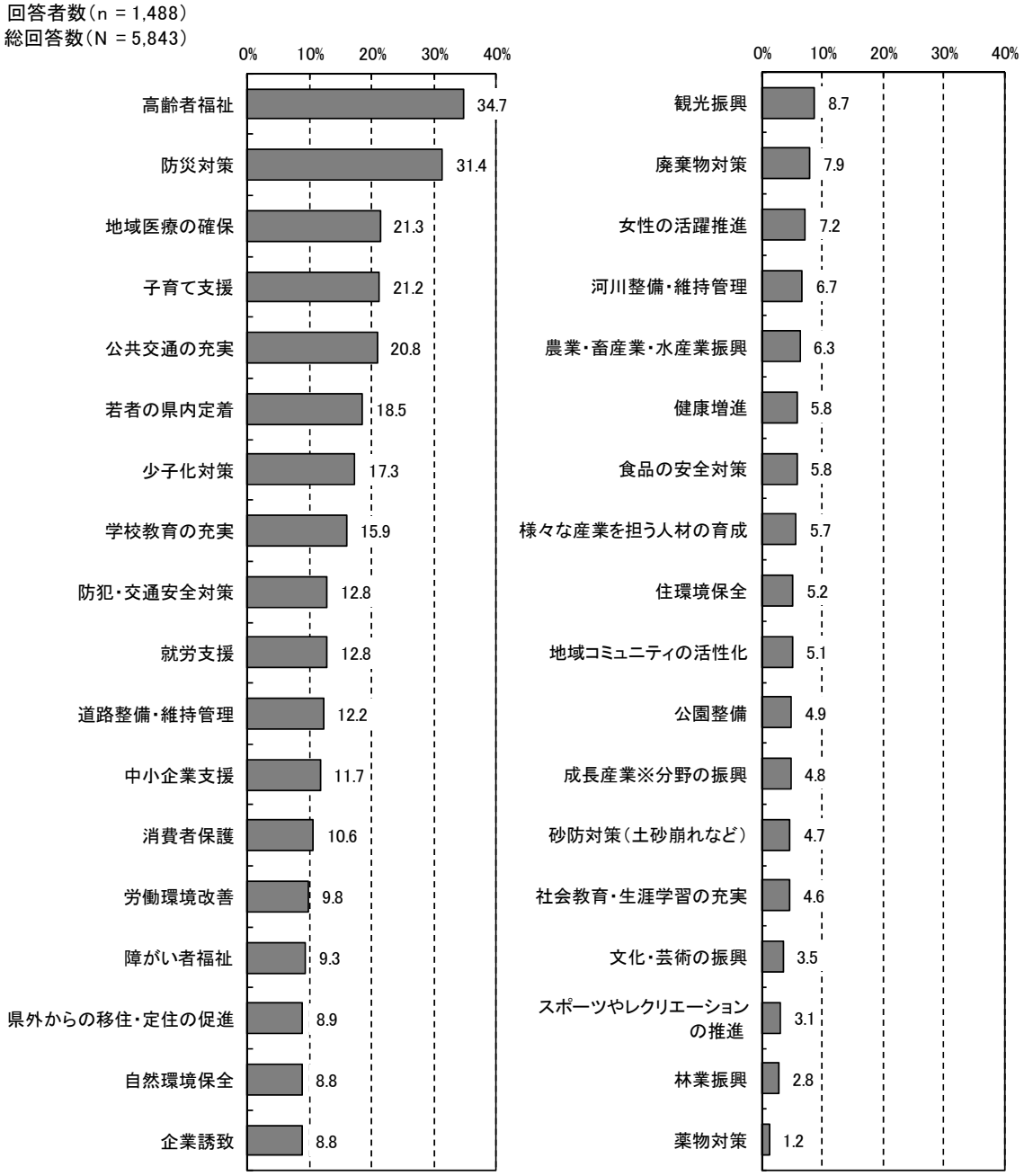

※ その他には、自由業、学生を含む。

## 問１１　重点的に進めるべきだと思う分野

| |
|---|
| 問１１　あなたは、今後、県がどのような分野を重点的に進めるべきだと思いますか。<br>（５つまで） |

全体（図 11-1）でみると、「高齢者福祉」が 34.7％と最も高く、次いで「防災対策」（31.4％）、「地域医療の確保」（21.3％）の順となっている。

図 11-1　重点的に進めるべきだと思う分野

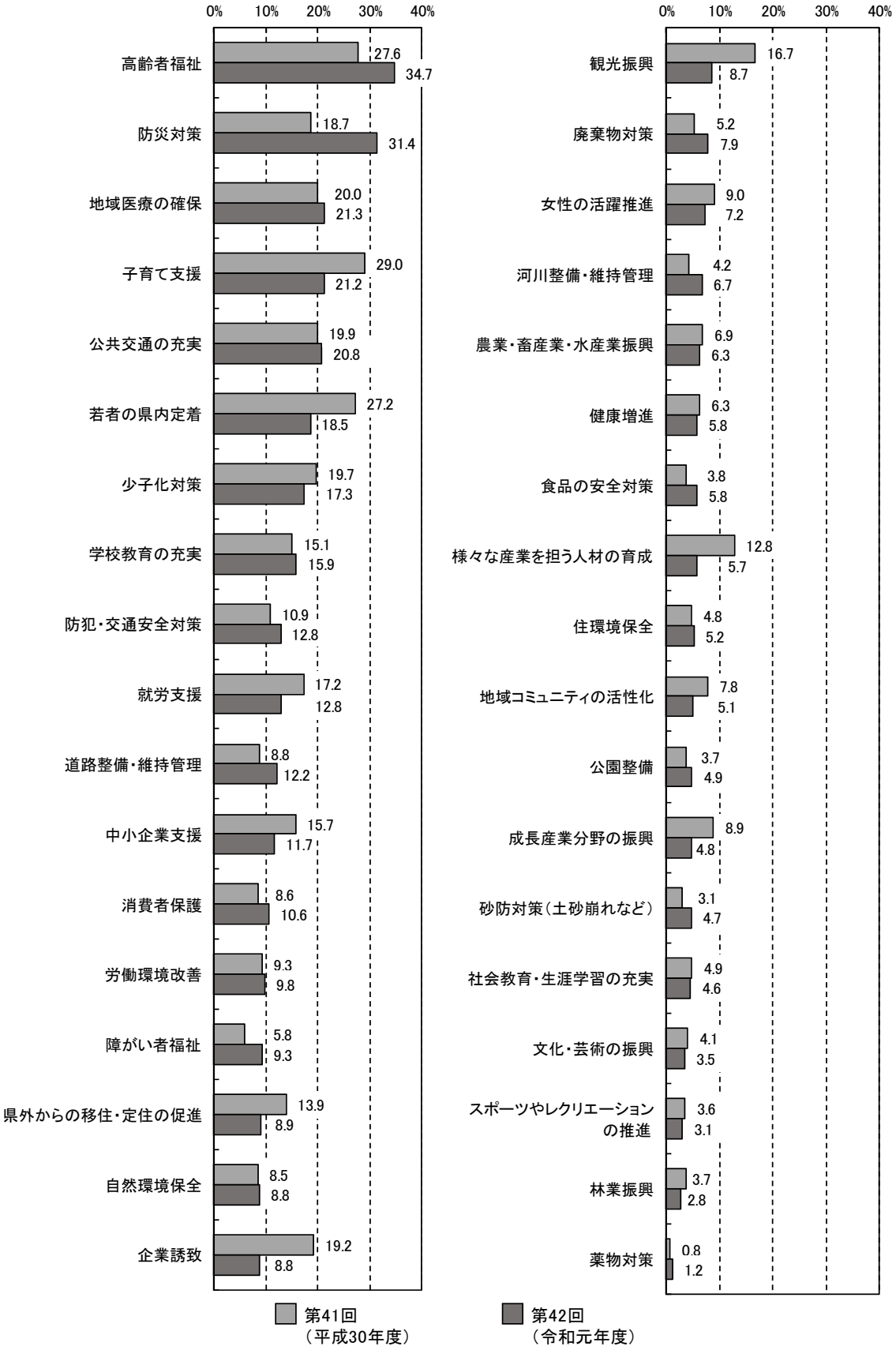



※ 成長産業：岐阜県においては、航空宇宙、医療福祉機器、医薬品、食料品、次世代エネルギーを位置づけている（令和元年度現在）

※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。
・住環境保全：騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全

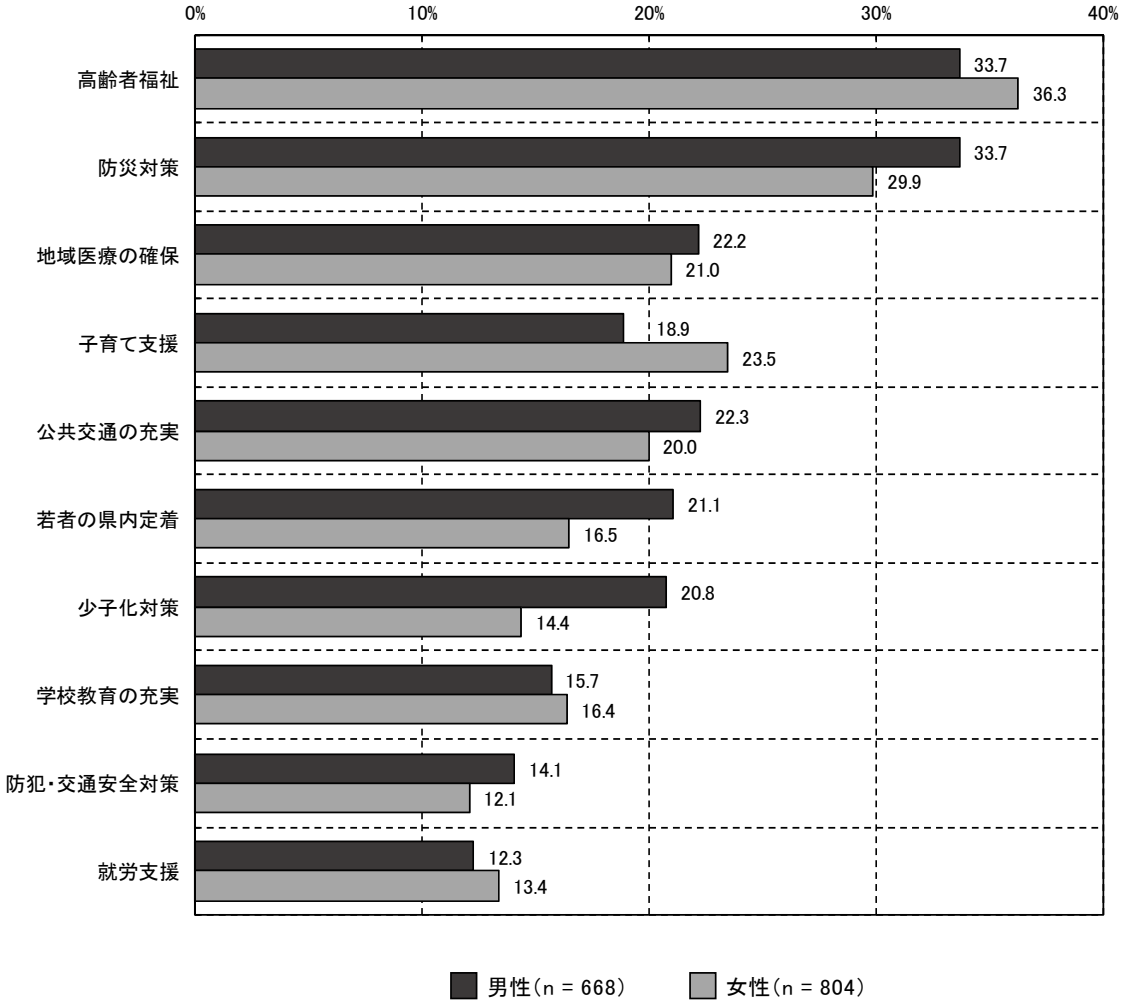
前回比較（図 11-2）でみると、前回第２位の「高齢者福祉」が最も高く、次いで、前回第８位の「防災対策」の順になっている。

図 11-2 【前回比較】 重点的に進めるべきだと思う分野



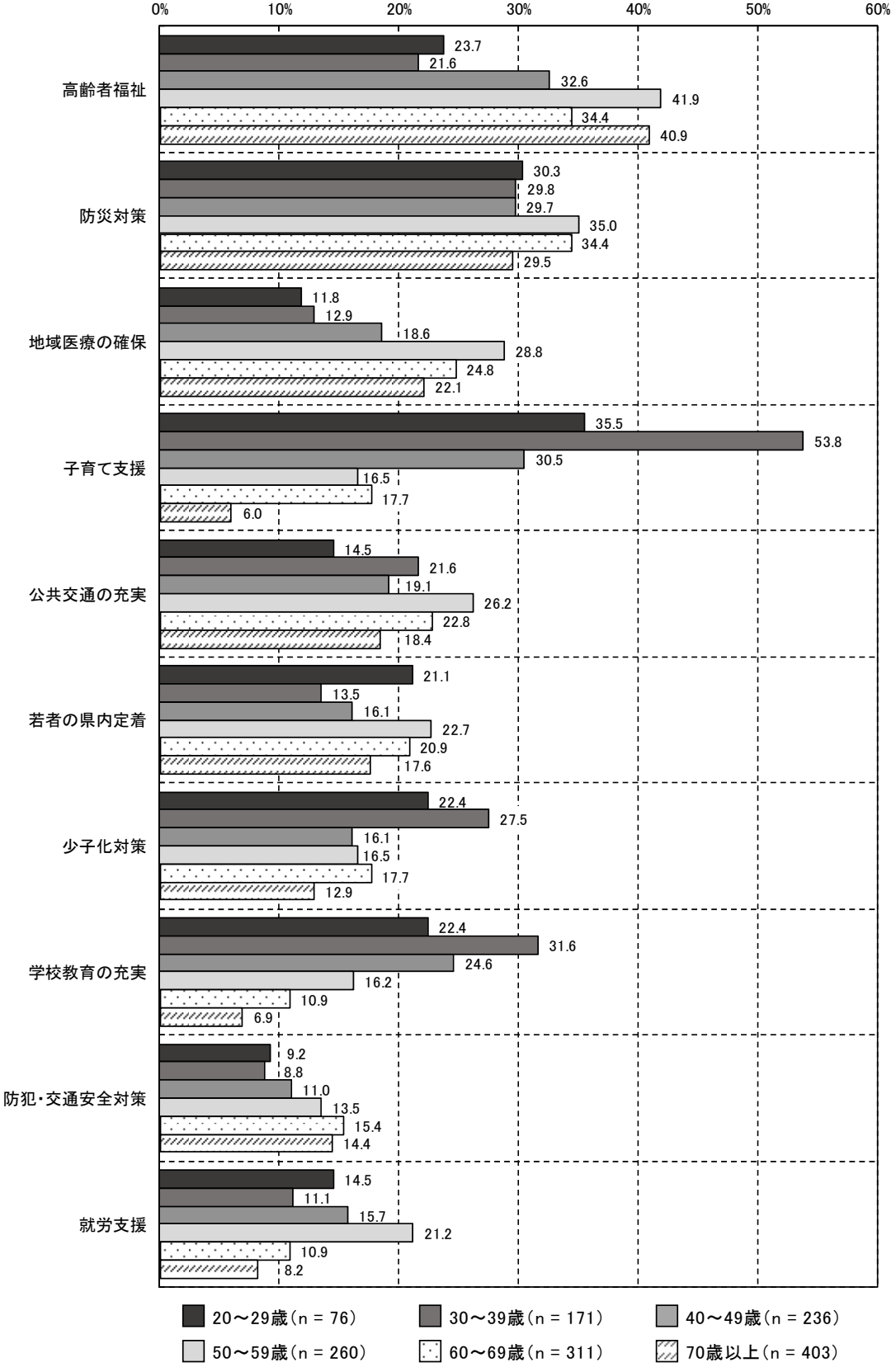
性別（図 11-3）でみると、男女ともに「高齢者福祉」が最も高く（男性は「高齢者福祉」と「防災対策」が同率)、次いで、男性は「公共交通の充実」、女性は「防災対策」、「子育て支援」の順になっている。「少子化対策」では男性が女性より 6.4 ポイント、「子育て支援」では女性が男性より 4.6 ポイント高くなっている。

図 11-3 【性別】 重点的に進めるべきだと思う分野（上位 10 施策）



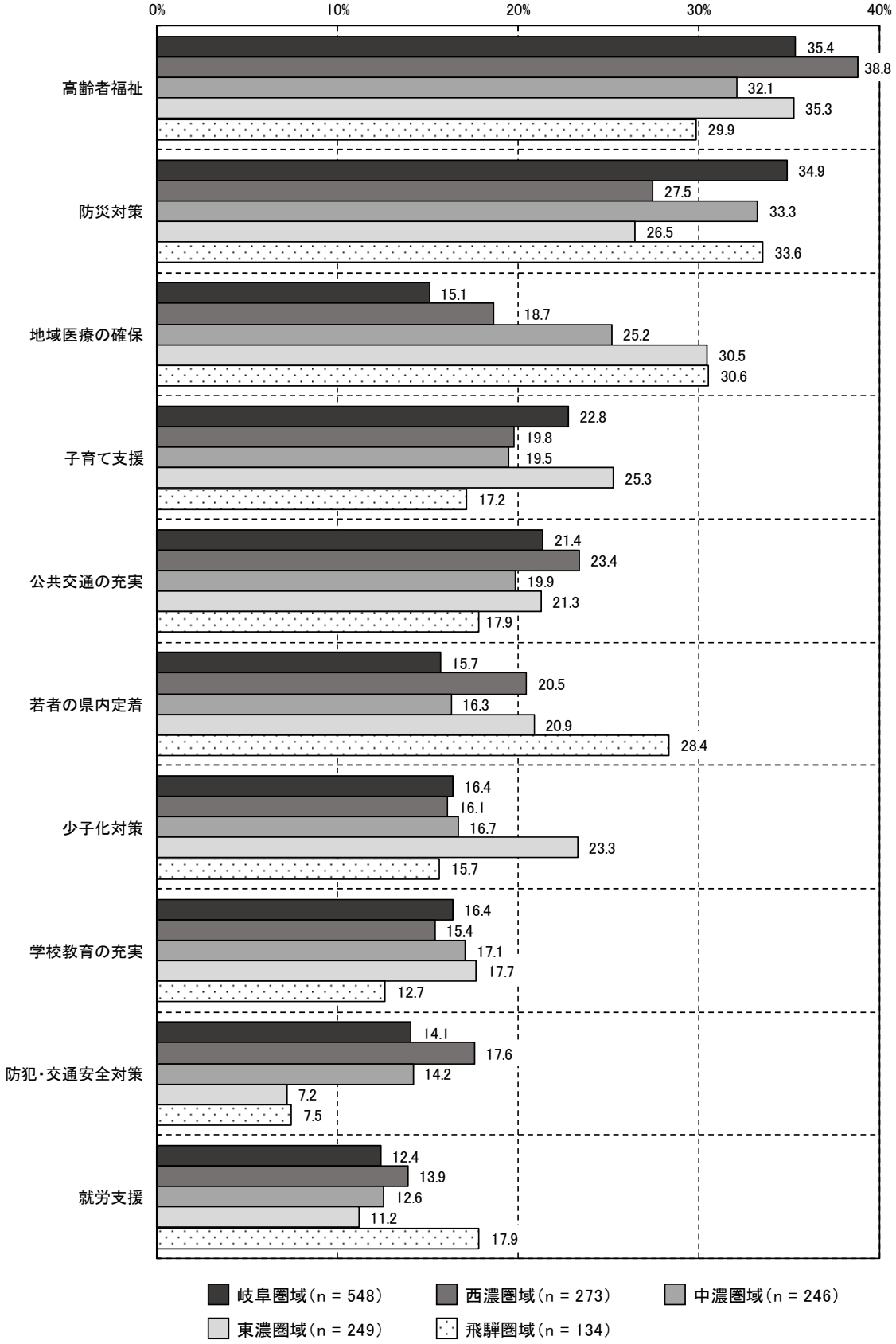
年代別（図 11-4）でみると、20 歳代、30 歳代を除くいずれの年代においても「高齢者福祉」が最も高く（60 歳代は「高齢者福祉」と「防災対策」が同率）、20 歳代、30 歳代は「子育て支援」が最も高くなっている。

図 11-4 【年代別】 重点的に進めるべきだと思う分野（上位 10 施策）



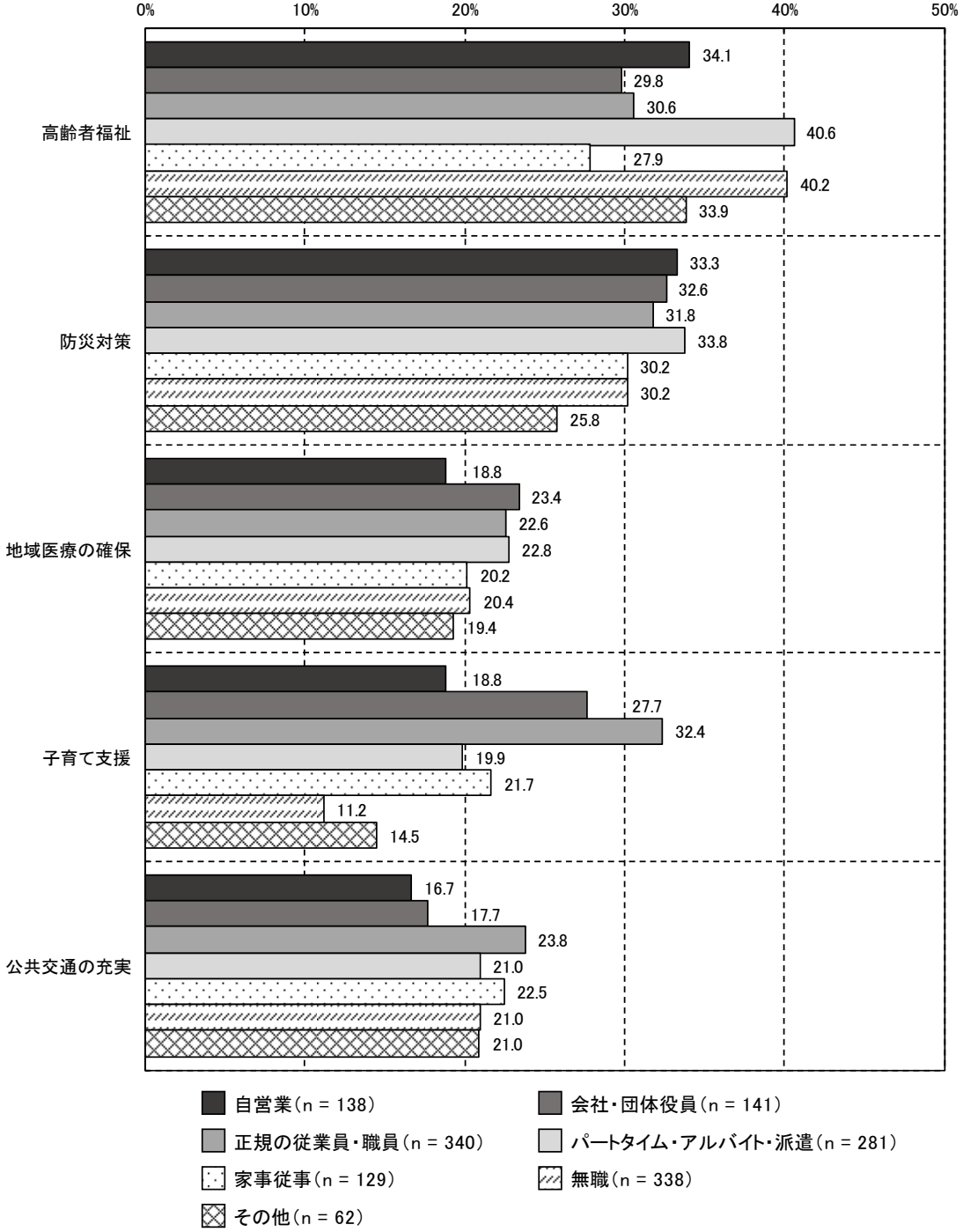
居住圏域別（図 11-5）でみると、岐阜圏域、西濃圏域、東濃圏域では「高齢者福祉」が最も高く、そのうち西濃圏域が 38.8%と最も高くなっている。中濃圏域、飛騨圏域では「防災対策」が最も高くなっている。

図 11-5 【居住圏域別】 重点的に進めるべきだと思う分野（上位 10 施策）



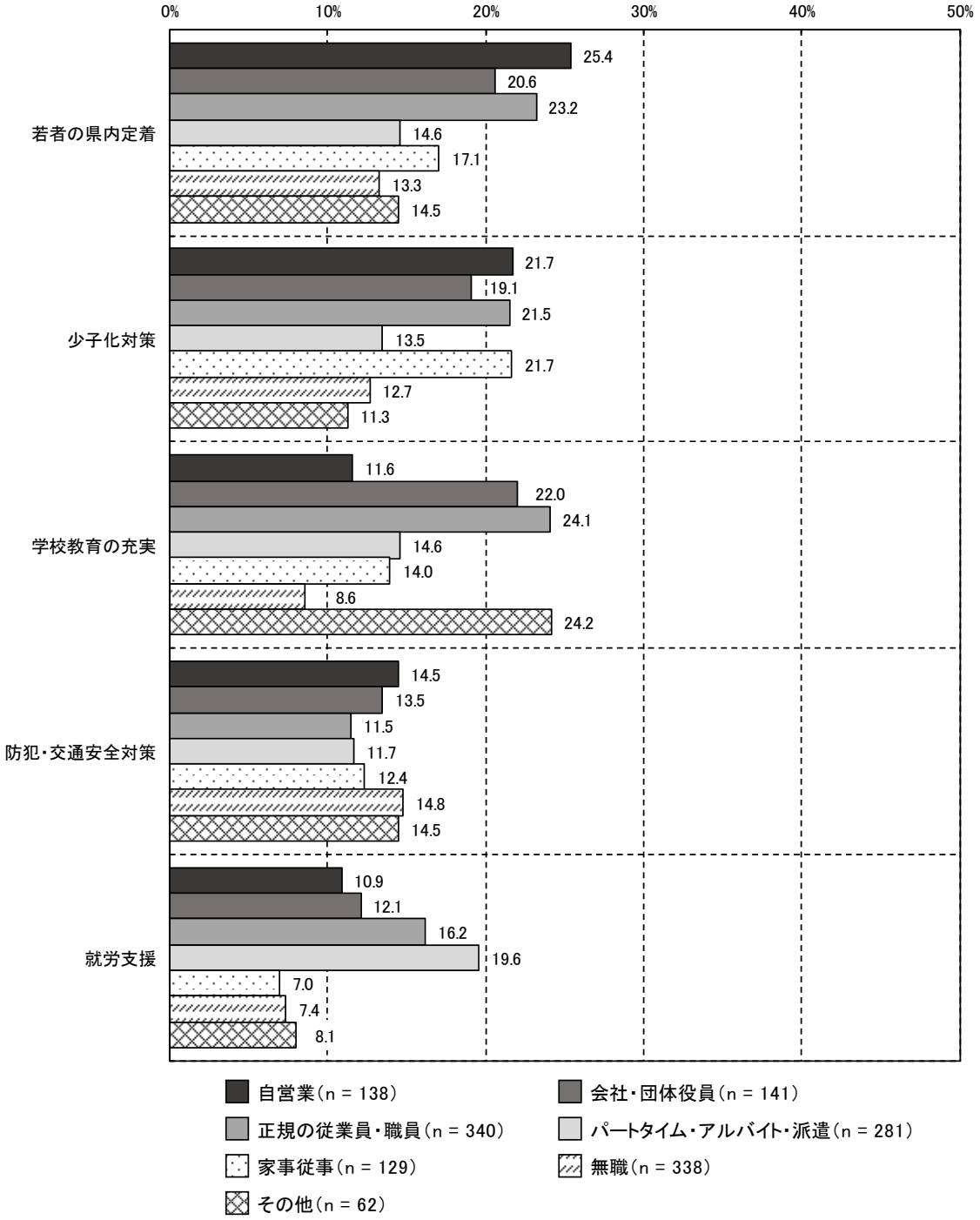
職業別（図 11-6）でみると、自営業、パートタイム・アルバイト・派遣、無職、その他は「高齢者福祉」が最も高く、会社・団体役員、家事従事は「防災対策」が最も高く、正規の従業員・職員は「子育て支援」が最も高くなっている。

図 11-6 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野（上位 10 施策）




※ その他には、自由業、学生を含む。

図 11-6 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野 （続き）




※ その他には、自由業、学生を含む。